PC98-NX

LL800R・LL700R

活用ガイド
ハードウェア編

本機の機能

周辺機器を使う

システムの設定

このパソコンには、次のマニュアルが用意されています。

●『はじめにお読みください』
添付品の確認やWindowsのセットアップ手順について説明しています。
- 添付品の確認
- Windowsのセットアップ
- マニュアル紹介

●『活用ガイド ハードウェア編』
このパソコンの取り扱い方法などを説明しています。
- キーボード、ハードディスク、CD-ROMドライブなどの取り扱い
- 周辺機器の接続と利用方法
- システム設定について

●『活用ガイド ソフトウェア編』
アプリケーションの利用方法、追加と削除の方法について説明しています。また、さまざまなトラブルへの対応方法をQ&A形式で説明しています。
- アプリケーションの利用方法
- トラブル解決Q&A

●『活用ガイド 再セットアップ編』
このパソコンを再セットアップする場合の方法について説明しています。
- 再セットアップの方法

このマニュアルは、パソコンの取り扱い方法について説明するものです。

周辺機器やオプションを接続してパソコンを拡張する場合、パソコンの設定を変更する場合などに、このマニュアルをご利用ください。

2001年　5月　初版

対象機種

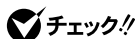
LL800R/74DH、LL700R/73DH、LL700R/74DR、LL700R/73AR

853-810028-135-A

このマニュアルの表記について

◆このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。

⚠警告	注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。
⚠注意	注意事項を守っていただけない場合、人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみの発生が想定されることを示します。
	注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、毒物注意、破裂注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。

◆このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります。

	してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。
	パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。
	利用の参考となる補足的な情報をまとめています。
	マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

◆このマニュアルで使用している表記の意味

LAN内蔵モデル	LANインターフェイスを内蔵しているモデルのことです。
14.1型モデル	14.1型の液晶ディスプレイを搭載しているモデルのことです。
13.3型モデル	13.3型の液晶ディスプレイを搭載しているモデルのことです。
CD-R/RWモデル	CD-R/RWドライブを内蔵しているモデルのことです。
CD-R/RW with DVD-ROMモデル	CD-R/RW with DVD-ROMドライブを内蔵しているモデルのことです。
【 】	【 】で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。
「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「メモ帳」	「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「プログラム」を選択し、横に現れるサブメニューから「アクセサリ」→「メモ帳」を順に選択する操作を指します。
「コントロールパネル」を開く	「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」をクリックする操作を指します。 「コントロールパネル」の画面に操作したいアイコンが表示されていない場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてアイコンを表示させてください。

◆LaVie Gシリーズについて

LaVie Gシリーズの各モデルについては、添付の『LaVie Gシリーズをご購入されたお客様へ』をご覧ください。

◆このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows、Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
インターネットエクスプローラ	Microsoft® Internet Explorer 5.5
MS-IME2002	Microsoft® IME 2002
MS-IME2000	Microsoft® IME 2000

◆このマニュアルで使用しているイラストと画面

・本機のイラストや記載の画面は、モデルによって異なることがあります。

・本書に記載の画面は、実際の画面とは多少異なることがあります。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク(ロゴ)は参加各国の間で統一されています。

■技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第50条第1項の規定に基づく技術基準等適合認定を受けています。申請回線と認定番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

対象機種	モデル	電話回線
LL800R、LL700R、 LG10N、LG80R	FAXモデム内蔵モデル LAN内蔵モデル	A01-0285JP

■電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン業界基準(PC-11-1988)に適合しております。

■瞬時電圧低下について

[バッテリパックを取り付けていない場合]

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

[バッテリパックを取り付けている場合]

本装置にバッテリパック実装時は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインを満足しますが、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

■レーザ安全基準について

本機には、レーザに関する安全基準(JIS・C-6802、IEC825)クラス1適合のCD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブのいずれかが内蔵されています。

ご注意

(1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
(2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
(3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBIT-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
(4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
(5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
(6) 海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりませんので、ご承知ください。
(7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているMicrosoft® Windows® Meは本機でのみご使用ください。また、本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでしかご利用になれません(詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください)。
(8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
(9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、OutlookおよびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
AMD、AMDロゴ、AMD Duron、3DNow!、AMD Athlon、ならびにその組み合わせ、AMD PowerNow!は、Advanced Micro Devices,Inc.の商標または登録商標です。
Hayesは、米国Hayes Microcomputer Productsの登録商標です。
MNPは、Microcom,Inc.の登録商標です。
PS/2はIBM社が所有している商標です。
AdaptecおよびAdaptec社のロゴは、Adaptec, Inc.の登録商標です。
Easy CD Creator、DirectCDは、Adaptec, Inc.の商標です。
cdmaOneは、CDGの登録商標です。
SymantecおよびpcAnywhereは、Symantec Corporationの米国における登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

©NEC Corporation 2001
日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

■ **輸出に関する注意事項**

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。
本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。
また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等は行っていません。

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。
必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。
輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせ下さい。

■ **Notes on export**

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.NEC will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.NEC does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law.Export without necessary permit is punishable under the said law.Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

目　次

PART 1

PART 2

PART

1

本機の機能

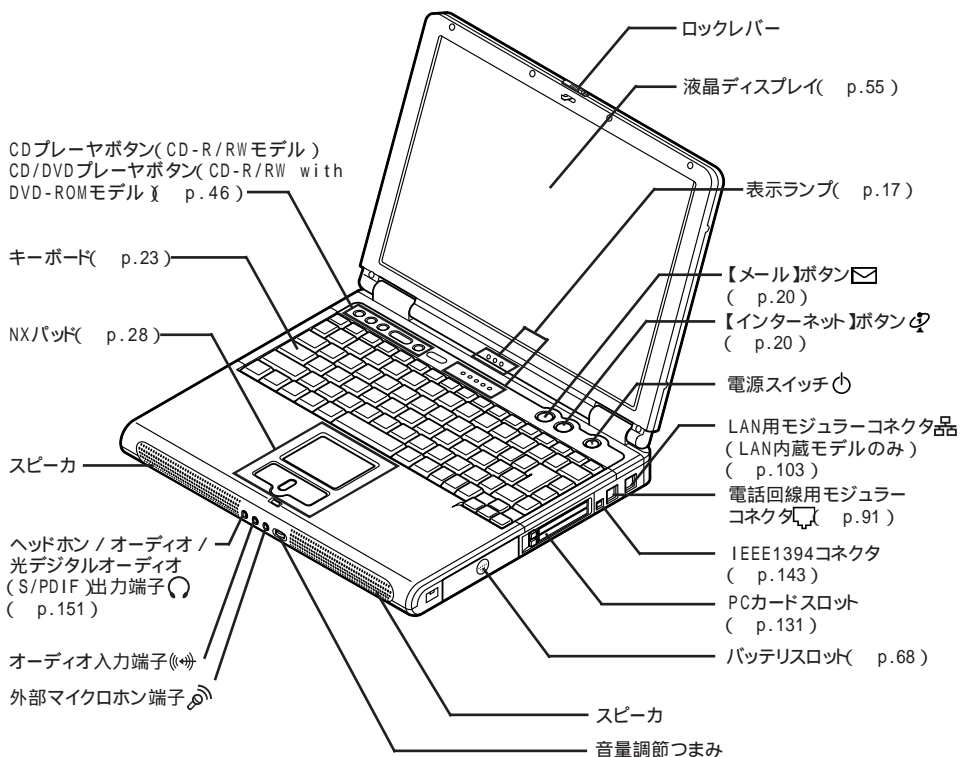
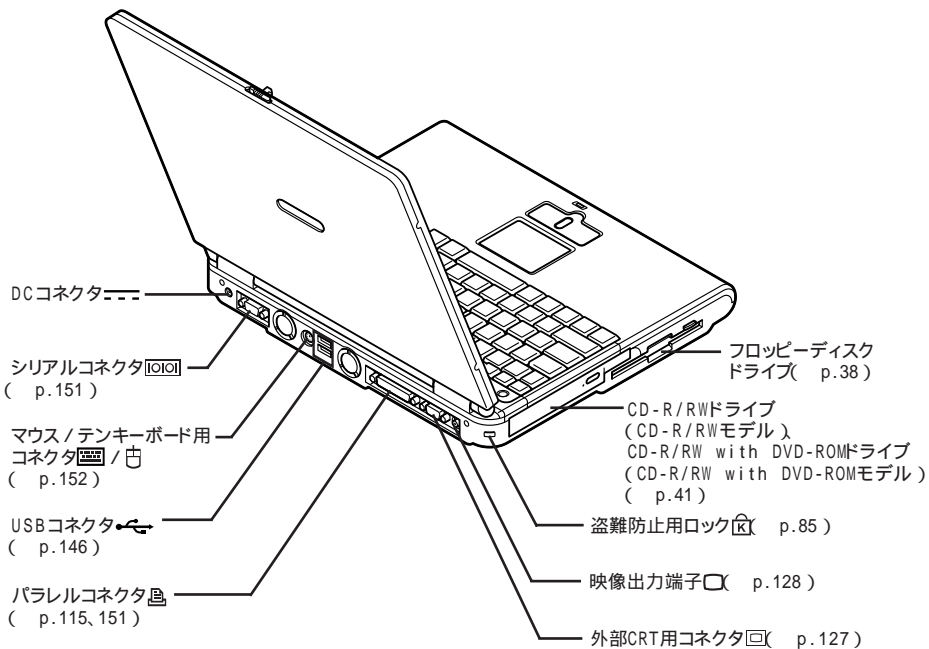
本機の各部の名称といろいろな機能について説明しています。

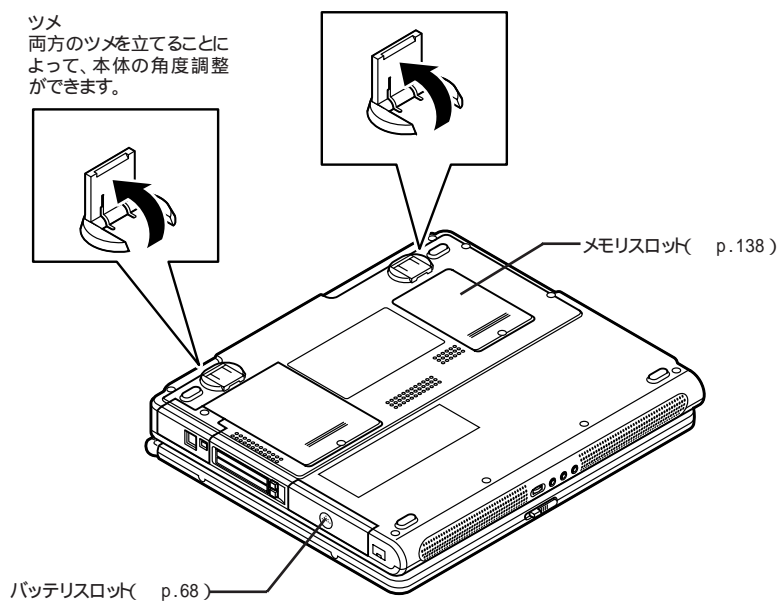
各部の名称

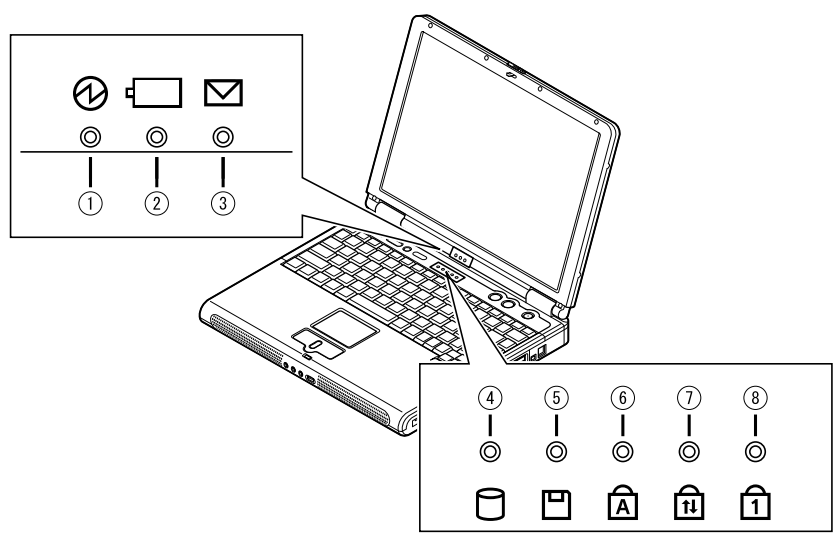
本機の各部の名称と配置について説明しています。それぞれの機能や取り扱い方については、参照ページをご覧ください。

本体前面／右側面

本体背面／左側面

DCコネクタ
シリアルコネクタ
(→p.151)
マウス／テンキーボード用
コネクタ
(→p.152)
USBコネクタ
(→p.146)
パラレルコネクタ
(→p.115、151)
フロッピーディスク
ドライブ(→p.38)
CD-R/RWドライブ
(CD-R/RWモデル)、
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ
(CD-R/RW with DVD-ROMモデル)
(→p.41)
盗難防止用ロック(→p.85)
映像出力端子(→p.128)
外部CRT用コネクタ(→p.127)

本体底面

ツメ
両方のツメを立てることに
よって、本体の角度調整
ができます。
メモリスロット（→p.138）
バッテリスロット（→p.68）

表示ランプ

表示ランプの名称と役割

①電源ランプ（）

ランプ		状態
緑	点灯	電源が入っている
	点滅	スタンバイ状態
黄色	点灯	バッテリ容量が少ない
	点滅	スタンバイ状態でバッテリ容量が少ない
オレンジ	点灯	バッテリ容量が残りわずか
	点滅	スタンバイ状態でバッテリ容量が残りわずか
消灯		電源が切れている、または休止状態

②バッテリ充電ランプ（）

ランプ		状態
オレンジ	点灯	バッテリ充電中
	点滅	バッテリのエラー※
消灯		ACアダプタが接続されていない、または充電完了

※：バッテリを取り付けなおしてもエラーが出るときは、バッテリリフレッシュを行ってください（→p.65）。

③メール着信ランプ（）

ランプ	状態
緑点灯	メール着信あり
消灯	メール着信なし

④アクセスランプ（）

ランプ	状態
緑点灯	ハードディスクやCD-ROMなどのディスクにアクセス中
消灯	ハードディスクやCD-ROMなどのディスクにアクセスしていない

⑤フロッピーディスクアクセスランプ（）

ランプ	状態
緑点灯	アクセス中
消灯	アクセスしていない

⑥キャップスロックキーランプ（）

ランプ	状態
緑点灯	【Caps Lock】がロックされている 英字を入力すると大文字になります。
消灯	【Caps Lock】がロックされていない 英字を入力すると小文字になります。

⑦スクロールロックキーランプ（）

ランプ	状態
緑点灯	【Scr Lock】がロックされている
消灯	【Scr Lock】がロックされていない

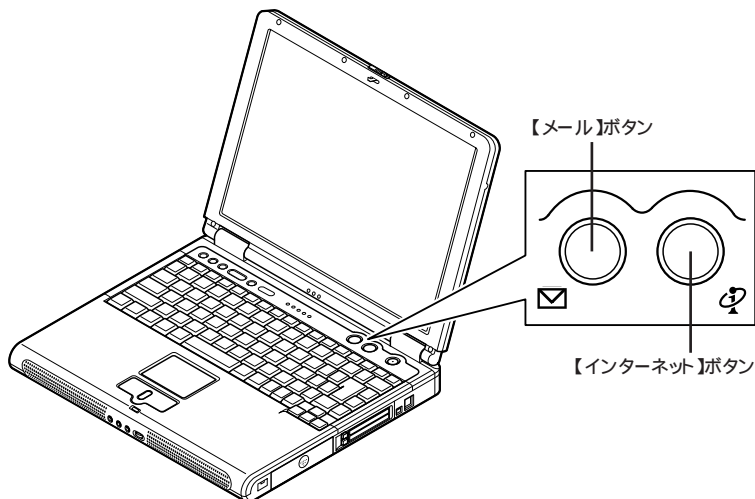
⑧ニューメリックロックキーランプ（[1]）

ランプ	状態
緑点灯	【Num Lock】がロックされている キーを押すとキー前面の文字が入力されます。
消灯	【Num Lock】がロックされていない キーを押すとキー上面の文字が入力されます。

ワンタッチスタートボタン

ワンタッチスタートボタンを使うと、ボタンを押すだけで、あらかじめ設定したアプリケーションを起動することができます。

ワンタッチスタートボタンを使う

本機には次のワンタッチスタートボタンがあります。

チェック!! セーフモードなど、Windowsのキーボードドライバが動作しない状態では、ワンタッチスタートボタンの機能は使えません。

◎【インターネット】ボタン、【メール】ボタン

【インターネット】ボタン、【メール】ボタンを押すと、すぐにアプリケーションを起動するように設定できます。
購入時は、それぞれのボタンを押すと、「インターネット接続ウィザード」が起動します。

起動するアプリケーションを変更したい場合は、「ワンタッチ スタートボタンの設定」で行います。

ワンタッチスタートボタンの設定を変更する

「ワンタッチスタートボタンの設定」では、どのアプリケーションをワンタッチスタートボタンで起動させるかを設定できます。

ワンタッチスタートボタンでは、アプリケーションを「同時」または「順次」に起動することもできます。「同時」は、ひとつのボタンに複数のアプリケーションを割り当てて一度に起動する方法です。「順次」は、はじめに登録したアプリケーションを終了すると次のアプリケーションが順次起動する方法です。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」→「ワンタッチスタートボタンの設定」をクリックする

「ワンタッチスタートボタンの設定」画面が表示されます。

インジケータ領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリックして起動することもできます。

参照 **ワンタッチスタートボタンの設定→「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」**

「ワンタッチ スタートボタンの設定 ヘルプ」は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」→「ワンタッチ スタートボタンの設定 ヘルプ」をクリックすると表示できます。

◎ アプリケーションを割り当てる

ここでは、例として【メール】ボタンに「メモ帳」を割り当てる方法を説明します。

チェック!! **ショートカット(拡張子が.lnkのファイル)で、プロパティの「ショートカット」タブの「リンク先」に何も表示されていないファイルは、ワンタッチスタートボタンに登録してもショートカットが実行されません。**
登録後正常に実行されない場合は、そのショートカットを右クリックし、プロパティの内容を確認してください。

1 「ワンタッチスタートボタンの設定」を起動する

2 「ボタン設定」タブをクリックする

3 「ボタン1」の下の単独をクリックする

4 「スタートメニュー」タブをクリックする

5 「プログラム」フォルダをダブルクリックする

6 「アクセサリ」フォルダをダブルクリックする

7 「メモ帳.lnk」を「プログラム1」ボックスにドラッグ&ドロップする
ボタン名称が「メモ帳」と表示されます。

8 「OK」ボタンをクリックする

9 「OK」ボタンをクリックする

10 「はい」ボタンをクリックする

◎ ワンタッチスタートボタンの有効／無効を切り替える

次の操作でワンタッチスタートボタンの有効／無効を切り替えることができます。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」で、「ワンタッチスタートボタンを無効にする」または「ワンタッチスタートボタンを有効にする」をクリックする
ワンタッチスタートボタンが無効の状態のときは「ワンタッチスタートボタンを有効にする」が表示され、有効の状態のときは「ワンタッチスタートボタンを無効にする」が表示されています。

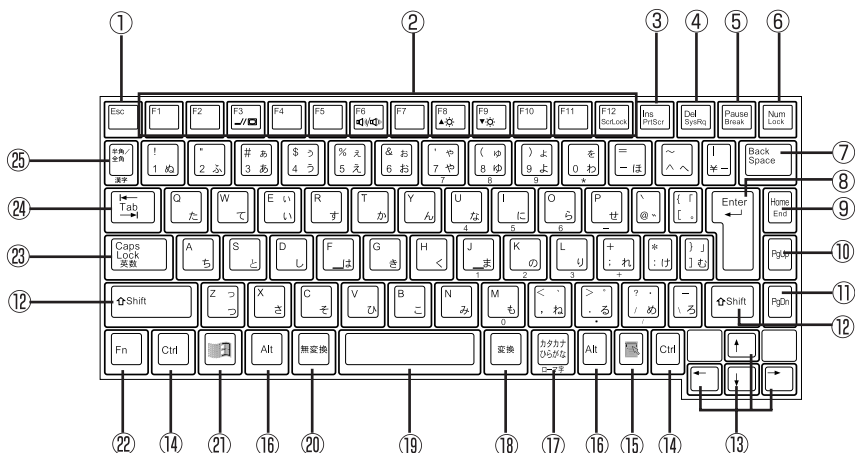
2 ワンタッチスタートボタンを有効または無効にするメッセージが表示されたら「はい」ボタンをクリックする

3 再起動を促すメッセージが表示されたら「はい」ボタンをクリックする
本機が再起動します。

再起動後、ワンタッチスタートボタンの有効／無効が切り替わります。

キーボード

キーボードの基本的な使い方を説明します。

キーの名称

① 【Esc】: エスケープキー
② 【F1】～【F12】: ファンクションキー
③ 【Ins】: インサートキー
④ 【Del】: デリートキー
⑤ 【Pause】: ポーズキー
⑥ 【Num Lock】: ニューメリックロックキー
⑦ 【Back Space】: バックスペースキー
⑧ 【Enter】: エンターキー(リターンキー)
⑨ 【Home】: ホームキー
⑩ 【PgUp】: ページアップキー
⑪ 【PgDn】: ページダウンキー
⑫ 【Shift】: シフトキー
⑬ 【↑】【↓】【→】【←】: カーソル移動キー
⑭ 【Ctrl】: コントロールキー
⑮ 【 】: アプリケーションキー
⑯ 【Alt】: オルトキー
⑰ 【カタカナ ひらがな】: かなキー
⑱ 【変換】: 変換キー
⑲ スペースキー
⑳ 【無変換】: 無変換キー
㉑ 【 】: Windowsキー
㉒ 【Fn】: エフエヌキー
㉓ 【Caps Lock】: キャップスロックキー
㉔ 【Tab】: タブキー
㉕ 【半角／全角】: 半角／全角キー

キーの使い方

◎ 特殊なキーの使い方

キー操作	説　明
【Num Lock】	一度押すとニューメリックロックキーランプが点灯し、キー前面に青で表示されている数字や記号を入力できるようになります。 もう一度押すとニューメリックロックキーランプが消灯し、キー上面の文字が入力できるようになります。
【Shift】+【Caps Lock】	一度押すとキャップスロックキーランプが点灯し、アルファベットを入力すると大文字が入力されます。 もう一度押すとキャップスロックキーランプが消灯し、アルファベットを入力すると小文字が入力されます。
【Alt】+【半角／全角】 または 【半角／全角】	一度押すと日本語入力システムがオンになり、日本語が入力できるようになります。 もう一度押すと日本語入力システムがオフになり、日本語が入力できなくなります。
【Alt】+【カタカナ　ひらがな】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すとかな入力モードになり、キー上面のかな文字で日本語を入力できるようになります。もう一度押すとローマ字入力モードになり、キー上面のアルファベットの組み合わせで日本語を入力できるようになります。
【Caps Lock】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すと英数字が入力されるようになります。
【カタカナ　ひらがな】	日本語入力システムがオンになっていて英数字が入力されるモードになっているとき、一度押すとひらがなやカタカナを入力できるようになります。
【Fn】	他のキーと組み合わせて機能を実行します(→p.25)。

◎ ホットキー機能(【Fn】の使い方)

【Fn】と他のキーを組み合わせることで、本機の設定をキー操作で簡単に調整することができます。これをホットキー機能といいます。
組み合わせが可能なキーとその機能を表すアイコンは、【Fn】と同じ色(黄)でキー上面に印字されているものもあります。

キー操作	機　　能	説　　明
【Fn】+【F3】	ディスプレイの切り替え(▁/▣)	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに「液晶ディスプレイとCRTの同時表示」→「テレビ」※→「液晶ディスプレイ」→「CRT」の順に切り替わります。
【Fn】+【F5】	画面の伸縮	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する/しないを切り替えます。
【Fn】+【F6】	音量調節(🔈/🔉)	スピーカからのビープ音量をオン/オフに設定します。
【Fn】+【F8】	輝度を上げる(▲☼)	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)。
【Fn】+【F9】	輝度を下げる(▼☼)	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)。
【Fn】+【F12】	スクロールロック	【Scr Lock】の役割
【Fn】+【Ins】	プリントスクリーン	【Prt Scr】の役割
【Fn】+【Del】	システムリクエスト	【Sys Rq】の役割
【Fn】+【⊞】	右Windows	右【⊞】の役割
【Fn】+【Pause】	Break	【Break】の役割
【Fn】+【Home】	End	【End】の役割

※:テレビが接続されているときのみ切り替わります。

> 【Fn】+【F3】〜【F6】で設定した内容は、電源を切ったり再起動したりすると解除されます。また、スタンバイ状態や休止状態にしても設定した内容は解除されます。

キーボードの設定をする

1 「コントロールパネル」を開き、「キーボード」アイコンをダブルクリックする

「キーボードのプロパティ」が表示されます。

「キーボードのプロパティ」ウィンドウでは、ウィンドウ左上の「速度」「言語」の各タブを選択すると、次のような設定を行うことができます。

・文字入力時の繰り返し入力のタイミング調節
・カーソルの点滅速度の調節
・日本語入力システムの選択
・レイアウトの設定

それぞれの設定について詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

日本語入力の使い方

本機では、日本語入力システムとしてMS-IME2000またはMS-IME2002が使用できます。
入力方法や操作方法については、各日本語入力システムの「ヘルプ」をご覧ください。

◎ 日本語入力システムのオン、オフを切り替えるには

1 【Alt】を押したまま【半角／全角】を押す

MS-IME2000の場合は、インジケータ領域(タスクトレイ)の が になります。これで日本語入力システムがオンになりました。日本語入力システムがオンのときに、同じ操作を行うと、 が になり、日本語入力システムをオフにすることができます。

◎ MS-IME2002の「ヘルプ」を使う

1 **MS-IME2002のツールバーから をクリックする**

2 **メニューの「言語バーのヘルプ」をクリックする**

3 **表示されたヘルプ画面で、調べたい項目をダブルクリックする**

ヘルプを終了したいときは、をクリックします。

◎ MS-IME2000の「ヘルプ」を参照するには

1 **MS-IME2000のツールバーから「ヘルプ」ボタン をクリックする**

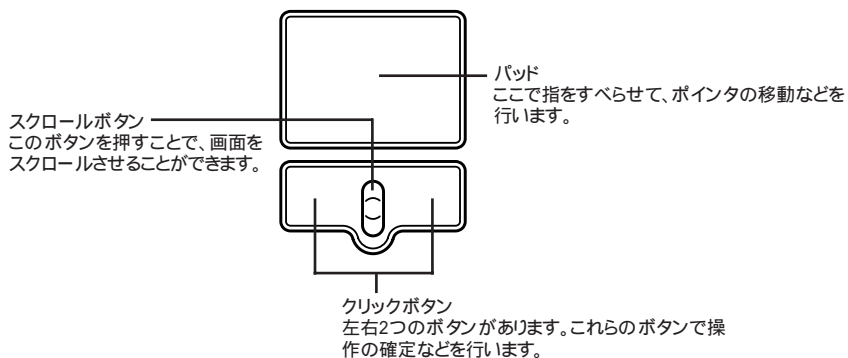
2 **メニューの「目次とキーワード」をクリックする**

3 **表示されたヘルプ画面で調べたい項目をダブルクリックする**

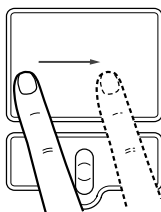
「ヘルプ」を終了したいときは、をクリックします。

NXパッド

本機には、ポインティングデバイスとしてNXパッドが内蔵されています。NXパッドは、コントロールパネルを使ってより使いやすいように設定できます。

名称と役割

NXパッドの使い方

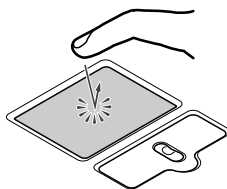
◎ ポインタ(カーソル)の移動

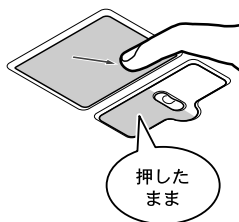
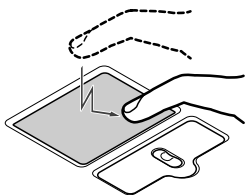
パッド上で指を動かすと、指の動きに合わせて画面上のポインタ(カーソル)が動きます。

◎ クリックとダブルクリック

画面上のボタンやアイコンにポインタを合わせ、左のクリックボタンを1回押すことを「クリック」、すばやく2回続けて押すことを「ダブルクリック」といいます。

右のクリックボタンを1回押すことを「右クリック」といいます。

◎ タップとダブルタップ

指先でパッドをたたく操作です。1回たたくことを「タップ」、2回連続してたたくことを「ダブルタップ」といい、それぞれクリック、ダブルクリックするのと同じことです。

◎ ドラッグ

アイコンやフォルダの上にポインタを合わせ、左クリックボタンを押したまま指をパッド上で軽くすべらせると、ドラッグできます。

アイコンやフォルダの上にポインタを乗せた状態で、パッドに2回続けて触れ、2回目に触れたときにパッドから指を離さずにすべらせてもドラッグできます。

スクロールボタンを使う

スクロールボタンを使うと、画面を上下左右にスクロールさせることができます。

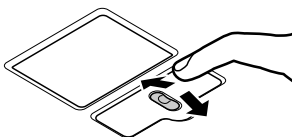
チェック!! スクロールボタンの機能に対応していないアプリケーションではスクロールボタンを使用できません。

◆ 画面を上下方向にスクロールさせる

1 アプリケーションの上下スクロールバーがある画面をクリックする

2 スクロールボタンのパッド側、または手前側を押す

パッド側を押すと画面が上にスクロールし、手前側を押すと画面が下にスクロールします。

また、スクロールボタンを押したままにすることで、連続して画面をスクロールさせることができます。

NXパッドの設定をする

WindowsでNXパッドをより使いやすく設定することができます。

1 **「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする**

「マウスのプロパティ」が表示されます。

「マウスのプロパティ」ウィンドウでは、ウィンドウの左上の各タブを選択すると、NXパッドの設定を行うことができます。
それぞれの設定について詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

内蔵ハードディスク

ハードディスクとは、Windowsやアプリケーションなどのソフトウェアや、作成したデータを磁気的に記録して、読み出すための装置です。

ハードディスク使用上の注意

本機に内蔵されているハードディスクは、非常に精密に作られています。
特に、データの読み書き中(アクセスランプの点灯中)には、少しの衝撃が故障の原因となる場合がありますので、ご注意ください。
ハードディスクが故障すると、大切なデータが一瞬にして使えなくなってしまうことがあります。
特に、自分で作成した大切なデータなどは、再セットアップしても元どおりにはできません。大切なデータは、フロッピーディスクやCD-R、CD-RWなどの、ハードディスク以外の媒体に定期的にバックアップ(コピー)をとっておくことをおすすめします。

ハードディスクの購入時の状態

購入時、本機のハードディスクは、全容量の75%がCドライブ、残り25%がDドライブに領域確保されています。

例:ハードディスクの全容量が「20Gバイト」の場合

Cドライブ:約15Gバイト(FAT32)
Dドライブ:約5Gバイト(FAT32)

領域の確保とフォーマット

ハードディスクの領域を削除した場合や、外付けのハードディスクを増設した場合などには、ハードディスクの領域の確保とフォーマットが必要です。

◎ 領域の確保

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」で「MS-DOSプロンプト」をクリックする

「C:¥WINDOWS＞」が表示されます。

2 ハードディスクの容量と領域の情報を確認する

① 「FDISK」と入力し、【Enter】を押す
② 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)」と表示されたら「Y」を選んで【Enter】を押す
③ 「FDISKオプション」の画面が表示されたら「4．領域情報を表示」を選ぶ
④ 表示された画面で、ハードディスクの容量を確認する
⑤ 【Esc】を押す
⑥ 【Esc】を押す

「C:¥WINDOWS＞」と表示されます。

3 手順2で確認したハードディスクの総容量に応じて、以下のように入力する

- **ハードディスクの総容量が8,192Mバイト以下の場合**
  FDISK /X【Enter】
- **ハードディスクの総容量が8,193Mバイト以上の場合**
  FDISK【Enter】

4 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)」と表示されたらYを入力する

FAT32ファイルシステムで領域を作成します。
FAT32について詳しくは、「FAT32ファイルシステムの利用」(→p.36)をご覧ください。
Nを入力した場合は、FAT16ファイルシステムで領域を作成します。最大2Gバイトまでの容量をひとつのドライブとして扱えます。

5 【1】を入力し、【Enter】を押す

領域を作成する画面が表示されます。

6 【2】を入力し、【Enter】を押す

「領域のサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください.拡張MS-DOS領域を作ります」と表示されます。

チェック!! **確保される領域は入力した領域サイズより大きくなる場合があります。例えば、FAT16で2,047Mバイトを取得しようとすると、2,052Mバイト等の値になり、FAT16で取得できない場合があります。このような場合は、2,045Mバイト等、2,047Mバイトより小さい値で入力してください。**

7 【Enter】を押す

「拡張MS-DOS領域を作成しました.」と表示されます。

8 【Esc】を押す

「論理ドライブのサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください」と表示されます。

9 サイズを入力して【Enter】を押す

「論理MS-DOSドライブを作成しました.ドライブ名は変更または追加されました」と表示されます。

10 拡張MS-DOS領域がなくなるまで手順9を繰り返し、すべての拡張MS-DOS領域を論理ドライブに割り当てる

「拡張MS-DOS領域の使用可能な領域はすべて論理ドライブに割り当てられています」と表示されます。

11 【Esc】を3回押す

「C：¥WINDOWS＞」の表示に戻ります。

12 「EXIT」と入力し、【Enter】を押す

Windowsの画面に戻ります。

13 本機を再起動する

◎ フォーマット

領域を確保したら、続いてハードディスクをフォーマットします。

チェック!! すでに使用されているドライブをフォーマットすると、そのドライブに保存されていたすべてのデータが消えてしまいます。フォーマットをする際は、十分注意してください。

1 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする

2 新たに領域を確保したドライブをクリックする

3 「ファイル」メニュー→「フォーマット」をクリックする
フォーマットの画面が表示されます。

4 「通常のフォーマット」をクリックする

5 「開始」ボタンをクリックする
確認の画面が表示されます。

6 「OK」ボタンをクリックする
フォーマットが始まります。
しばらくすると、フォーマットが終了してフォーマットの結果の画面が表示されます。

7 「閉じる」ボタンをクリックする
スキャンディスクの実行を促す画面とヘルプが表示されます。

参照 スキャンディスクについて→『活用ガイド　ソフトウェア編』PART3の「ハードディスクのメンテナンス」

8 「OK」ボタンをクリックする

9 「フォーマット」の画面をクリックする

10 「閉じる」ボタンをクリックする

11 ヘルプの内容に従って、スキャンディスクを実行する
複数の領域を確保したいときは、手順2〜11の操作を繰り返してください。

FAT32ファイルシステムの利用

◎ FATとは

FAT(File Allocation Table)ファイルシステムとは、MS-DOSやWindowsにおいて、ディスクのどの場所にどのようなファイルがあるかを記録・管理するシステムのことです。
Windows Meでは次の2つのFATファイルシステムをサポートしています。

・FAT32
FAT16を拡張したファイルシステムです。FAT32では理論上2Tバイト(2,048Gバイト)までの容量を扱うことができます。またFAT16よりも効率よく大容量ハードディスクを利用することができます。

参照 FAT32に関する情報→「Windows」フォルダのGENERAL.TXT

・FAT16
MS-DOSや従来のWindowsで使われている基本的なファイルシステムです。最大2Gバイトまでの容量をひとつのドライブとして扱うことができます。

◎ FAT32ファイルシステムを使用するときの注意

FAT32を使用するときは、次の注意事項を確認してから使用してください。

- FAT32は本機にインストールされているWindows Meで使うことができます。
- 別売のソフトウェアによっては正しく動作しないことがあります。
- スキャンディスク、バックアップ、およびデフラグなど、「アクセサリ」の「システムツール」にあるディスク管理ツールはFAT32に対応しています。ただし、「ドライブスペース」でFAT32のドライブを圧縮することはできません。

◎ FAT32を利用するには

FAT32を利用するには、「FDISK」コマンドを使用してFAT32ファイルシステムで領域を作成します。

◆「FDISK」コマンドでFAT32の領域を作成する

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「MS-DOSプロンプト」をクリックする
「MS-DOSプロンプト」の画面が表示されます。

2 ハードディスクの総容量が8,192Mバイト以下の場合はFDISK /x、8,193Mバイト以上のときはFDISKと入力し【Enter】を押す

ハードディスクの容量が512Mバイト以上のときは、大容量ディスクのサポートを行うかどうかを確認するメッセージが表示されます。

3 【Y】を押して【Enter】を押す

4 領域を作成する

512Mバイト以上の領域を作成すると、その領域にはFAT32が適用されます。作成した領域が512Mバイトよりも小さいときには自動的にFAT16が適用されます。

5 「FDISK」を終了し、本機を再起動する

6 作成したドライブをフォーマットする

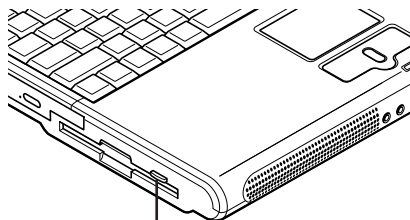
ハードディスクのメンテナンス

本機には、ハードディスクの障害を検出したり、アクセス速度を保つためのメンテナンスソフトが組み込まれています。ハードディスクに障害や断片化があった場合、可能な範囲で修復することができます。

参照 **ハードディスクのメンテナンス→『活用ガイド　ソフトウェア編』PART3の「ハードディスクのメンテナンス」**

フロッピーディスクドライブ

本機には3.5インチフロッピーディスクドライブが内蔵されています。

各部の名称と役割

フロッピーディスクイジェクトボタン
セットしたフロッピーディスクを取り出すためのボタンです。

使用できるフロッピーディスクの種類

本機では、次の形式のフロッピーディスクでデータの読み書きやフォーマット、ディスクコピーを行うことができます。

ディスクの種類	容量	読み書き	フォーマット	ディスクコピー
フロッピーディスク（2DD）	640KB	×	×	×
	720KB	○	○	○
フロッピーディスク（2HD）	1.2MB	△	×	×
	1.44MB	○	○	○

○：使用可能

×：使用不可

△：1.2MBのフロッピーディスクの読み書きを行うには3モード対応フロッピーディスクドライバが必要です。添付の「アプリケーションCD-ROM Vol.2」の中に入っている次のreadme.txtをご覧になり、セットアップを行ってください。

EドライブにCD-ROMをセットした場合
E:¥WIN98¥3MODEFD¥readme.txt

使用上の注意

・本機では、PC-9800シリーズのパソコンでフォーマットされたフロッピーディスクを使ってシステムを起動することはできません。
・「ディスクのコピー」のコピー先のフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたものを使用してください(これはMS-DOSプロンプトのDISKCOPYコマンドでも同様です)。
・フォーマットしていないフロッピーディスクをマイコンピュータなどで選択すると、フロッピーディスクドライブのアクセスランプが点灯し続けたり、フォーマットしようとするとフォーマット開始までの時間が長くかかる場合があります。これは、フロッピーディスクの種類を判別しているためなので、処理が開始されるまでしばらくお待ちください。
・MS-DOS Ver.6.2以前のFORMATコマンドでフォーマットしたフロッピーディスクを、MS-DOSプロンプトからDISKCOPYコマンドでディスクコピーすることはできません。「マイコンピュータ」の「3.5インチFD」アイコンを右クリックし、「メニュー」から「ディスクのコピー」を実行してください。
・2DDのフロッピーディスクを720KBでフォーマットしたときは、いったんフロッピーディスクを取り出し、もう一度入れ直してから使用してください。フォーマット後に、フロッピーディスクを入れ直さずにファイルを書き込もうとすると、フォーマットが正常に終了していても、エラーが発生する場合があります。クイックフォーマットされたフロッピーディスクの場合は、この手順は必要ありません。

フロッピーディスクのセットのしかたと取り出し方

◎ フロッピーディスクのセットのしかた

1 カチッと音がするまでフロッピーディスクをゆっくりと水平に差し込む

フロッピーディスクがセットされるとフロッピーディスクイジェクトボタンが少し飛び出します。

◎ フロッピーディスクの取り出し方

チェック!! **フロッピーディスクを書き込み、または読み取り中は、フロッピーディスクアクセスランプ(フロッピーディスクのアイコン)が点灯します。アクセスランプ点灯中は、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因となります。**

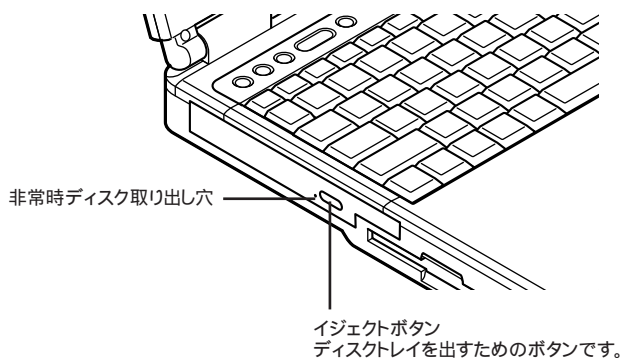
1　フロッピーディスクイジェクトボタンを押す

フロッピーディスクが少し飛び出します。

2　フロッピーディスクをゆっくりと水平に引き出す

CD-R/RWドライブ・
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ

CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブの取り扱いについて説明します。

各部の名称と役割

イジェクトボタンや非常時ディスク取り出し穴の位置や形状は、イラストと多少異なることがあります。

使用できるディスク

	再生		読み込み		書き込み	書き換え
	音楽CD、ビデオCD、フォトCD	DVD VIDEOディスク	CD-ROM、CD-R、CD-RW	DVD-ROM	CD-R、CD-RW	CD-RW
CD-R/RWドライブ	○	×	○	×	○	○
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ	○	○	○	○	○	○

○:使用可能
×:使用不可

◆CD-RやCD-RWへの書き込み

使用できるCD-RおよびCD-RWは、ISO9660に準拠したディスクです。書き込みできる容量は、使用するアプリケーションによって異なりますので、詳しくはアプリケーションのヘルプをご覧ください。
CD-RまたはCD-RWに書き込みするときは、「Easy CD Creator」または「DirectCD」というアプリケーションを使用します。

それぞれの機能や使用方法については、「Easy CD Creatorを使う」(→p.49)または「DirectCDを使う」(→p.51)をご覧ください。

◆CD-RやCD-RWへ書き込むときの注意

・お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどからのコピー作成およびその利用のための著作権を所有していなかったり、著作権の所有者からコピーの許可を得ていない場合は、使用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。コピーの際は、オリジナルのCDの使用許諾条件、複製に関する注意事項にしたがってください。
・Easy CD Creatorなど、Track at once(トラック アット ワンス)方式やDisk at once(ディスク アット ワンス)方式で書き込みを行うアプリケーションでは、CD-R、CD-RWへのデータ書き込み中に、他のアプリケーションを使用したり、自動的に省電力機能が働いたり、一定時間が経過してスクリーンセーバーやメールの自動受信プログラムなどが常駐していると、書き込みエラー(バッファアンダーラン)が発生する場合があります。書き込みエラーの発生を抑えるため、データ書き込みの際は他の動作プログラムを閉じ、省電力機能や常駐するプログラムを無効(オフ)にすることをおすすめします。
・バッテリの残量がなくなると、書き込みエラーの原因になります。バッテリのみでパソコンを使用している場合は、書き込みを行う前にACアダプタを接続して、ACコンセントから電源を供給してください。
・本機に振動や衝撃をあたえないでください。書き込みエラーの原因となります。

> ディスクにデータを書き込むために、パソコンはCD-R/RWドライブまたはCD-R/RW with DVD-ROMドライブにデータを転送しています。転送されてきたデータはバッファ(データの一時的な蓄積場所)に貯められてから、ディスクに書き込まれますが、途中で割り込んでくる操作(たとえばスクリーンセーバーの起動など)があると、バッファへのデータの転送に遅れが生じてバッファが空になってしまい、ディスクへの書き込みに失敗してしまうことがあります。このような現象を「バッファアンダーラン」と呼びます。

DirectCDなど、Packet Write(パケット ライト)方式で書き込みを行うアプリケーションでは、書き込みエラー(バッファアンダーラン)は起こりません。

- 書き込みに失敗したCD-Rは再生できなくなります。書き込みの失敗によるCD-Rの補償はできませんので注意してください。
- DirectCDを使って、データの書き込みや削除をくりかえすと、CD-Rの空き容量が減っていきます。
- フォーマット形式などによっては、他のCD-ROMドライブなどでは使用できない場合があります。
- 市販されているCD-RおよびCD-RWの一部に規格外のものがあります。規格外のCD-RおよびCD-RWでは正常に読み込めない場合があります。
- データを書き込んだCD-RWを他のパソコンで読む場合、マルチリード対応のCD-ROMドライブを使用してください。マルチリード対応CD-ROMドライブの確認は、各メーカーにお問い合わせください。

マルチリード対応のCD-ROMドライブとは、CD-RWを読み出せるようにしたCD-ROMドライブのことです。CD-RWはCD-ROMに比べて光の反射率が低いため、マルチリードに対応していないCD-ROMドライブでは読み出すことができません。

使用上の注意

- CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによってデータが正しく読み取れなくなるおそれがあります。
- アクセスランプが点灯しているときは、ディスクを絶対に取り出さないでください。本機の故障の原因となります。
- ラベルが貼ってあるなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、本機の操作中に手に振動を感じることがあります。これは故障の原因となるため、ディスクの盤面にはラベルやテープなどを貼らないでください。

ディスクのセットのしかたと取り出し方

ここではCD-R/RWドライブを例に説明しています。CD-R/RW with DVD-ROMドライブをお使いの場合は、「CD-R/RWドライブ」を「CD-R/RW with DVD-ROMドライブ」に読み替えてください。

◎ ディスクのセットのしかた

チェック!! **本機の電源が入っていない場合やスタンバイ状態の場合は、ディスクをセットすることはできません。本機の電源を入れるか、オーディオ電源スイッチを押してCDプレイモードにしてください（→p.48）。**

1 CD-R/RWドライブのイジェクトボタンを押す

ディスクトレイが少し飛び出します。

2 手でディスクトレイを静かに引き出す

3 ディスクのデータ面（文字などが印刷されていない面）を下にして、傷など付けないようディスクトレイの中央に置き、ディスクを軸にしっかりはめ込む

4 CD-R/RWドライブのイジェクトボタンに触れないようにディスクトレイ前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す

◎ ディスクの取り出し方

チェック!! **本機の電源が入っていない場合やスタンバイ状態の場合は、ディスクを取り出すことはできません。本機の電源を入れるか、オーディオ電源スイッチを押してCDプレイモードにしてください（→p.48）。**

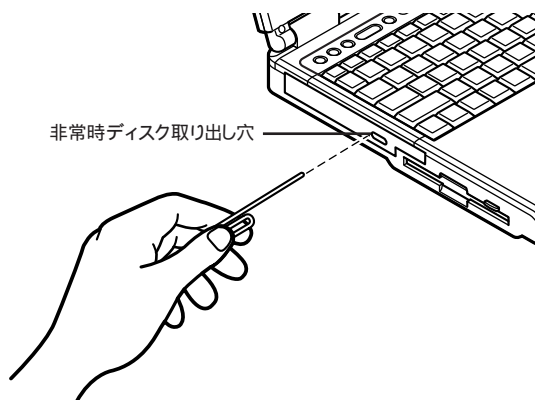
1 CD-R/RWドライブのイジェクトボタンを押す

ディスクトレイが少し飛び出します。

2 手でディスクトレイを静かに引き出してから、ディスクを取り出す

3 CD-R/RWドライブのイジェクトボタンに触れないようにディスクトレイの前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す

◎ 非常時のディスクの取り出し方

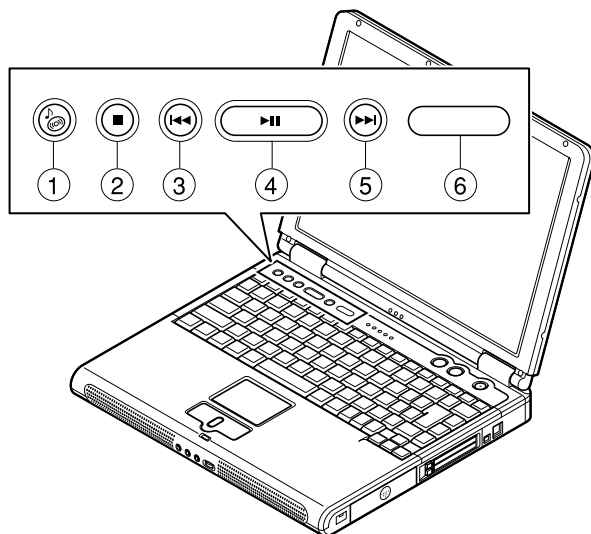
ソフトウェアの暴走など不慮の原因で、CD-R/RWドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこなくなった場合は、非常時ディスク取り出し穴に太さ1.3 mm程の針金を押し込むと、トレイを手動で引き出すことができます。針金は太めのペーパークリップなどを引き伸ばして代用できます。

チェック!!

- **非常時ディスク取り出し穴の位置や形状は、モデルによってイラストと多少異なることがあります。**
- **CD-R/RWドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない、といった非常時以外は、非常時ディスク取り出し穴を使って取り出さないようにしてください。**

音楽CDを再生するには

本機では、CDプレーヤボタンを使ってCDプレイモードで音楽CDを再生することができます。CDプレイモードとは、電源が切れている状態、または休止状態のときに、パソコンをオーディオ機器としてのみ使用するためのモードです。本機の電源が切れている状態、または休止状態のときに、オーディオ電源スイッチを操作することによりCDプレイモードになります。

◎ 音楽を再生するときに便利なボタン

音楽を再生するときに利用できるボタンやインジケータの役割は、次のとおりです。

① オーディオ電源スイッチ

スイッチを押すとCDプレイモードが起動します。CDプレイモードを終了するときは、スイッチをもう一度押します。

本機の電源が入っているときはCDプレイモードにはなりません。

②〜⑤　CDプレーヤボタン、またはCD/DVDプレーヤボタン

CDプレーヤボタンには次の機能があります。

	ボタン	機能
②	■	停止
③	I◀◀	前のトラックへ戻る 押し続けると巻き戻し※
④	▶II	再生／一時停止
⑤	▶▶I	次のトラックへ進む 押し続けると早送り※

※：巻き戻し／早送りは、Jet-Audio Playerで音楽CDを再生しているときのみ可能です。

⑥ LCDインジケータ

LCDインジケータには次のような内容が表示されます。

状態	表示内容
再生中	現在のトラックナンバー(曲番)
一時停止中	現在のトラックナンバー(曲番)が点滅
停止時	1
ディスクが入っていない／音楽CD以外のディスクがセットされている	──

LCDインジケータはCDプレイモードでのみ表示されます。

◎ 音楽再生機能を使用しているときの注意

・CDプレイモードで音楽CDを再生中に電源スイッチを押すと、CDプレイモードは停止し、Windowsが起動します。

・バッテリのみで使用中に、CDプレイモードで音楽CDを再生していると、バッテリがなくなった時点で電源がオフになります。このとき、バッテリ容量が残り少なくなったことを知らせる警告音は鳴りません。

音楽CDやDVD VIDEOディスクを再生する

・DVD VIDEOディスクの再生ができるのは、CD-R/RW with DVD-ROMモデルのみです。

・DVD VIDEOディスクは、リージョンコード(国別地域番号。日本は2です)によって管理されているため、リージョンコードが2もしくはフリーに設定されているディスクのみ再生することができます。海外で購入したDVD VIDEOディスクについては、特にこの点に注意してください。

◎ Jet-Audio Playerを使う

このパソコンには「Jet-Audio Player」がインストールされています。Jet-Audio Playerでは、音楽CDを再生することができます。また、CD-R/RW with DVD-ROMモデルでは、Jet-Audio PlayerでDVD VIDEOディスクの再生を行うこともできます。Windowsが起動しているときに音楽CDなどのディスクをセットすると、自動的にJet-Audio Playerが起動して再生がはじまります。

参照 **Jet-Audio Playerの使い方→「スタート」ボタン-「プログラム」-「Jet-Audio Player」-「使い方マニュアル」**

CD-R/RWモデルにはCDプレーヤボタンが内蔵されており、CD-R/RW with DVD-ROMモデルにはCD/DVDプレーヤボタンが内蔵されています。これらのボタンを使ってJet-Audio Playerを操作することもできます。

参照 **CDプレーヤボタンまたはCD/DVDプレーヤボタンの使い方→「音楽を再生するときに便利なボタン」(p.46)**

◎ CDプレイモードで音楽CDを再生する

本機の電源が切れている状態、または休止状態のときに、Windowsを起動することなく音楽CDを再生することができます。

1 本機の電源が切れている状態、または休止状態のときに、オーディオ電源スイッチを押す

2 CD-R/RWドライブに音楽CDをセットする

音楽CDをセットすると、LCDインジケータに「1」と表示されます。これで再生の準備ができました。

参照 **セットのしかた→「ディスクのセットのしかたと取り出し方」(p.44)**

チェック!! **音楽CDをセットしてからLCDインジケータに「1」と表示されるまで数秒かかります。しばらくお待ちください。また、バッテリ駆動時にCDプレイモードにするときは、再生の準備が完了するまでにさらに時間がかかる場合があります。**

3 CD再生ボタン(▶II)を押す

音楽CDの再生がはじまります。

トラック(曲)を次や前に移動したいときや、再生を停止または一時停止したいときは、CDプレーヤボタンを利用してください。トラックを移動すると、LCDインジケータに現在のトラックナンバーが表示されます。

音量は、本体前面にある音量調節つまみで調節します(→p.14)。

Easy CD Creatorを使う

ここではCD-R/RWドライブを例に説明しています。CD-R/RW with DVD-ROMドライブをお使いの場合は、「CD-R/RWドライブ」を「CD-R/RW with DVD-ROMドライブ」に読み替えてください。

Easy CD Creatorは、CD-RやCD-RWにデータを書き込むことができるアプリケーションです。データを書き込む以外にも、音楽CDを作成したり、CD全体のバックアップなどの機能があります。ここでは、基本的なデータを書き込む操作について説明します。そのほかの機能や使い方について詳しくは、ヘルプをご覧ください。

Easy CD Creatorで書き込んだCD-RWは、マルチリード対応のCD-ROMドライブで読み出すことができます。

◎ データを書き込む

ここでは、CD-Rを使ったデータの書き込みについて説明します。
はじめに、CD-Rを用意しておいてください。
なお、CD-RWの場合でも同様の手順で利用できます。その際は、「CD-R」を「CD-RW」に読み替えてください。

1 CD-RをCD-R/RWドライブにセットする

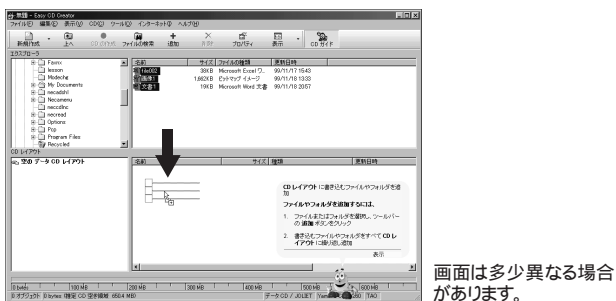
2 表示された画面のメニューの中から「データ」をクリックし、「データCD」をクリックする

3 画面の上段で、書き込みたいデータがあるフォルダを選び、データのファイル名を表示させる

Copyright©1994 - 2001 Adaptec,Inc. All rights reserved.

4 書き込みたいデータのファイル名を選んで、画面の下段にドラッグ&ドロップする

書き込むデータが画面の下段に表示されます。このとき、まだ書き込みは開始していません。

画面は多少異なる場合
があります。

ファイル名を選んだ後、（追加）ボタンを押しても同様の操作ができます。下段に表示されたデータの中で書き込みを取りやめたいものがあれば、そのファイル名を選んで（削除）ボタンをクリックしてください。書き込みたいデータがほかにもある場合は、手順3〜4をくりかえしてください。

5 （CDの作成）ボタンをクリックする

6 「CD作成セットアップ」画面が表示されるので、「OK」ボタンをクリックする

書き込みを開始します。
「コンパティビリティの警告」画面が表示された場合は、「OK」ボタンをクリックしてください。

7 書き込み終了後、「CD作成が成功しました。」と表示されたら「OK」ボタンをクリックする

「CDレイアウトの変更を無題に保存します。」というメッセージが表示されます。
書き込みが正常に終了した場合は保存の必要がないので、「いいえ」ボタンをクリックしてください。書き込みに失敗した場合や同じデータを別のCD-Rに書き込む場合は、「はい」ボタンをクリックして保存してください。

8 画面右上の [×] ボタンをクリックし、Easy CD Creatorを終了する

DirectCDを使う

> ここではCD-R/RWドライブを例に説明しています。CD-R/RW with DVD-ROMドライブをお使いの場合は、「CD-R/RWドライブ」を「CD-R/RW with DVD-ROMドライブ」に読み替えてください。

DirectCDを使うと、フロッピーディスクやハードディスクと同じような感覚で、CD-RやCD-RWにデータを保存したり移動したりすることができます。簡単にデータを保存することができますので、データのバックアップなどに適しています。
ここでは、DirectCDを使ってCD-RまたはCD-RWにデータを書き込むときの基本的な操作を説明しています。
そのほかの機能や使い方について詳しくは、ヘルプをご覧ください。

◎ 準備をする

DirectCDで使用するCD-RまたはCD-RWは、フォーマットされている必要があります。データを書き込む前に、次の手順でフォーマットしてください。すでにフォーマットされたCD-RまたはCD-RWを使用する場合は、この手順は必要ありません。次の「DirectCDで書き込む」(→p.53)の手順でデータの書き込みを行ってください。

1 CD-RまたはCD-RWをCD-R/RWドライブにセットする

フォーマット済みのCD-RまたはCD-RWをセットした場合、「CDの準備ができました」と表示されます。次の「DirectCDで書き込む」(→p.53)の手順2に進んで、データの書き込みを行ってください。

2 表示された画面のメニューの中から「データ」をクリックし、「DIRECTCD」をクリックする

3 「次へ」ボタンをクリックする

レコーダ情報の画面が表示されます。

4 「次へ」ボタンをクリックする

CDのフォーマットの画面が表示されます。

5 「次へ」ボタンをクリックする

CD名を付ける画面が表示されます。

6 「CD名」欄にCD名を入力して、「完了」ボタンをクリックする

CD名を付けておくと、あとから何のデータが入っているCDかを検索したいときに便利です。特に付ける必要がない場合は、何も入力しないで「完了」ボタンをクリックしてください。

7 処理時間を確認する画面が表示された場合は、処理時間を確認して「OK」ボタンをクリックする

フォーマットがはじまりますので、そのまましばらくお待ちください。
フォーマットが終了すると「CDの準備ができました」と表示されます。

8 「OK」ボタンをクリックする

CD-R/RWドライブのウィンドウが自動的に開いた場合は、[×]ボタンをクリックしてウィンドウを閉じてください。

これで、CD-RまたはCD-RWをDirectCDで使用するための準備ができました。このまま続けてデータの書き込みを行う場合は、次の「DirectCDで書き込む」の手順3に進んでください。

◎ DirectCDで書き込む

1 DirectCDでフォーマットしたCD-RまたはCD-RWをCD-R/RWドライブにセットしていない場合はセットする

「CDの準備ができました」と表示されます。

2 「OK」ボタンをクリックする

3 CD-RまたはCD-RWにデータを書き込む

フロッピーディスクやハードディスクと同じように、「マイコンピュータ」や「エクスプローラ」を使ってデータを書き込むことができます。

◎ CD-RまたはCD-RWを取り出す

DirectCDを使用しているときは、ディスクによって取り出し方が異なります。

◆CD-Rを取り出す

CD-Rを取り出すときは、DirectCDで書き込んだCD-Rをほかのパソコンの CD-ROMドライブで読み出すことができるようにするかどうかを選ぶ必要があります。

1 CD-R/RWドライブのイジェクトボタンを押す

「CDの取り出し」の画面が表示されます。

インジケータ領域(タスクトレイ)に表示されているを右クリックし、表示されたメニューから「取り出し」をクリックしても同様の操作ができます。

2 CD-Rに、ほかのパソコンのCD-ROMドライブでも読み出せるように処理を行うかどうかを選ぶ

次もDirectCDで使用する場合は、「次回、このCDへはDirectCDで読み書きを行います。」がになっていることを確認してください。
ほかのパソコンのCD-ROMドライブで読み出したい場合は、「Windows 95/98、Windows NT 4.0(SP3以上)、およびWindows 2000のCD-ROMドライブで読み込めるようにCDを構成します。」のをにします。また、必要であれば「再び書き込みができないように、CDを書き込み禁止にする」をにしてください。

「Windows 95/98、Windows NT 4.0(SP3以上)、およびWindows 2000のCD-ROMドライブで読み込めるようにCDを構成します。」を選んで取り出した後、再度DirectCDで書き込みを行いたい場合は、アイコンを右クリックして「書き込み可能にする」を選び、設定を行ってください。

3 「完了」ボタンをクリックする

「CDは取り出されました。」と表示されるまで、そのまましばらくお待ちください。自動的にディスクトレイが少し飛び出します。

4 表示されているメッセージを確認して、「OK」ボタンをクリックする

チェック!! 書き込んだCD-Rを読み出すことができる環境についてのメッセージが表示されています。表示されたメッセージ以外の環境では、このCD-Rを読み出すことはできません。

5 CD-R/RWドライブからCD-Rを取り出し、ディスクトレイを元の位置に戻す

◆CD-RWを取り出す

1 CD-R/RWドライブのイジェクトボタンを押す

しばらくすると、「CDは取り出されました。」と表示され、ディスクトレイが少し飛び出します。

インジケータ領域(タスクトレイ)に表示されているアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「取り出し」をクリックしても同様の操作ができます。

2 表示されているメッセージを確認して「OK」ボタンをクリックする

チェック!! 書き込んだCD-RWを読み出すことができる環境についてのメッセージが表示されています。表示されたメッセージ以外の環境では、このCD-RWを読み出すことはできませんので注意してください。

3 CD-R/RWドライブからCD-RWを取り出し、ディスクトレイを元の位置に戻す

液晶ディスプレイ

本機の液晶ディスプレイの表示を調整する方法や、表示できる解像度と表示色について説明しています。

表示を調整する

◎ 輝度を調整する

本機では、キーボードを使って輝度の調整を行います。輝度は8段階で調整することができます。

機　　能	キー操作	説　　明
輝度を上げる ▲☼	【Fn】＋【F8】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)。
輝度を下げる ▼☼	【Fn】＋【F9】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)。
画面の伸縮	【Fn】＋【F5】	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する／しないを切り替えます。

チェック!! 複数のディスプレイで同時表示を行っていると、一方のディスプレイにおいて、メディアプレーヤーなどでビデオCDが正しく表示されない場合があります。このディスプレイでビデオCDを表示させるには、次の手順で設定を変更してください。

① 「コントロールパネル」で「画面」アイコンをダブルクリックする
② 「画面のプロパティ」画面で「設定」タブをクリックして「詳細」ボタンをクリックする
③ 表示された画面で「ATI画面」タブをクリックする
④ 表示された画面で、「パネル」の下にある水色の丸いボタンをクリックして、「プライマリ」に設定する(液晶ディスプレイとTVを同時にプライマリに設定することはできません)

表示できる解像度と表示色

 解像度

解像度とは、ディスプレイの画面上に表示できる文字や図面などの情報量を表すものです。この数字が大きくなるほど、画面上に一度に多くの情報を表示することができ、より細かな表現ができます。

本機では、標準で次の解像度と表示色を表示できます。

解像度(ドット)	表示色	本機の液晶ディスプレイのみに表示	別売のCRTディスプレイのみに表示	本機の液晶ディスプレイと別売のCRTディスプレイの同時表示※1	TVのみ
640×480	26万色中256色	●	◎	●	◎
	65,536色	●	◎	●	◎
	1,677万色※2	●	◎	●	◎
800×600	26万色中256色	●	◎	●	◎
	65,536色	●	◎	●	◎
	1,677万色※2	●	◎	●	◎
1,024×768	26万色中256色	◎	◎	◎	◎
	65,536色※3	◎	◎	◎	◎
	1,677万色※2	◎	◎	◎	◎
1,280×1,024	26万色中256色	△	◎	△	△
	65,536色	△	◎	△	△
	1,677万色※2	△	◎	△	△
1,600×1,200	26万色中256色	△	◎	△	△
	65,536色	△	◎	△	△

●：【Fn】を押しながら【F5】を押して拡大／縮小切り替え可能(縮小画面の場合、画面のまわりが黒く表示される)

◎：フルスクリーン表示可能

△：バーチャルスクリーンで表示可能

※1：別売のCRTディスプレイ未接続時は本機の液晶ディスプレイのみに表示される

※2：本機の液晶ディスプレイでは、ウィンドウアクセラレータのディザリング機能により実現

※3：購入時の設定

チェック!! **設定により、マニュアルに記載されていない解像度を選択することができる場合がありますが、動作を保証するものではありません。**
必ずマニュアルに記載されている解像度で使用してください。

解像度と表示色を変更する

ディスプレイの解像度と表示色の変更はコントロールパネルで設定します。

◎ 本機の画面の設定を変更する

1 **「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする**
「画面のプロパティ」が表示されます。

2 **「設定」タブをクリックする**

3 **画面の領域または色を変更する**

画面の領域を変更する場合
「画面の領域」でつまみを「大」の方向へドラッグすると高解像度に、「小」の方向へドラッグすると低解像度になります。

色を変更する場合
「色」で▼をクリックし、選択一覧から変更します。この選択一覧には、使用している液晶ディスプレイとディスプレイアダプタが対応しているカラーパレットが一覧表示されます。

> High Colorとは65,536色のことで、True Colorは1,677万色のことです。

4 **設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックする**
このあとは、画面の指示に従って操作してください。

バーチャルスクリーン

バーチャルスクリーンとは、実際に表示可能な解像度よりも大きい解像度を使用できるようにするための仮想画面のことです。バーチャルスクリーンでは、仮想画面全体のサイズが実際のディスプレイの画面より大きくなるので、ディスプレイには常に仮想画面の一部が表示されている状態となります。画面をスクロールすると、ディスプレイの画面上で見えていない部分を表示することができます。

> バーチャルスクリーンでは、「スタート」ボタンがディスプレイの画面上から外れ、表示されないことがあります。ディスプレイの画面上の見えていない部分を見るには、ポインタをディスプレイの画面の端に移動させます。ポインタの移動した方向に画面がスクロールし、見えなかった部分が表示されます。

◎ バーチャルスクリーンモードの設定方法

バーチャルスクリーンモードを使用する場合には、次の設定が必要です。

1 **「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする**
「画面のプロパティ」が表示されます。

2 **「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする**

3 **「モニタ」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする**
「デバイスドライバの更新ウィザード」が表示されます。

4 **「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする**

5 **「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする**

6 **「すべてのハードウェアを表示」を選択する**

7 **「製造元」欄で「(標準モニタの種類)」を選択し、「モデル」欄の「Super VGA 1600×1200」をクリックする**

8 **「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする**

9 **「完了」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする**

10 **「OK」ボタンをクリックする**
これで設定が完了しました。

この後は、画面の指示に従って操作してください。上記の設定をした後は、「設定」タブで、次の解像度を設定できるようになります。

・640×480ドット/800×600ドット/1,024×768ドット/1,280×1,024ドット/1,600×1,200ドット

デュアルディスプレイ機能

デュアルディスプレイとは、CRTディスプレイなどの外部ディスプレイを接続したときに、本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイを使ってひとつの画面として表示できる機能です。液晶ディスプレイと外部ディスプレイを続き画面として利用できるので、表示できる範囲が広くなります。

> デュアルディスプレイ機能は、同じ画面を2つのディスプレイに表示するのとは別の機能です。

チェック!! **画面の解像度によっては、デュアルディスプレイ表示にならない場合があります。**

参照 **別売のCRTディスプレイなどを接続するには→「外部ディスプレイ」(p.126)**

◎ デュアルディスプレイ機能を使う準備をする

画面を表示するディスプレイのオン/オフ、プライマリ/セカンダリを次の手順にしたがって設定します。

1 別売のディスプレイを接続し、電源を入れる

2 本機の電源を入れる

3 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。

4 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする

5 「ATI画面」タブをクリックする
「モニタ」「パネル」「テレビ」の接続状態が表示されます。

6 「モニタ」の左上のボタンをクリックする
接続したモニタへの表示がオンになります。

チェック!! **表示をすべてオフにすることはできません。どれかひとつはオンの状態になっています。**

7 **「モニタ」「パネル」の下のボタンをクリックする**

「プライマリ」ディスプレイ、「セカンダリ」ディスプレイが指定されます。

チェック!! **すべてをセカンダリに設定することはできません。**

接続が認識され、ディスプレイの表示がオンに設定されると、解像度とリフレッシュレート(水平同期周波数)が表示されます。

8 **「OK」ボタンをクリックする**

9 **「OK」ボタンをクリックする**

◎ デュアルディスプレイ機能を使う

1 **「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする**

「画面のプロパティ」が表示されます。

2 **「設定」タブをクリックする**

3 **画面2の絵をクリックする**

モニタの使用を確認するメッセージが表示されます。

4 **「はい」ボタンをクリックする**

5 **「適用」ボタンをクリックする**

これでデュアルディスプレイ機能を使うことができるようになります。

◎ デュアルディスプレイ機能を解除する

1 **「デュアルディスプレイ機能を使う」の手順1〜2を行う**

2 **画面2の絵を右クリックする**

3 **表示されたメニューから「使用可能」をクリックする**

4 **「適用」ボタンをクリックする**

これでデュアルディスプレイ機能は解除されました。

バッテリ

本機は、ACアダプタを使用せずに、添付のバッテリパックだけで駆動することができます。

バッテリで本機を使うときの注意

- **バッテリが充分に充電されているときは、特に必要でないかぎり、バッテリパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因となります。**
- **充電を行う際にはできるだけフル充電するようにしてください。バッテリ残量が少ない場合などに少量の充放電を何度も繰り返して本機を使用すると、バッテリ残量に誤差が生じることがあります。**
- **ハードディスクやフロッピーディスクなどへの読み書き中にバッテリ残量がなくなり、電源が切れてしまうと、作成中のデータが失われたり、ハードディスクやフロッピーディスクなどのデータが失われたり、壊れたりすることがあります。**

◎ バッテリパックを長持ちさせるには

次のような点に気を付けると、バッテリパックを長持ちさせることができます。

- バッテリの残量をできるだけなくしてから充電する
- 充電はフル充電（バッテリ充電ランプが消灯）になるまで中断しない
- 定期的にバッテリリフレッシュを実行する（→p.65）
- 本機を1カ月以上使わないときは、バッテリパックを取り外して、涼しいところに保管する

◎ バッテリの上手な使い方

- バッテリだけで本機を長時間使用する場合は、本機の省電力機能を使用してください。

参照 **省電力機能について→このPARTの「省電力機能」（p.71）**

- バッテリは、自然放電しています。本機を長期間使用しない場合でも、2〜3カ月に一度は充電することをおすすめします。

◎ バッテリ駆動中にバッテリ残量が少なくなったときは

バッテリ残量が少なくなると、電源ランプ( )が黄色に点灯します。この場合は、状況に応じて次の操作を行ってください。

- **ACコンセントから電源を供給できる場合**
  いったん使用中のソフトウェアを終了して本機の電源を切り、ACアダプタを接続してACコンセントから電源を供給してください。ACコンセントから電源を供給すると、バッテリ充電ランプ( )が点灯し、バッテリの充電がはじまります。また、バッテリを充電しながら本機を使用することもできます。
- **ACコンセントが使えない場合**
  使用中のソフトウェアを終了して、本機の電源を切ってください。

上記の操作を行わずにそのままにしておくと、「コントロールパネル」の「電源の管理」で設定してある状態になります。

◆ バッテリが少なくなったときの動作の設定をする

バッテリ残量が少なくなったりバッテリ残量がなくなったときに、本機をどのような動作や状態にするかを設定することができます。設定は「コントロールパネル」の「電源の管理」アイコンをダブルクリックすると表示される画面の「アラーム」タブで行うことができます。

充電のしかた

チェック!!

- **バッテリの充電中は、バッテリパックを本機から取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。**
- **購入直後や長時間放置したバッテリでは、バッテリ駆動ができないことや動作時間が短くなること、バッテリ残量が正しく表示されないことなどがあります。必ずフル充電してから使用してください。**

◎ バッテリの充電のしかた

本機にバッテリパックを取り付けてACアダプタをACコンセントに接続すると、自動的にバッテリの充電が始まります。本機の電源を入れて使用していても充電されます。

参照 **バッテリの充電時間について→PART4の「機能一覧」(p.173)**

充電できる電池容量は、周囲の温度によって変わります。また、高温になると充電が中断されることがありますので、18〜28℃での充電をおすすめします。

◎ 充電状態を表示ランプで確認する

バッテリの充電状態を、バッテリ充電ランプ( )で確認することができます(→p.18)。

ランプ		状態
オレンジ	点灯	バッテリ充電中
	点滅	バッテリのエラー※
消灯		ACアダプタが接続されていない、または充電完了

※：バッテリを取り付けなおしてもエラーが出るときは、バッテリリフレッシュを行ってください(→p.65)。

バッテリ残量の確認

チェック!! フル充電されている状態では、バッテリ残量表示に多少の誤差が生じる場合があります。

バッテリ残量は、次の3つの方法で確認することができます。

・インジケータ領域(タスクトレイ)にある の上にマウスポインタを合わせる

**この画面はモデルによって異なることがあります。
また、アイコンはバッテリの残量により異なります。**

・インジケータ領域(タスクトレイ)のをダブルクリックして、表示された「電源メーター」ウィンドウを見る

画面はモデルによって異なることがあります。

・「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックして、表示された「電源の管理のプロパティ」ウィンドウの「電源メーター」タブを見る

画面はモデルによって異なることがあります。

ACコンセントから電源を供給しているときは、はに変わります。

バッテリリフレッシュ

バッテリリフレッシュは、一時的に低下したバッテリの性能を回復させるときに行います。次のようなときには、バッテリリフレッシュを実行してください。

- **バッテリでの駆動時間が短くなった**

  バッテリを完全に使い切らない状態で充電を繰り返していると、バッテリの充電可能容量が目減りして、駆動時間が短くなる場合あります。これを「バッテリのメモリ効果」と呼びます。

- **購入直後や長期間、バッテリを使用しなかったため、バッテリの性能が一時的に低下した**

◎ バッテリリフレッシュの実行

1 **本機を使用中の場合は、本機の電源を切る**

2 **バッテリパックを取り付けていない場合は、バッテリパックを本体に取り付ける（→p.70）**

3 **パソコンにACアダプタを接続していない場合は、ACアダプタを接続し、電源コードをACコンセントに接続する**

4 **バッテリ充電ランプが点滅している場合は、一度バッテリパックを本体から外して、再度取り付ける**

> バッテリパックを再度取り付けたのに、バッテリ充電ランプが点滅する場合でも、バッテリパックを外さずにしばらく充電すると、通常の充電状態にもどることがあります。その場合は、バッテリリフレッシュを実行する必要はありません。

5 **バッテリをフル充電（バッテリ充電ランプが消灯した状態）まで充電する**

6 **BIOSセットアップメニューを起動する（→p.154）**

7 **電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す**

8 **「終了」メニューの「バッテリリフレッシュ」を選び、【Enter】を押す**

9 **「実行しますか?」と表示されたら、「はい」を選んで【Enter】を押す**

次のような画面が表示され、バッテリリフレッシュが始まります。

Battery Refresh Now(95% LEFT)……Don't close Display……Press ESC Key to Cancel

チェック!!
- **バッテリリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。**
- **バッテリリフレッシュの所要時間の目安は、標準バッテリ使用時フル充電状態で約70分です。**

バッテリリフレッシュが完了し、バッテリ内の電力がなくなると自動的に本機の電源が切れますので、本機の電源が切れるまでお待ちください。

◆ バッテリリフレッシュを中断する

バッテリリフレッシュを中断するときは、次の手順で行ってください。

1 **【Esc】を押す**

次のようなメッセージが表示されます。

2 **【↑】または【↓】で「Cancel Battery Refresh」を選び、【Enter】を押す**

本機が再起動します。

バッテリリフレッシュ中に本機の電源を切ろうとしたり、ACアダプタを接続したときも、バッテリリフレッシュの中断を確認するメッセージが表示されます。バッテリリフレッシュを続ける場合はACアダプタを外し、「Continue Battery Refresh」を選んでください。中断する場合は、「Cancel Battery Refresh」を選ぶと、バッテリリフレッシュが中断し、本機が再起動します。

バッテリパックの交換

◎ 交換の目安

フル充電(バッテリを充電してバッテリ充電ランプが消灯した状態)で使用できる時間が短くなったら、バッテリリフレッシュ(→p.65)を行ってください。それでも使用できる時間が回復しないときは、新しいバッテリパックを購入して交換してください。

本機に取り付けられる交換用バッテリパックは次のものです。

・PC-VP-WP30(バッテリパック(ニッケル水素))

チェック!! 特に必要でない限り、バッテリパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因になります。
バッテリは消耗品です。充放電をくりかえすと充電能力が低下します。

◎ バッテリパックの交換のしかた

⚠警告

●雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。 落雷による感電のおそれがあります。

● 使用を終えたバッテリパックを分解したり、火気に投じることは危険です。絶対にしないでください。破裂したり、液漏れしたりすることがあります。

⚠注意

●濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

チェック!! ・バッテリスロットの端子部分には絶対に触れないでください。接触不良の原因となります。

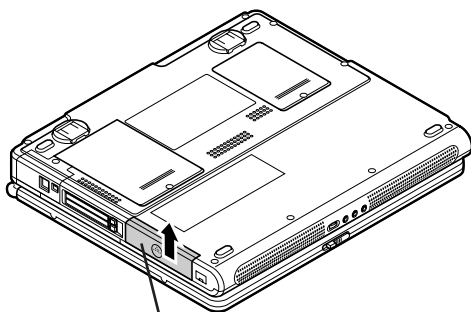
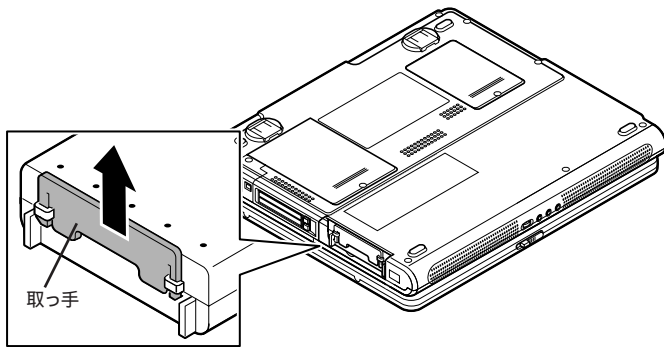
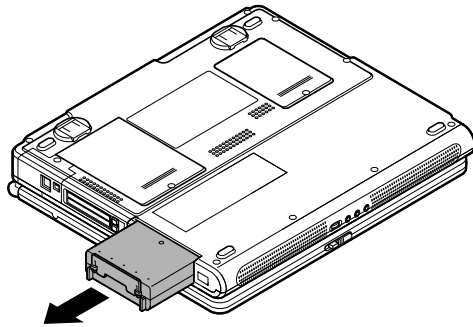
・電源が入っているときや、スタンバイ状態のときにバッテリパックを交換すると、作業中のデータが失われます。電源ランプ（⏻）が点滅しているときには、一度スタンバイ状態から復帰し、作業中のデータを保存してからWindowsを終了して本機の電源を切ってください。

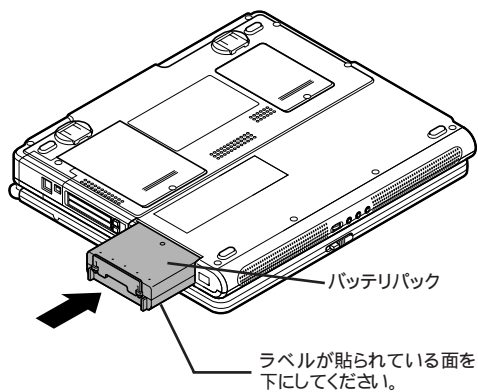
1 **本機を使用中の場合は、本機の電源を切る**

2 **電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す**

3 **液晶ディスプレイを閉じて、本機を裏返す**

4 **バッテリスロットカバーを取り外す**

カバーのくぼみを少し押して、図の矢印の方向にスライドさせながら取り外してください。

5 バッテリパックの取っ手部分を引き上げる

6 バッテリパックを矢印の方向にスライドさせて取り外す

7 本機にバッテリパックを取り付ける

バッテリパックの向きに注意して、矢印の方向にスライドさせ、奥までしっかり取り付けてください。

8 バッテリスロットカバーを取り付ける

省電力機能

省電力機能とは

省電力機能とは、CPUやハードディスク、ディスプレイといった、パソコンの主要な部分への電力供給を停止することで、本体の消費電力を抑える機能です。また、作業を一時的に中断したいときや、中断した作業をすぐに再開したいときにも便利な機能です。

◎ 本機の省電力機能

本機の省電力機能には、「スタンバイ状態(サスペンド)」と「休止状態(ハイバネーション)」があります。本機での省電力機能の設定は、コントロールパネルの「電源の管理」で行います。

◆ スタンバイ状態(サスペンド)

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、消費電力を抑える機能です。スタンバイ状態のことを「サスペンド」と呼ぶこともあります。データはメモリに保存されているため、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰(レジューム)」と呼びます。

参照 **スタンバイ状態にする→「スタンバイ状態(サスペンド)」(p.74)**

◆ 休止状態(ハイバネーション)

作業中のデータをハードディスクに保存し、電源を切る機能です。休止状態のことを「ハイバネーション」と呼ぶこともあります。普通に電源を切るのとは異なり、次に電源を入れるときに、Windowsを起動する操作をせずに、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰(レジューム)」と呼びます。

データを保持するための電力を消費しないので、長時間作業を中断するときなどに便利です。

参照 **休止状態にする→「休止状態(ハイバネーション)」(p.77)**

◆ AMD PowerNow!™テクノロジ(LG10N/RX57のみ)

使用中のアプリケーションに応じて、CPUのパフォーマンス(周波数)を調整することができます。

参照 AMD PowerNow!™テクノロジの設定をする→「AMD PowerNow!™テクノロジ」(p.79)

省電力機能を使用するときの注意

◎ スタンバイ状態または休止状態を利用できないとき

次のようなときには、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。パソコンが正常に動かなくなったり、正しく復帰できなくなることがあります。

- ・プリンタへ出力中
- ・通信用アプリケーションを実行中
- ・電話回線を使って通信中
- ・音声または動画を再生中
- ・ハードディスク、CD-ROMなどのディスク、フロッピーディスクなどにアクセス中
- ・「システムのプロパティ」画面を表示中
- ・Windowsの起動／終了処理中
- ・スタンバイ状態または休止状態に対応していないアプリケーションを使用中
- ・スタンバイ状態または休止状態に対応していないPCカード、USB対応機器、IEEE1394対応機器を使用中

◎ スタンバイ状態または休止状態を使用するときの注意

スタンバイ状態または休止状態にするときは、次のことに注意してください。

- ・スタンバイ状態では、ネットワーク機能が一旦停止します。ネットワークを使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態になった時にデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、システム管理者に確認のうえ、スタンバイ状態を使用してください。
- ・スタンバイ状態のときにバッテリの残量がなくなると電源が切れてしまいます。バッテリのみで使用している場合は、あらかじめバッテリの残量を確認しておいてください。また、バッテリ駆動時にバッテリ残量が少なくなってきたとき、パソコンをどのような動作にさせるかなどの設定もできます(→p.62)。
- ・スタンバイ状態または休止状態への移行中は、各種ディスクやPCカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
- ・スタンバイ状態または休止状態のときに、PCカードを入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、スタンバイ状態から正しく復帰できなくなることがあります。

・「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックすると表示される「画面のプロパティ」の「スクリーン セーバー」タブから設定できるディスプレイの省電力機能を利用する場合は、スクリーンセーバー機能もあわせて使用してください。スクリーンセーバー機能を使用しない場合、「MS-DOSプロンプト」使用時に省電力機能は利用できません。
・SCSI PCカードを使用している場合は、SCSI PCカードと接続されている機器の組み合わせによってはスタンバイ状態または休止状態から正しく復帰できない場合があります。このような場合は、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。
・LANカードを使用している場合、使用環境によりスタンバイ状態または休止状態が正常に行えないことがあります。
・フロッピーディスクやCD-ROMをセットしたまま休止状態から復帰すると、正しく復帰できずにフロッピーディスクやCD-ROMから起動してしまうことがあります。休止状態にする場合は、フロッピーディスクやCD-ROMを取り出してから休止状態にしてください。また、フロッピーディスクを使用しているときは、必要なファイルを保存してからフロッピーディスクを取り出してください。

◎ スタンバイ状態または休止状態から復帰するときの注意

スタンバイ状態または休止状態から復帰させるときには、次のことに注意してください。

・スタンバイ状態または休止状態にしてからすぐに復帰させたいときは、パソコンに負担がかからないよう、スタンバイ状態または休止状態になった後、約5秒以上たってから操作してください。
・スタンバイ状態または休止状態のときにPCカードの入れ替えや周辺機器の取り付け／取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常に復帰できなくなることがあります。
・スタンバイ状態または休止状態からの復帰時にパスワードを入力するように設定してある場合は、パスワード入力画面でパスワードを入力してください。

参照 **パスワード設定時の復帰→このPARTの「セキュリティ機能」の「パスワードを設定しているときの電源の入れ方」(p.84)**

スタンバイ状態(サスペンド)

◎ スタンバイ状態にする

購入時の状態では、次のいずれかの方法でスタンバイ状態にすることができます。
スタンバイ状態になると、電源ランプ(⏻)が緑色に点滅します。

- **「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で▼をクリックして「スタンバイ」を選び、「OK」ボタンをクリックする**
- **バッテリ駆動時、キーボードやNXパッドからの入力がなくなってから一定時間経過後、自動的にスタンバイ状態にする**

ほかにも、設定を行うことにより、次のような方法でスタンバイ状態にすることもできます。

・電源スイッチを押す

電源スイッチを押してスタンバイ状態にするには、「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックすると表示される「電源の管理のプロパティ」の「詳細設定」タブで、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「スタンバイ」に設定する必要があります。

・液晶ディスプレイを閉じる

液晶ディスプレイを閉じたときにスタンバイ状態にするには、「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックすると表示される「電源の管理のプロパティ」の「詳細設定」タブで「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を「スタンバイ」に設定します。

> ATAカードをセットした状態でスタンバイ状態にすると、スタンバイ状態になるまでに時間がかかる場合があります。

> 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックすると表示される「画面のプロパティ」の「Web」タブの「Active DesktopにWebコンテンツを表示」にチェックマークがついていると、自動的にスタンバイ状態にできない場合があります。この場合は、「Active DesktopにWebコンテンツを表示」の左の☑をクリックして□にしてください。

◎ スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。スタンバイ状態からの復帰は次の方法で行うことができます。

・電源スイッチを押す

スタンバイ状態にする前の元の状態が表示されます。

液晶ディスプレイを閉じてスタンバイ状態にした場合、液晶ディスプレイを開けることによって復帰することができます。また、タスクスケジューラを使って、時刻を指定してスタンバイ状態から復帰することもできます。タスクスケジューラについて詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

◎ スタンバイ状態の設定をする

◆「電源設定」で設定をする

「コントロールパネル」の「電源の管理」の「電源設定」では、スタンバイ状態にするまでの時間を変更したり、ACアダプタ駆動時にもスタンバイ状態になるように設定することができます。
また、あらかじめ設定されている電源設定モードを選んでスタンバイ状態にするまでの時間を設定することもできます。購入時には「LaVie/VersaPro」のモードに設定されています。モードは「常にオン」「ホーム／オフィス　デスク」「ポータブル／ラップトップ」「LaVie/VersaPro」の4つのモードがあります。

1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする

「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。

2 「電源設定」タブをクリックする

3 「電源設定」欄でモードを選ぶか、または下段の「システム スタンバイ」や「モニタの電源を切る」、「ハード ディスクの電源を切る」でそれぞれの時間を設定する

項　目	説　明
モニタの電源を切る	入力が何も行われないまま指定した時間が経過すると、モニタの電源を切ります。
ハード ディスクの電源を切る	指定した時間ハードディスクへのアクセスがないと、ハードディスクの電源を切ります。
システム スタンバイ	指定した時間何の入力もなく、またハードディスクへのアクセスがないと、パソコンがスタンバイ状態になり、消費電力を抑えます。
システム休止状態	指定した時間何の入力もなく、ハードディスクへのアクセスがないと、パソコンが休止状態になり、電源が切れます。

画面の下段の「××の電源の設定」の「××」には、上段の「電源設定」欄で選んだモード名が表示され、それぞれの項目欄には、モードの設定時間が表示されます。また、「電源設定」欄で新しいモードを作成することもできます。

4 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

◆新しいモードを作成する

パソコンの利用形態に合わせて、モードを新たに登録することができます。

1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする

「電源の管理のプロパティ」が表示されます。

2 「電源設定」タブをクリックする

3 「システム スタンバイ」「モニタの電源を切る」「ハード ディスクの電源を切る」のそれぞれの時間を設定する

4 「名前を付けて保存」ボタンをクリックする

5 任意の保存名を入力し、「OK」ボタンをクリックする

これで、新しいモードが登録されました。

6 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

休止状態(ハイバネーション)

◎ 休止状態にする

購入時の状態では、次の方法で休止状態にすることができます。
休止状態になると、電源ランプ(⏻)が消灯し、パソコンの電源が切れます。

- **Windowsの「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で▼をクリックして「休止状態」を選び、「OK」ボタンをクリックする**
- **バッテリ駆動時、キーボードやNXパッドからの入力がなくなってから一定時間経過後、自動的に休止状態にする**

ほかにも、設定を行うことにより、次の方法で休止状態にすることができます。

- **電源スイッチを押す**
- **液晶ディスプレイを閉じる**

上記の方法で休止状態にするためには、次の「休止状態を利用するための準備」の手順を行ってください。

◎ 休止状態を利用するための準備

◆ 電源スイッチを押して休止状態にする

1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする

「電源の管理のプロパティ」が表示されます。

2 「休止状態」タブをクリックする

3 「休止状態をサポートする」が☑になっていることを確認する

4 「詳細設定」タブをクリックする

5 「電源ボタン」の欄の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で「休止状態」を選ぶ

6 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

◆ 液晶ディスプレイを閉じたときに休止状態にする

1 「電源スイッチを押して休止状態にする」の手順1〜4を行う

2 「電源ボタン」の欄の「ポータブルコンピュータを閉じたとき」で「休止状態」を選ぶ

3 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

ATAカードをセットした状態で休止状態にすると、時間がかかる場合があります。

「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックすると表示される「画面のプロパティ」の「Web」タブの「Active DesktopにWebコンテンツを表示」にチェックマークがついていると、自動的に休止状態にできない場合があります。この場合は、「Active DesktopにWebコンテンツを表示」の左の☑をクリックして□にしてください。

◎ 休止状態から復帰する

休止状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。休止状態からの復帰は次の方法で行います。

・電源スイッチを押す

「Returning to Windows...」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示され、復帰が完了すると、元の状態(休止状態に入る前)の画面が表示されます。

> 残量の少ないバッテリで休止状態から復帰すると、復帰の途中で電源が切れる場合があります。

AMD PowerNow!™テクノロジ

ここでは、LG10N/RX57のAMD PowerNow!™テクノロジについて説明しています。

◎ AMD PowerNow!™テクノロジのセットアップ

AMD PowerNow!™テクノロジを使用できるようにするには、次の手順でセットアップを行う必要があります。

1 デスクトップ上の(PowerNow!)をダブルクリックする

「AMD PowerNow! Technology (tm) Setup」画面が表示されます。

2 「Next(次へ)」ボタンをクリックする

「Choose Destination Location」と表示されます。

3 「Next(次へ)」ボタンをクリックする

「Setup Complete」画面が表示されます。

4 「Yes, I want to restart my computer now.(はい、直ちにコンピュータを再起動します。)」を選んで、「Finish(完了)」ボタンをクリックする

本機が再起動します。

◎ AMD PowerNow!™テクノロジの設定をする

1 **「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする**

「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。

2 **「AMD PowerNow!(tm)Technology」タブをクリックする**

本機をAC電源で使用するときと、バッテリのみで使用するときの設定を行います。

- **AC電源の場合**

  「自動モード」と「ハイパフォーマンスモード」のどちらかを選択できます。▼をクリックして選択してください。

- **バッテリ使用時の場合**

  「自動モード」「ハイパフォーマンスモード」「バッテリ節電モード」のいずれかを選択できます。▼をクリックして選択してください。

セキュリティ機能

本機には、本機の不正使用やデータなどの盗難を予防するためのセキュリティ機能が搭載されています。

本機のセキュリティ機能

セキュリティ機能を利用すると、本機の不正使用やデータの盗難を防止するためのパスワードを設定したり、起動に必要なファイルを保護したりすることができます。

チェック!! セキュリティ機能を使用している場合でも、「絶対に安全」ということはありません。重要なデータなどの管理、取り扱いには十分注意してください。

パスワード

パスワードを設定することで、本機の使用者を制限するとともに、本機の不正使用を防止することができます。本機のパスワードはBIOSセットアップメニューで設定します。パスワードを設定することにより、次のような機能を制限することができます。

・本機の起動

・BIOSセットアップメニューの起動と設定変更

チェック!! ご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所などに本機の修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除しておいてください。

◎ パスワードの種類

本機で設定可能なパスワードには、「スーパバイザパスワード」と「ユーザパスワード」があります。

◆ スーパバイザパスワード

システム管理者など、本機の運用を管理する人のためのパスワードです。

◆ ユーザパスワード

日常的に本機を使用する人のためのパスワードです。

◎ パスワードを使った管理

パスワードは本機の使用状況に合わせて次のように利用できます。

◆ 日常的な使用者以外が本機の設定を管理したい場合

本機を日常的に使用している人とは別の人が本機の設定をしたい場合、はじめに管理者がユーザパスワードとスーパバイザパスワードの両方を設定しておき、ユーザパスワードのみを各利用者に通知します。この機能を使うと、管理者以外はBIOSセットアップメニューのパスワードに関する設定を変更することができなくなります。

◆ 使用者が本機の設定を管理したい場合

本機を日常的に使用する人がBIOSセットアップメニューのパスワードに関する設定も自由に行いたい場合、使用者がスーパバイザパスワードを設定します。この機能を使うと、使用者以外には本機の起動やBIOSセットアップメニューの設定変更ができなくなります。

◎ パスワードを設定／変更する

スーパバイザパスワード、またはユーザパスワードの設定／変更は、BIOSセットアップメニューで行います。パスワードを設定後にBIOSセットアップメニューを起動するときは、設定したスーパバイザパスワードを入力しなければ、BIOSセットアップメニューを起動できなくなります。

1 BIOSセットアップメニューを起動する(→p.154)

2 メニューから「セキュリティ」を選ぶ

3 「スーパバイザパスワードの設定」または「ユーザパスワードの設定」を選んで、【Enter】を押す

パスワード設定の画面が表示されます。

チェック!! スーパバイザパスワードを設定していないと、ユーザパスワードを設定することはできません。

4 「新しいパスワードを入力して下さい。」の欄で、パスワードを入力する

チェック!! ニューメリックロックキーランプ(1)が消灯していることを確認し、パスワードの文字列を8文字以内で設定してください。使用できる文字は、半角英字のA〜Z(大文字/小文字の区別はありません)と半角数字の0〜9だけです。

5 【Enter】を押す

6 「新しいパスワードを確認して下さい。」の欄で、手順4で入力したパスワードをもう一度入力する

7 【Enter】を押す

8 「変更が保存されました。」と表示されるので、【Enter】を押す

9 設定を保存して、BIOSセットアップメニューを終了する

チェック!! 設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。

◎ パスワードを入力するタイミング

パスワードを設定しておくと、BIOSセットアップメニュー起動時にパスワードを入力するように要求されます。BIOSセットアップメニュー起動時以外にも、本機の起動時にパスワードを入力するように設定できます。

本機の起動時にパスワードを入力するように設定するには、BIOSセットアップメニューの「セキュリティ」メニューの「起動時のパスワード」を「使用する」に設定してください(→p.160)。

◎ パスワードを入力する

◆ パスワードを設定しているときの電源の入れ方

BIOSセットアップメニューの「セキュリティ」の「起動時のパスワード」が「使用する」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

1 本機の電源を入れる

次のようなパスワードを入力する画面が表示されます。

2 設定されているパスワードを入力する

3 【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されると、Windowsが起動します。

チェック!!

- **誤ったパスワードが入力されると、警告が表示されます。パスワードの入力に3回失敗すると、パスワードが入力できなくなります。このときは、電源スイッチを押して電源を切ったあと、再度手順1からやり直してください。**
- **スーパバイザパスワードとユーザパスワードの両方が設定されている場合、どちらのパスワードでも復帰することができます。**
- **誤ったパスワードが入力されると復帰できません。**

◎ パスワードを忘れてしまったときは

設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまった場合には解除処置が必要です。

参照 **解除処置について→『活用ガイド　ソフトウェア編』PART4の「電源を入れたとき」**

その他のセキュリティ機能を使う

◎ 起動セクタへのウィルス感染防止

ハードディスクの起動セクタを書き込み禁止に設定できます。起動セクタ部分が削除されたり、書き換えられたりすると、正常にパソコンを起動することができなくなってしまいます。書き込み禁止に設定すると、起動セクタをコンピュータウイルスなどから保護できます。「ハードディスク起動セクタ」の設定は、BIOSセットアップメニューで行います。

参照 **ハードディスクの起動セクタを保護する→PART3の「「セキュリティ」メニューの設定」(p.160)**

◎ 盗難防止用ロック

本体の盗難防止用ロックに市販の盗難防止用ケーブルを取り付けると、本体の盗難を防止できます。

参照 **盗難防止用ロック→PART1の「各部の名称」(p.15)**

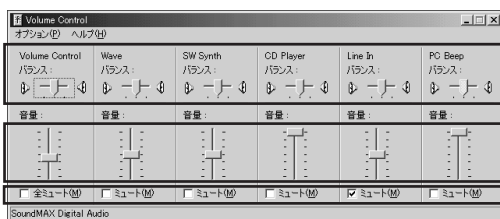
盗難防止用ロックは、キーケーブルロック等のセキュリティワイヤーに対応しています。製品についての連絡先は、以下のとおりです(2001年4月現在)。
日本ポラデジタル株式会社　第3営業部
〒104-0032　東京都中央区八丁堀1丁目5番2号　はごろもビル5F
Tel:03-3537-1070　Fax:03-3537-1071

サウンド機能

ボリュームコントロールを使うと、内蔵音源の再生音量や録音時の入力レベルを調節することができます。

ボリュームコントロールを起動する

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「ボリュームコントロール」をクリックする

「Volume Control」画面が表示されます。

各音源で、左右のスピーカのバランスを調節できる

つまみを上下すると、音量調節ができる

□をチェックすると消音状態になる

チェック!! ディスプレイの解像度を低解像度に設定しているときにボリュームコントロールを表示させると、ボリュームコントロールのすべての音源コントロールが表示されない場合や右端の音源コントロールの表示が一部欠ける場合があります。このようなときには、ディスプレイの解像度を変更する(→p.57)か、または「プロパティ」ウィンドウの「表示するコントロール」欄で、使用しない音源の選択を解除し、必要な音源コントロールが表示されるように変更してください。
なお、ディスプレイの解像度を変更する場合は、ボリュームコントロールを一旦終了し、解像度を変更後に再度ボリュームコントロールを起動してください。

表示項目を切り替える

ボリュームコントロールに表示させる項目を切り替えることができます。

1 メニューバーの「オプション」→「プロパティ」をクリックする

「プロパティ」ウィンドウが開きます。

2 「音量の調整」から「再生」「録音」のどちらかを選択する

表示項目が切り替わります。
「音量の調整」欄で選択できる項目は、モデルによって異なります。

◎ 設定項目一覧

表示できる項目と各項目の説明は次のようになります。
項目はモデルによって多少異なる場合があります。

項目	音量調節の種類		説明
	再生	録音	
Volume Control	○		スピーカから出力される全ての音量を調整します。
Wave	○		WAVEなどのPCM音源の音量を調整します。
SW Synth	○		MIDIデバイスとして"Microsoft GS Wavetable SW Synth"を選択した場合のMIDIの音量を調整します。
Stereo Wide	○		3Dエンハンスメントの効果を調整します。3Dエンハンスメントはステレオ音声に対して効果があります。
CD Player	○	○	CD-ROMで再生した音楽CDを再生、または録音する時の音量を調整します。
Microphone	○	○	マイクロホン端子から入力される音声をスピーカから出力するとき、または録音するときの音量を調整します。
Aux		○	本機では使用できません。
Line In	○	○	オーディオ入力端子に接続した機器から入力される音をスピーカから出力するとき、または録音するときの音量を調整します。
PC Beep	○		PCMCIA、Modemなどからのビープ音の音量を調整します。
Wave Out Mix		○	スピーカから出力される全ての音を録音するときの音量を調整します。

マイクの感度を調整する

1 「Volume Control」画面に「Microphone」項目が表示されていることを確認し、メニューバーの「オプション」→「トーン調整」をクリックする

「Microphone」項目に「トーン」ボタンが追加表示されます。

2 「トーン」ボタンをクリックする

Microphoneの詳細設定画面が表示されます。

3 「+20db Gain(1)」を☑にする

マイクの感度が上がります。

チェック!!
- **本機では「そのほかの調整」のみ調整可能です。**
- **本機には、ハードウェアに高音、低音の調整機能がないため「トーン調整」の高音、低音の調整はできません。**

ビープ音を設定する

キーボードを使ってビープ音のオン／オフの設定ができます。

1 【Fn】＋【F6】を押す

キーを押すごとに、ビープ音のオン／オフを切り替えることができます。また、Volume Controlの「PC Beep」でビープ音の音量を調整できます。

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力機能について

本機には、光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子が用意されており、光デジタル入力を持ったオーディオ機器に接続して音を聞いたり、オーディオ機器にデジタル録音できます。

> 光デジタル入力端子を持つオーディオ機器として、MDデッキやAVアンプなどがあります。

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子からは、デジタル再生音のみ出力できます(WAVE出力、MIDI出力、音楽CDなど)。

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力設定について

購入時の状態では、光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力機能はオフになっています。光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力機能を使用するときは、次の設定を行ってください。

1 **「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする**

2 **「デバイスマネージャ」タブをクリックする**

3 **「サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ」の左の⊞をクリックして、その下に表示される「SoundMAX Integrated Digital Audio」をダブルクリックする**

4 **「Settings」タブをクリックして、「AC-3 or PCM Audio」を選択する**

5 **「OK」ボタンをクリックする**

6 **「OK」ボタンをクリックする**

内蔵モデム

内蔵のモデムを介して電話回線に接続すると、インターネットや電子メールなどのやり取りができます。

電話回線との接続

◎ 接続可能な電話回線のコンセントについて

本機に接続可能な電話回線は2線式のみです。電話回線に接続する前に、使用する電話回線の種類を確認してください。

- **モジュラージャック式**

  本機に付属のモジュラーケーブルで接続できます。

- **3ピンプラグ式コンセント**

  市販の3ピンプラグ変換アダプタを使用するか、NTTにモジュラージャックの取り付けをご相談ください。

- **直結配線方式**

  モジュラー式コンセントに変更する必要があります。NTTにモジュラージャックの取り付けをご相談ください。

チェック!! **内蔵のFAXモデムは、加入電話回線に適合するように設計されています。加入電話回線以外と接続すると、うまく動作しないことや、内蔵FAXモデムやパソコン本体などを破損するおそれがあります。**

◎ 電話回線を接続する

⚠警告

● **雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。**

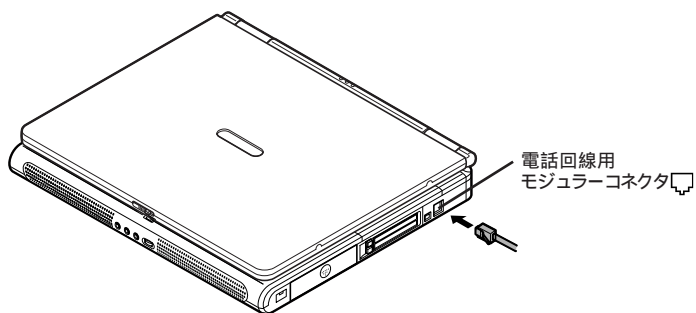
⚠注意

● **モジュラージャックの端子に触れないでください。電話回線と接続しているモジュラージャックを抜いたときに電話がかかってくると、電話回線上に電圧がかかるため、端子に触れると感電することがあります。**

1 **本機を使用中の場合は、本機の電源を切る**

2 **電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す**

3 **電話機のモジュラーケーブルをモジュラージャックなどから取り外す**

4 **付属のモジュラーケーブルの一方を本機のモジュラーコネクタに接続する**

5 **モジュラーケーブルのもう一方を壁などのモジュラージャックに接続する**

1つの電話回線のモジュラージャックを本機以外の機器(電話機など)と共用で使用する場合は、使用するごとにケーブルの接続や取り外しが必要になります。

ダイヤル設定のしかた

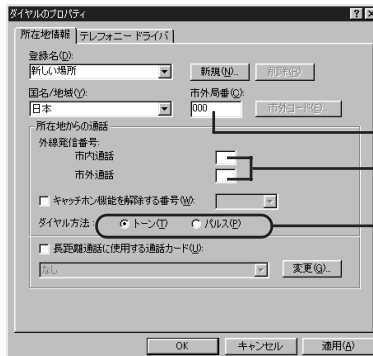
1 「コントロールパネル」を開き、「テレフォニー」アイコンをダブルクリックする

「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

◆「所在地情報」ウィンドウが表示された場合

0を除いた市外局番を入力し、「閉じる」ボタンをクリックすると、「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
必要な項目を確認して、設定してください。

携帯電話など必ず市外局番からダイヤルする必要のある環境で使用する場合は、市外局番の欄を「000」に設定してください。

◆「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示された場合

この画面はモデルによって異なります。

通信機能使用上の注意

- 内蔵FAXモデムは一般電話回線のみに対応しています。
- 加入電話回線がトーン式かパルス式かわからないときは、NTTに確認してください。
- 回線の状態によっては、接続しにくかったり、通信時に雑音が入ることがあります。
- キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。
- ダイヤルアップネットワーク接続の場合、インターネットエクスプローラを終了しても回線が接続されたままになっている場合があります。
  回線を切断する必要がある場合は、インジケータ領域(タスクトレイ)の「ダイヤルアップネットワーク」アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「切断」をクリックしてください。
- コードレスホンや親子電話などの加入電話回線以外の回線をご使用の場合は、正常なデータの送受信ができなくなる場合があります。
- 回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できない場合があります。
- 電話局の交換機の種類によっては、14400bpsでのファクシミリ通信ができないことがあります。この場合には、通信速度を9600bpsにしてください。
- データ通信を行う場合、フロー制御はRTS/CTSに設定してください。それ以外に設定すると、データ抜けが生じる可能性があります。
- 通常の電話回線を使用する場合、送信レベルはご購入時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合には、送信レベルの調整が必要なことがあります。送信レベルの調整は、工事担任者以外が行うことは法律で禁じられていますので、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。
- 本機に内蔵されているモデムは、海外では使用できません。
- 海外と直接接続した場合、伝送路の特性のため正常に通信できない可能性があります。
- ITU-T V.90の最大受信速度56,000bpsは、理論値であり、加入電話回線での通信速度とは異なります。

・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。詳しくは、下記のREADMEファイルをご覧ください。

C:¥Windows¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

・回線を使って通信中はスタンバイ状態、休止状態にしないでください。
・分岐アダプタを使ってパソコンと電話機などの両方を電話回線に接続している場合、パソコンで回線を使っているときは、電話機などの受話器をはずさないでください。パソコンの通信が妨害され、切断されることがあります。
・接続する電話機などの種類によっては、動作しない機種があります。
・接続する電話機などの種類によっては、内蔵FAXモデムが正常に通信できない場合があります。内蔵FAXモデムが正常に通信できない場合は、以下のいずれかの方法で、正常に通信できるようになります。
  - 接続する電話機などにアース接続用の端子がある場合は、アース線をつなぐ
  - 内蔵FAXモデムで通信を行うときは、電話機などを取りはずす
・構内交換機(PBX)の種類によっては、内蔵FAXモデムが使用できない場合があります。
・内蔵FAXモデムで通信を行う場合は、使用していないアプリケーションを終了させた状態で通信を行ってください。

携帯電話／PHS接続機能

携帯電話またはPHSを接続することで、屋外でも手軽にインターネットや電子メールを利用できます。

携帯電話またはPHSとの接続

本機に携帯電話やPHSを接続して、屋外でもインターネットや電子メールを利用することができます。

本機と携帯電話やPHSを接続するためには、別売のケーブルが必要になります。以下の中からいずれかのケーブルを購入してください(LaVie Gシリーズでそれぞれのケーブル添付のモデルを購入された場合を除く)。

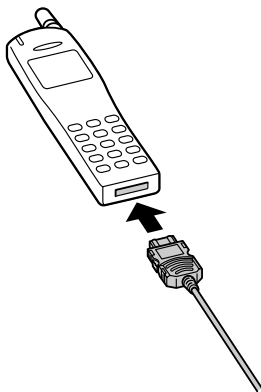
- 携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)
- cdmaOne接続ケーブル(PC-VP-WK06)
- PHS(NTTドコモ/アステル)接続ケーブル(PC-VP-WK07)
- PHS(DDIポケット)接続ケーブル(PC-VP-WK08)

お使いの携帯電話やPHSによって必要なケーブルが異なりますので、ケーブルを購入する際には、お使いの携帯電話やPHSに合ったケーブルを確認してください。

接続できる携帯電話またはPHSについては、NECのホームページ「121ware.com(ワントゥワンウェア ドット コム)」をご覧ください。
http://121ware.com/

◎ 携帯電話またはPHSを接続する

1 接続ケーブルのラベルが貼ってあるほうのプラグを、携帯電話またはPHS本体に接続する

プラグの向きに注意し、カチッと音がして止まるまで軽く押し込んでください。

2 本機のUSBコネクタ（⭠）に、接続ケーブルのUSBコネクタを接続する

⭠のある面を上にして、止まるまで軽く押し込んでください。

USBコネクタに取り付ける手順については、「USBコネクタに接続する」（→p.146）をご覧ください。

接続先を設定する

プロバイダなどへの接続先を、携帯電話またはPHSを使用した接続設定にするときは、「ダイヤルアップネットワーク」で「新しい接続」を作成するときに、「モデムの選択」で「SunComm MultiMobile3 USB」を選んでください。

チェック!! お使いの携帯電話またはPHSによっては、電話機側に設定が必要な場合や専用のアクセスポイントへの接続が必要な場合があります。詳しくは、携帯電話またはPHSのマニュアルをご覧ください。また専用のアクセスポイントについては、インターネットのサービスプロバイダにお問い合わせください。

ダイヤル設定のしかた

ダイヤルの設定を確認または変更したいときは、次の手順で行います。

1 「コントロールパネル」を開き、「テレフォニー」アイコンをダブルクリックする

◆「所在地情報」ウィンドウが表示された場合

市外局番の欄に0を除いた市外局番を入力し、「OK」ボタンをクリックします。再度、「ダイヤルのプロパティ」ボタンをクリックすると、「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが表示されます。必要な項目を確認して設定してください。

携帯電話またはPHSなど、必ず市外局番からダイヤルする必要のある環境で使用する場合は、市外局番の欄を「000」に設定してください。

◆「ダイヤルのプロパティ」ウィンドウが開いた場合

携帯電話／PHS接続機能使用上の注意

ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。詳しくは、下記のREADMEファイルをご覧ください。

C:¥Windows¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

いろいろなデータ通信を行う

このパソコンの携帯電話／PHS接続機能では、通常のデータ通信のほかに、次のようなデータ通信を行うことができます。

◎ cdmaOneでデータ通信を行う

cdmaOne電話機のデータ通信モードを「Async」に設定して、USBコネクタに接続するとcdmaOneでデータ通信が利用できます。
また、cdmaOne電話機のデータ通信モードを「Packet」に設定してUSBコネクタに接続すると、cdmaOneでPacket通信が利用できます。「Async」モードおよび「Packet」モードの切り替えは、cdmaOneの取扱説明書をご覧ください。

チェック!! **cdmaOneを使用する場合には、cdmaOne接続ケーブル(PC-VP-WK06)が必要です(LaVie GシリーズのcdmaOne接続ケーブル添付のモデルを購入された場合を除く)。**

◎ NTTドコモのDoPaサービスでデータ通信を行う

次の手順を行うとNTTドコモのDoPaサービス(パケット通信サービス)を利用できます。

チェック!! NTTドコモの携帯電話を使用する場合には、携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)が必要です(LaVie Gシリーズの携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル添付のモデルを購入された場合を除く)。

1 NTTドコモのDoPaサービスが利用可能な携帯電話を、接続ケーブルを使ってUSBコネクタに接続する

2 「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##02」を追加する

チェック!!
- **DoPaによる通信をする場合には、DoPa対応のアクセスポイントに接続する必要があります。**
- **DoPaサービスを利用せずに9600bpsデータ通信を行う場合には、「##02」を追加する必要はありません。**

◎ NTTドコモのドッチーモでPIAFS32Kのデータ通信を行う

次の手順を行うとNTTドコモのドッチーモでPIAFS32Kの通信が利用できます。

チェック!! NTTドコモのドッチーモを使用する場合には、携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)が必要です(LaVie Gシリーズの携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル添付のモデルを購入された場合を除く)。

1 ドッチーモを、接続ケーブルを使ってUSBコネクタに接続する

2 「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##3」を追加する

チェック!!
- **ドッチーモでPIAFS32K通信を行う場合には、ドッチーモの待ち受けモードを「PHS専用」に切り替える必要があります。**
- **NTTドコモ、アステル、DDIポケットのPHSを接続している場合は、「##3」を追加する必要はありません。**

◎ NTTドコモのPHS(64K対応)またはドッチーモでPIAFS64Kのデータ通信を行う

次の手順を行うとNTTドコモのPHS(64K対応)またはドッチーモでPIAFS64Kの通信が利用できます。

チェック!!

- NTTドコモのPHSを使用する場合には、PHS(NTTドコモ／アステル)接続ケーブル(PC-VP-WK07)が必要です(LaVie GシリーズのPHS(NTTドコモ／アステル)接続ケーブル添付のモデルを購入された場合を除く)。
- NTTドコモの携帯電話を使用する場合には、携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)が必要です(LaVie Gシリーズの携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル添付のモデルを購入された場合を除く)。

1 **NTTドコモのPHS(64K対応)またはドッチーモを、接続ケーブルを使ってUSBコネクタに接続する**

2 **「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##4」を追加する**

チェック!!

- ドッチーモでPIAFS64K通信を行う場合には、ドッチーモの待ち受けモードを「PHS専用」に切り替える必要があります。
- PIAFS64K通信モードで、PIAFS32K専用のアクセスポイントへ誤って接続した場合、いったん接続した後で切断されることがあります。PIAFS64Kで通信を行う場合は、必ずPIAFS64K対応のアクセスポイントに接続してください。

◎ DDIポケットの電話機(32K対応)でPIAFS32Kのデータ通信を行う

チェック!! DDIポケットの電話機を利用する場合は、PHS(DDIポケット)接続ケーブル(PC-VP-WK08)が必要です(LaVie GシリーズのPHS(DDIポケット)接続ケーブル添付のモデルを購入された場合を除く)。

1 **DDIポケットの電話機(32K対応)を接続ケーブルを使って本機のUSBコネクタに接続する**

2 **「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##3」を追加する**

チェック!! DDIポケットの電話機を使ってPIAFS32Kデータ通信を行う場合には、PIAFSに対応したアクセスポイントに接続する必要があります。

◎ DDIポケットのH"(エッジ)でPIAFS64Kのデータ通信を行う

DDIポケットのH"を利用する場合は、PHS(DDIポケット)接続ケーブル(PC-VP-WK08)が必要です。

1 **H"(電話機)を接続ケーブルを使って本機のUSBコネクタに接続する**

2 **「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##4」を追加する**

チェック!!

- 電話番号の最語に「##4」を追加せずに発信すると32Kbpsでの接続になります。
- 一部の地域では64Kbpsでのデータ通信ができない場合がありますが、32Kbpsでのデータ通信は可能です。
- 回線の混雑具合により、32Kbpsで接続される場合があります。

LAN(ローカルエリアネットワーク)

ここでは、LAN内蔵モデルについてのみの説明をしています。

LANへの接続

本機の内蔵LANボードは、100BASE-TXまたは10BASE-Tネットワークシステムに接続することができます。

> 100BASE-TXは、従来のEthernet(10BASE-T)の環境で転送速度100Mbpsを実現したネットワークです。従来のネットワーク構成を変更せずに既存のハブやリンクケーブルを変更するだけで、高速化がはかれます。本機は、どちらの環境にも接続することができます。

◎ LANの設置

はじめて100BASE-TXネットワークを設置するためには、配線工事などの技術が必要ですので、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。また、本機に接続するケーブル類やハブなどは、弊社製品を使用してください。他社製品を使用し、システムに異常が発生した場合の責任は負いかねますので、ご了承ください。

◎ 接続方法

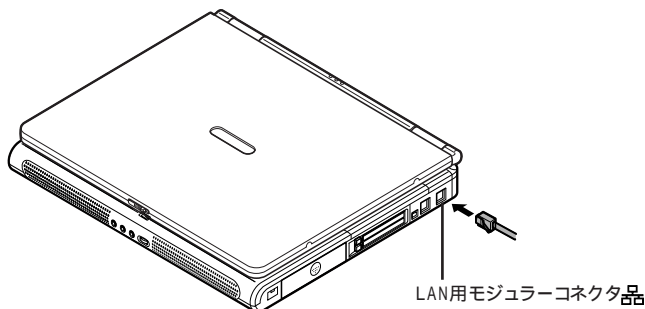
既存のネットワークに、端末として本機を接続する場合について説明します。

ネットワークへの接続には、リンクケーブルが必要です。
本機に内蔵されているLANインターフェイスは、100Mbpsで動作する100BASE-TX基準を満たしています。100BASE-TX(100Mbps)で使用するときには、必ずカテゴリ5のリンクケーブルを使用してください。10BASE-T(10Mbps)で使用するときには、カテゴリ3または5のリンクケーブルを使用してください。

チェック!! 本機を稼働中のネットワークに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示に従って、ネットワークの設定やリンクケーブルの接続を行ってください。

1 **本機を使用中の場合は、本機の電源を切る**

2 **電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す**

3 **リンクケーブルの一端を、本機のLAN用モジュラーコネクタに、奥までしっかり差し込む**

4 **リンクケーブルのもう一方を、ネットワーク（100BASE-TXハブなど）に接続する**

ネットワーク側の接続や設定については、接続するネットワーク側の機器のマニュアルをご覧ください。

運用上の注意

LANに接続して本機を使用するときは、次の点に注意してください。

- システム運用中は、ハブからリンクケーブルを外さないでください。ネットワークが切断されます。ネットワーク接続中にリンクケーブルが外れたときは、すぐに接続することで復旧し、使用できる場合もありますが、使用できない場合は、本機を再起動してください。
- LAN回線を接続してネットワーク通信をするときには、本機にACアダプタを接続して使用するようにしてください。バッテリパックのみで使用すると、使用時間が短くなります。
- ネットワーク（LAN）に接続して通信状態のときは、スタンバイ状態や休止状態にしないでください。本機が正常に動かなくなることがあります。

・100BASE-TX/10BASE-Tシステムの保守については、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

◎ ユニバーサル管理アドレス（MACアドレス）

ユニバーサル管理アドレスは、IEEE（米国電気電子技術者協会）で管理されているアドレスで、主に他のネットワークに接続するときなどに使用します。ユニバーサル管理アドレスは、次の方法で確認することができます。

コマンドプロンプトに、次のコマンドを入力してください。

NET CONFIG WORKSTATION 【Enter】

（「アクティブなネットワーク（ワークステーション）」という項目の（　）内に表示されます。）

◎ 電源回復（スタンバイ状態からの復帰）の設定

以下の設定を行うと、本機をネットワークに接続して使用しているときに、電源回復イベントを発生させることで、本機をスタンバイ状態から自動的に復帰させることができます。

> リモートパワーオンには、従来からサポートされているMagicPacket検出に加えて、電源回復フレーム検出（例えば、ARPリクエスト、NETBIOS名検索、コンピュータに直接送られてきたIPフレームなどの検出）が追加されています。
> ARPリクエスト、NETBIOS名検索、コンピュータに直接送られてきたIPフレームなどは、コンピュータから不定期に送られてくるため、本機をスタンバイ状態にしておくと、これらが検出されたときに、不定期にスタンバイ状態から復帰することがあります。

チェック!!

- **電源回復イベントの設定を行った場合は、購入時の設定で使う場合にくらべて、本機のバッテリの消費量が大きくなります。バッテリ駆動時間を優先して本機を使いたい場合は、電源回復イベントの設定は行わずに出荷時の設定で使用してください。**
- **電源回復イベントを利用するには、電源回復イベントのパケットを発信するパソコンに、別売の「DMITOOL Ver8.2（pcAnywhere™ 9.2 EXコンプリート版付）」が必要です。**

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

2 「デバイスマネージャ」タブをクリックする

3 「ネットワークアダプタ」をダブルクリックする

4 表示されたLANアダプタをダブルクリックする

5 「電源の管理」タブをクリックする

6 以下の設定を行う

- 「節電のためにコンピュータの電源を自動的に切る」を「オン」にします。
- 「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」を「オン」にします。

CATVでインターネットを利用する

本機に内蔵されているLANインターフェイスから、CATVインターネットを利用することができます。

◎ CATVインターネットとは

CATVインターネットは、CATVのケーブルを利用したインターネット接続サービスです。約500Kbps〜約10Mbps(モデムの約10〜100倍)の高速な接続が可能です。また、電話回線を利用しないため、電話料金がかかりません(ただしCATVインターネットのサービス会社への接続料金はかかります)。

> データの転送速度は、CATVインターネットのサービス会社によって異なります。また、データの転送速度は、回線の混雑の状況、データを転送する状況(アップロード時か、ダウンロード時か)によって変化することがあります。

◎ CATVインターネットを利用するには

CATVインターネットを利用するには、CATVインターネットのサービス会社(最寄りのCATV局)と契約が必要です。最寄りのCATV局に、インターネットの接続サービスを行っているか、確認してください。
CATVインターネットへの接続方法や設定方法については、CATVインターネットのサービス会社に確認してください。
CATVインターネットのサービス会社によっては、ユニバーサル管理アドレス(MACアドレス)が必要になります。ユニバーサル管理アドレス(MACアドレス)については、「ユニバーサル管理アドレス(MACアドレス)」(→p.104)をご覧ください。

PART

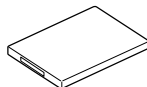
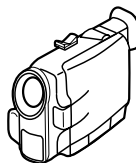
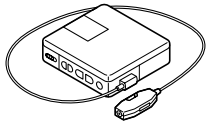
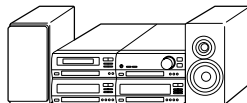
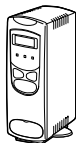
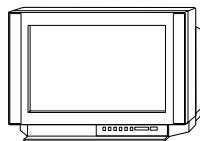
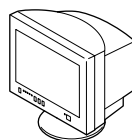
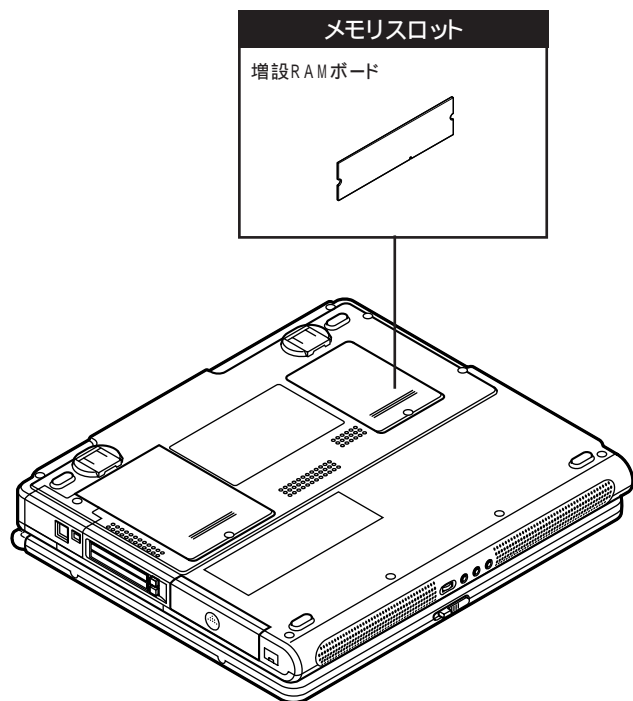
2

周辺機器を使う

別売の周辺機器の接続方法や注意事項などを説明しています。

接続できる周辺機器

本機には、次のような別売の周辺機器を接続できます。

本体前面／右側面

本体背面

USBコネクタ
USB機器
マウス、キーボード、
など
携帯電話、PHS端末
（携帯電話、PHS端末を接続する
場合は、携帯電話／PHS接続ケー
ブルが必要）
シリアルコネクタ
ターミナルアダプタなど
マウス／テンキーボード用コネクタ
マウス
テンキーボード
映像出力端子
テレビ
外部CRT用コネクタ
外部ディスプレイ
パラレルコネクタ
プリンタ

本体底面

周辺機器の利用

プリンタや外部ディスプレイなど、本機に接続して使用する機器全般を、周辺機器といいます。本機には、さまざまな周辺機器を接続するためのコネクタやポートが用意されています。

周辺機器や外部のコンピュータと本機との間で信号(データ)をやり取りするための「窓口」となるのがポートです。やり取りする信号(データ)を船荷に例え、それらを積み降ろしする港(ポート)に例えてこの名前が付いています。WindowsのCOM1ポートは本機のシリアルコネクタ(ポート)に、LPT1はパラレルコネクタ(ポート)にあたります。

周辺機器利用上の注意

⚠警告

●雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

⚠注意

●周辺機器の取り付け/取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、本機と周辺機器の電源コードを抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま、周辺機器の取り付け/取り外しをすると、感電の原因となります。

●濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

◎ 周辺機器の取り付け/取り外し時の注意

・本機がスリープ状態のときは、周辺機器を取り付けたり取り外したりしないでください。
本機がスリープ状態のときは、本機を一度元の状態に戻してデータを保存し、電源を切ってから周辺機器の取り付けや取り外しを行ってください。

・別売の周辺機器を取り付けるときには、その周辺機器が本機に対応していることを確認してください。また、周辺機器によっては使用上の制限事項がある場合がありますので、周辺機器の説明書などをよくお読みになり使用してください。当社製以外の周辺機器を使用する場合は、機器の製造元／発売元などに上記の事項を確認してください。

・周辺機器の取り付けや取り外しは、取扱説明書に従って正しく行ってください。

・周辺機器によっては、専用のケーブルが必要な場合があります。接続する前に確認のうえご用意ください。

◎ リソースの競合について

周辺機器を増設すると、他の機器とリソースが競合してどちらかが使えなくなることがあります。この場合は、以下の手順でリソースが競合しないように変更してください。

1 起動しているアプリケーションをすべて終了する

2 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

3 「デバイスマネージャ」タブをクリックする

「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

4 !や×が表示されていて動作しない周辺機器を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックする

5 「プロパティ」画面で「リソース」タブをクリックし、「自動設定」を□(オフ)にする

6 競合しているリソースを「リソースの種類」一覧の中から選択し、ダブルクリックする

「競合するデバイス」欄に、競合しているデバイスと、競合しているリソースの種類が表示されます。

7 競合しないリソースの値を設定し、「OK」ボタンをクリックする

「競合の情報」欄に競合しているデバイスと競合しているリソースが表示されます。

チェック!! 他の周辺機器がそのリソースを使用している場合や、「この設定のリソースは変更できません」と表示された場合は、その値への変更はできません。

> 選択した周辺機器によっては「ポート番号」と「I/Oの範囲」など複数の変更が必要になることがあります。

8 リソースが競合していないことを確認し、「プロパティ」画面で「OK」ボタンをクリックする

9 「変更不可の環境設定の作成」のダイアログが表示されるので、「はい」ボタンをクリックする

もとの画面に戻るまでに、しばらく時間がかかることがあります。そのままお待ちください。

10 「OK」ボタンをクリックし、「システムのプロパティ」を閉じる

11 本機を再起動する

◎ 周辺機器を使えるようにセットアップする

周辺機器を使うには、接続した周辺機器用のデバイスドライバを本機にセットアップする必要があります。デバイスドライバとは、本機と周辺機器との仲介をする周辺機器専用のソフトウェアのことです。

チェック!! デバイスドライバが正しく組み込めなかった場合は、周辺機器が使用できないばかりか、本機の動作が不正になることがあります。その場合は、周辺機器のマニュアルにしたがって、再度デバイスドライバを正しく組み込んでください。

デバイスドライバのセットアップ方法は、周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しているかどうかによって異なります。

- **「プラグ&プレイ機能」対応の周辺機器の場合**

  機器を本機に接続してWindowsを起動すると、自動的にドライバの設定が行われて機器が使用可能な状態になります。

本機には、プラグ＆プレイ機能用に多くの周辺機器のドライバがあらかじめ添付されています。接続しようとする周辺機器がプラグ＆プレイ機能に対応しており、かつ添付されたドライバの中に該当するものがあれば、周辺機器の検出と設定が自動的に行われます。

- **「プラグ＆プレイ機能」に対応していない周辺機器の場合**

  機器を本機に接続した後、ドライバの設定が必要な場合があります。設定の詳細は、本機やドライバに添付のREADMEファイルや周辺機器のマニュアルをご覧ください。

READMEファイルは、「メモ帳」などのテキスト形式のファイルが開けるアプリケーションで簡単に見ることができます。

◎ 周辺機器の電源を入れる／切る順序

本機に周辺機器を接続しているときには、次の順序で電源を入れたり、切ったりしてください。

◆ 電源を入れるとき

周辺機器の電源を入れる → 本機の電源を入れる

◆ 電源を切るとき

本機の電源を切る → 周辺機器の電源を切る

プリンタ

プリンタを使用するには、そのプリンタ機種に対応した専用のドライバが必要です。ドライバは通常フロッピーディスクなどの形でプリンタに添付されています。また、本機にも代表的なプリンタのドライバが数多く添付されています。

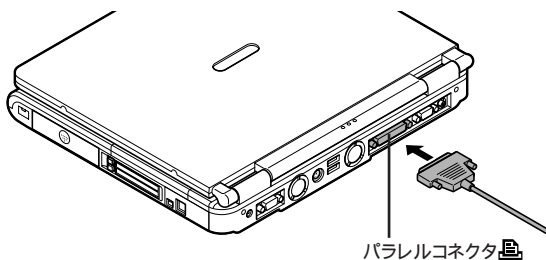
プリンタの接続

本機のパラレルコネクタにプリンタを接続するときは、25ピンパラレルインターフェイスに対応したプリンタケーブルが必要です。
また、プリンタによっては、本機のUSBコネクタに接続できる機種もあります。

参照 USB対応プリンタを使う→このPARTの「USBコネクタ」(p.146)

1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る

2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す

3 本機のパラレルコネクタにプリンタケーブルの小さいほうのコネクタを向き(上下)に注意して差し込む

4 プリンタケーブルの大きい方のコネクタをプリンタのコネクタに差し込む

接続についてはプリンタのマニュアルもご覧ください。

5 プリンタの電源ケーブルと本機の電源コードをACコンセントに接続する

プリンタの設定

プリンタの設定は、使用するプリンタの機種ごとに、Windowsの「プリンタ」ウィンドウで行います。例えば、会社で使うプリンタと家庭で使うプリンタの機種が異なる場合は、それぞれの機種に対して設定を行う必要があります。

◎ プラグ&プレイ機能対応のプリンタを設定する

プラグ&プレイ機能(→p.113)に対応したプリンタを設定する場合、プリンタを本機に接続したあとプリンタ→本機の順に電源を入れると、自動的にプリンタドライバの組み込みが行われます。

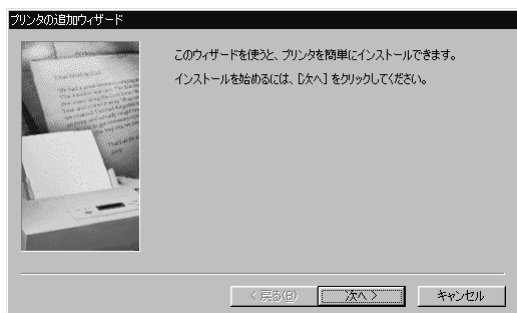
◎ プラグ&プレイ機能を利用しないでセットアップを行う場合

1 プリンタが正しく接続され、プリンタの電源が入っていることを確認する

2 「スタート」ボタン→「設定」→「プリンタ」をクリックする

「プリンタ」画面が表示されます。
すでに設定済みのプリンタがある場合は、その機種のアイコンが表示されています。

3 「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックする

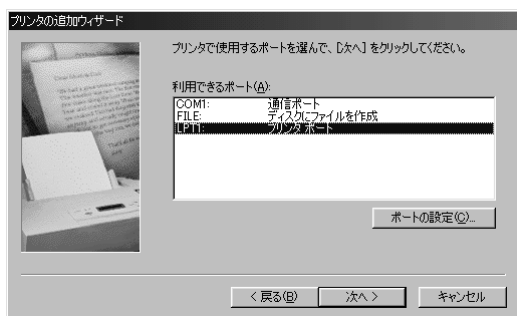
「プリンタの追加ウィザード」が表示されます。

4 「次へ」ボタンをクリックする

5 「プリンタはどこに接続されていますか?」と表示された場合は、「ローカルプリンタ」をクリックして「次へ」ボタンをクリックする

「製造元」と「プリンタ」のリストが表示されます。

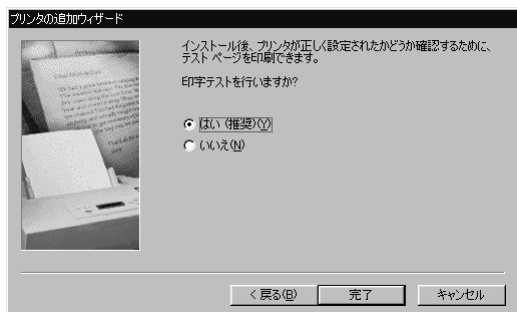
6 表示されたリストの中から、使用するプリンタの製造元とプリンタ機種（または互換性のある機種）を選択する

プリンタにインストールディスク（ドライバディスク）が添付されており、そのインストールディスクを使用してセットアップを行う場合は、「ディスク使用」ボタンをクリックします。インストール場所を指定する画面が表示されたら、プリンタのマニュアルをご覧になり、インストールディスクの指定を行ってください。

7 「次へ」ボタンをクリックすると、プリンタを使用できるポートのリストが表示されるので、LPT1を選ぶ

8 「次へ」ボタンをクリックし、表示された画面の「プリンタ名」欄に使用するプリンタの名前を付ける

この欄には手順6で選択したプリンタの機種名がプリンタ名として表示されるので、特に名前を付け直す必要がなければ、そのままにしておきます。

9 「次へ」ボタンをクリックする

テスト印刷を行うかどうかを選択する画面が表示されます。
「はい(推奨)」を選択すると、テストページの印刷によってプリンタの接続や設定が正常に行われたかどうか確認することができます。この場合は、あらかじめプリンタのマニュアルに従って用紙などをセットしておいてください。

10 設定が終了したら「完了」ボタンをクリックする

もし、今までの設定を変更したい場合は、「戻る」ボタンをクリックして前の設定画面に戻り、設定をやり直します。

このあと必要なファイルのコピーが行われます。ファイルのコピーがすべて終了すると、設定したプリンタのアイコンが「プリンタ」ウィンドウに表示されます。
「Windowsのディスクを挿入してください」というメッセージが表示された場合は、「C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」を指定してください。

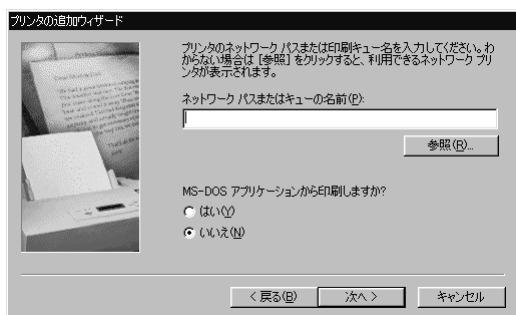
チェック!! NEC製プリンタMultiWriterシリーズ、MultiImpactシリーズのPrintAgentは、スタンバイ機能に対応していない場合があります。その場合は「コントロールパネル」の「電源の管理」を開き、「システム　スタンバイ」を「なし」に設定してください。

◎ ネットワーク上の共有プリンタを使うには

ネットワークに接続されているプリンタを使用する場合は、次のように設定します。設定するには、あらかじめプリンタのパスを調べておく必要があります。プリンタのパス名など、ネットワークプリンタについては、ネットワークの管理者にお問い合わせください。

1 「プリンタの設定」(→p.116)の手順1〜4を行う

2 「ネットワークプリンタ」をクリックして、「次へ」ボタンをクリックする

次のような画面が表示されます。

3 ネットワークパス名を入力する

「参照」ボタンをクリックすると、ネットワークに接続されているプリンタが表示されるので、そこから選ぶこともできます。

4 「次へ」ボタンをクリックし、あとは画面の指示に従ってプリンタの設定を行う

マウス

本機では、添付または別売のマウスを使用することができます。ここでは、別売のマウスを使用するための手順を説明しています。

別売のマウスの設定方法

本機では、別売のUSBマウス、シリアルマウス、PS/2互換マウスを使用することができます。

チェック!! **マウスドライバの変更を行うとき、一時的にマウスやNXパッドなどのポインティングデバイスが使用できなくなる場合があります。その場合は次のようにキーボードを使って本機を再起動してください。**

◆ キーボードでの再起動

①【Ctrl】を押しながら【Esc】を押す
②カーソル移動キーで「Windowsの終了」を選択し【Enter】を押す
③カーソル移動キーで「再起動」を選択し、【Enter】を押す

◎ USBマウスを使用する

本機でUSBマウスを使用する場合は、以下の手順で設定を行ってください。

チェック!! **マウスドライバの変更を行うときは、使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。**

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

2 「デバイス マネージャ」タブをクリックする

3 「マウス」の左の+をクリックする

4 「NX PAD」を選択し「プロパティ」ボタンをクリックする

「NX PADのプロパティ」画面が表示されます。

5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする

「デバイスドライバの更新ウィザード」画面が表示されます。

6 「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

7 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

8 「モデル」から「標準PS/2ポートマウス」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

チェック!!
- 「モデル」に「標準PS/2ポートマウス」が表示されていない場合は、「すべてのハードウェアを表示」をクリックして「製造元」から「標準マウス」を選択し、「モデル」から「標準PS/2ポートマウス」を選択してください。
- 「ドライバ更新の警告」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

9 「次へ」ボタンをクリックする

必要なファイルがコピーされます。

10 「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする

「システム設定の変更」画面が表示されます。

チェック!! ポインタが動かなくなった場合は、【Enter】を押してください。

11 「はい」ボタンをクリックする

本機が再起動します。

再起動後、USBマウスを接続してください。

チェック!! 「マウスのプロパティ」で「ポインタの速度」の設定を変更すると、USBマウスを動かしてもマウスポインタが正常に動作しない場合があります。この場合は、次の手順でポインタの速度を標準設定に戻してください。

1 「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする

「マウスのプロパティ」が表示されます。

2 「ポインタ　オプション」タブをクリックする

3 「ポインタの速度」を左から5番目の設定にする

参照 マウスドライバのインストール方法→各機器のマニュアル

◎ シリアルマウスを使用する

本機にシリアルマウスを接続して使用する場合は、以下の手順で設定を行ってください。

チェック!! 接続するときは、必ず本機の電源を切ってから接続してください。

1 **シリアルマウスを本機のシリアルコネクタに接続する**

2 **「コントロールパネル」を開き、「ハードウェアの追加」アイコンをダブルクリックする**

「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されます。

3 **「次へ」ボタンをクリックする**

4 **「次へ」ボタンをクリックする**

5 **「デバイスは一覧にない」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする**

6 **「はい(通常こちらを選択してください)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする**

7 **「プラグアンドプレイで検出されなかった新しいデバイスを検出します。」とメッセージが表示されたら、「次へ」ボタンをクリックする**

チェック!! ハードウェアの検出には数分かかる場合があります。

8 **ハードウェアの検出が完了したら「詳細」ボタンをクリックし、「シリアルマウス」が認識されたことを確認する**

9 **「完了」ボタンをクリックする**

チェック!! シリアルマウスが動作しない場合は、本機を再起動してください。

◎ PS/2互換マウスを使用する

本機にPS/2互換マウスを接続して使用する場合は、以下の手順で設定を行ってください。

1 本機の電源を切る

2 マウス／テンキーボード用コネクタ(⌨／🖱)にPS/2互換マウスを接続する

マウスに専用のドライバが添付されている場合は、マウスのマニュアルにしたがってドライバの変更を行ってください。

NXパッドを使用する設定に戻す

1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

2 「デバイス　マネージャ」タブをクリックする

3 「マウス」の左の+をクリックする

4 現在使用しているマウスを選択し、「プロパティ」ボタンをクリックする

現在使用しているマウスのプロパティ画面が表示されます。

5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする

「デバイスドライバの更新ウィザード」画面が表示されます。

6 「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

7 **「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする**

8 **「モデル」の「NX PAD」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする**

9 **「次へ」ボタンをクリックする**

必要なファイルがコピーされます。

10 **「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする**

11 **「閉じる」ボタンをクリックし、再び「閉じる」ボタンをクリックする**

12 **本機を再起動する**

再起動後、NXパッドが有効になります。再起動してもポインタが動かない場合は、キーボードを使用して本機をもう一度再起動してください。

他社製のマウスドライバを使用するときの注意

他社製のマウスには、独自のマウスドライバが添付されているものがあります。他社製のマウスドライバのインストール、アンインストールは以下の手順で行ってください。

チェック!! **マウスドライバを変更するときは、使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。**

◎ 他社製のマウスドライバをインストールする

1 **「USBマウスを使用する」(→p.120)の手順1〜11を行い、マウスドライバを「標準PS/2ポートマウス」に設定する**

2 **他社製のマウスドライバをインストールする**

参照 **マウスドライバのインストール→マウスのマニュアル**

◎ 他社製のマウスドライバをアンインストールする

1 他社製のマウスドライバをアンインストールする

参照 マウスドライバのアンインストール→マウスのマニュアル

2 「USBマウスを使用する」(→p.120)の手順1〜11を行い、マウスドライバを「標準PS/2ポートマウス」に設定する

3 「NXパッドを使用する設定に戻す」(→p.123)の手順に従い、NXパッドを使用する設定に戻す

本機にCRTディスプレイやプロジェクタ、テレビなどを接続することができます。CRTディスプレイの大画面で作業したり、プロジェクタを使ったプレゼンテーションなどが可能になります。

CRTディスプレイの接続

◎ CRTディスプレイ接続時の解像度と表示色

別売のCRTディスプレイでは、次の解像度と表示色を表示できます。

表示解像度（ドット）	水平走査周波数（KHz）	垂直走査周波数（Hz）	表示色		
			256色	65,536色	1,677万色
640×480	31.5	60	○	○	○
	37.5	75	○	○	○
	43.3	85	○	○	○
800×600	37.9	60	○	○	○
	46.9	75	○	○	○
	53.7	85	○	○	○
1,024×768	48.4	60	○	○	○
	60.0	75	○	○	○
	68.7	85	○	○	○
1,280×1,024	64.0	60	○	○	○
	80.1	75	○	○	○
	91.1	85	○	○	○
1,600×1,200	75.0	60	○	○	×
	93.8	75	○	○	×

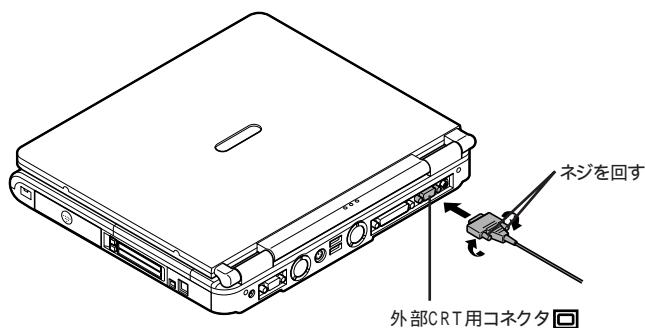
○：表示可能
×：表示不可能

お使いになるCRTディスプレイによっては、上の表に記載されている走査周波数や解像度に対応していない場合があります。CRTディスプレイをご使用の際は、CRTディスプレイのマニュアルで、対応している走査周波数や解像度を確認してください。

◎ CRTディスプレイを接続する

1 **本機を使用中の場合は、本機の電源を切る**

2 **電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す**

3 **ディスプレイ用ケーブルを本機の外部CRT用コネクタ( )に差し込み、ネジを回して固定する**

4 **CRTディスプレイの電源ケーブルを、ディスプレイ背面の電源コネクタに差し込む**

詳しくはCRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。

5 **CRTディスプレイの電源ケーブルのプラグをACコンセントに接続する**

CRTディスプレイを接続した場合、本機はACアダプタでお使いください。

プロジェクタの接続

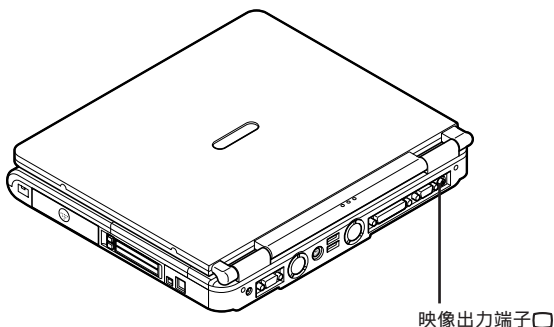
本機には、別売のプロジェクタを接続することができます。プロジェクタは、プレゼンテーションなどに利用することができます。

◎ 液晶プロジェクタと解像度について

別売の液晶プロジェクタを使用する場合は、プロジェクタのマニュアルを参考にして表示解像度などを確認してください。

テレビの接続

本機は、市販のビデオケーブルを使って、本機の映像出力端子（▢）とテレビやビデオなどの映像入力端子を持つ機器を接続し、パソコンの画面をテレビに出力することができます。

参照 テレビで表示できる解像度と表示色→PART1の「液晶ディスプレイ」（p.55）

◎ テレビに表示する

テレビに表示するためには設定が必要です。次の手順で設定を行ってください。

1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする

「画面のプロパティ」が表示されます。

2 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする

3 「ATI画面」タブをクリックする

「モニタ」「パネル」「テレビ」の接続状態が表示されます。

4 「テレビ」の左上の をクリックする

接続したテレビへの表示がオンになります。

5 「OK」ボタンをクリックする

6 メッセージが表示されたら、「はい」ボタンをクリックする

外部ディスプレイの設定

◎ 表示ディスプレイの切り替え

別売のCRTディスプレイなどを接続した場合、キーボードの【Fn】を使って、次のように表示するディスプレイを切り替えることができます。

機　　能	キー操作	説　　明
ディスプレイ切り替え	【Fn】＋【F3】	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「液晶ディスプレイとCRTの同時表示」→「テレビ」※→「液晶ディスプレイ」→「CRT」の順に切り替わります。

※：テレビが接続されているときのみ切り替わります。

チェック!! **DVD VIDEOディスク再生は「プライマリ」に設定されているデバイスでのみ表示可能となります。**

◎ ディスプレイに合わせて本機を設定する

別売のCRTディスプレイを使用したとき、表示されたメッセージが適切でなかったり、プラグ&プレイに対応していないディスプレイの場合には、次の操作を行ってください。

1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする

「画面のプロパティ」が表示されます。

2 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする

3 「モニタ」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする

「デバイスドライバの更新ウィザード」が表示されます。

4 「ドライバの場所を指定する（詳しい知識のある方向け）」を選択する

5 「次へ」ボタンをクリックする

6 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

7 **「すべてのハードウェアを表示」を選択する**

8 **「デバイスドライバの更新ウィザード」の一覧から「製造元」と「モデル」を選択する**

一覧に、接続したディスプレイのモデルが表示されない場合は、「製造元」で「(標準モニタの種類)」を選択し、「モデル」で接続したディスプレイに対応した解像度を選択してください。

9 **「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする**

10 **「完了」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする**

11 **「OK」ボタンをクリックする**

これでディスプレイの設定が完了しました。

PCカード

本機ではPC Card Standard準拠のPCカードを使用できます。PCカードを使うことで、本機の機能を拡張したり、さまざまな周辺機器を接続することができます。

PCカード

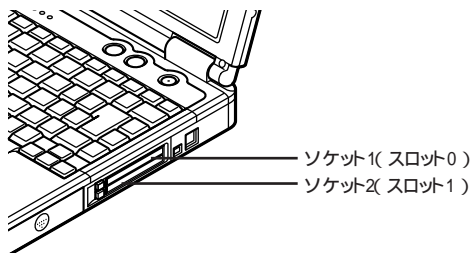
PCカードとは、社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)とPCMCIAとの間で共同で標準化を進めているカードの名称のことです。PCカードにはさまざまな種類があり、用途も幅広く使われています。メモリカードやモデムカード、SCSIインターフェイス対応機器をつなげるためのSCSIカードなどがあり、ハードディスクとして使われるカードもあります。

使用上の注意

◎ PCカードスロットについて

・TYPE IかTYPE IIのPCカードを上下のスロットに1枚ずつ2枚まで、または上下のスロットを合わせて1枚のTYPE IIIのPCカードを使用できます。

・CardBus対応のPCカードは、ソケット2(スロット1)またはソケット1(スロット0)の両方で同時に使うことができます。

・本機のPCカードスロットでは、PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できません。対応していないPCカードを無理に押し込むと、故障の原因となります。

◎ PCカードの取り扱いについて

PCカードは精密にできています。PCカードやスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- 高温多湿あるいは低温の場所に放置しないでください。
- 濡らさないでください。
- 重いものを乗せたり、ねじ曲げたりしないでください。
- ぶつけたり、落としたりして衝撃を与えないでください。
- PCカードの端子部分に金属などを差し込まないでください。

◎ PCカード使用時の注意

- ATAカードをセットしていると、カードをセットしていないときよりもスタンバイ状態または休止状態になるまでに時間がかかります。
- マルチファンクションカードとATAカードを同時にセットして使用するときは、下側のスロットにマルチファンクションカードを、上側のスロットにATAカードをセットしてください。
- CardBus対応PCカードのドライバをインストールしているときに、「例外エラー」が発生する場合があります。この場合、本機を再起動すると、正常にインストールを完了することがあります。

PCカードのセットのしかたと取り出し方

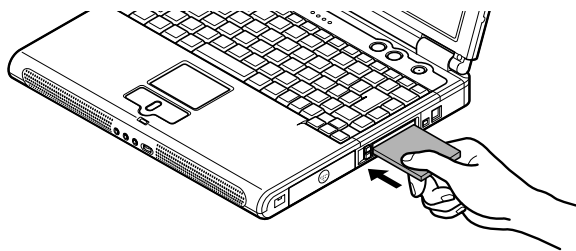
⚠注意

●本機の使用中や使用直後はPCカードが熱くなっていますので、出し入れにご注意ください。

チェック!!

- **PCカードには表と裏があり、スロットに差し込む方向も決まっています。まちがった向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損するおそれがあります。**
- **本機がスリープ状態のときは、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。本機の機器構成が変更されると、データが消失してしまうことがあります。**
- **アプリケーションを使用中は、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。**

◎ PCカードのセットのしかた

1 **PCカードの差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして、水平に静かに差し込む**

◎ PCカードの取り出し方

1 **インジケータ領域(タスクトレイ)にある をダブルクリックする**
「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。

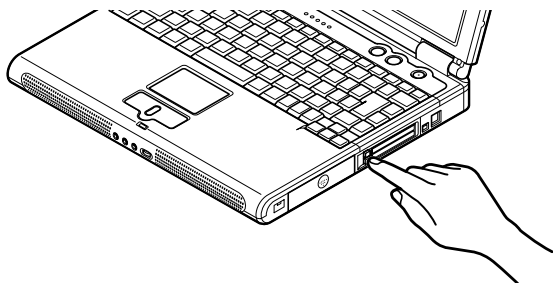
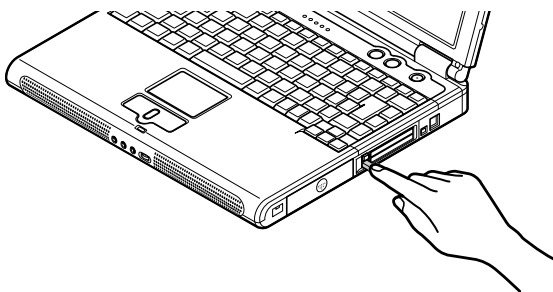
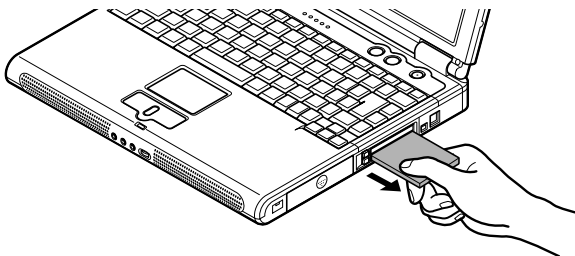
2 **取り外したいPCカードを選択し、「停止」ボタンをクリックする**

3 **「OK」ボタンをクリックする**
安全に取り外せるという内容のメッセージが表示されます。

4 **「OK」ボタンをクリックする**

5 **「閉じる」ボタンをクリックして、「ハードウェアの取り外し」画面を閉じる**

6 PCカードイジェクトボタンを押す

ボタンが手前にとび出します。

7 もう一度PCカードイジェクトボタンを押す

8 PCカードが少し出てくるので、水平に静かに引き抜く

上記の手順を使わずにPCカードを抜きとった場合は、「予期しないPCカードの取り外し」、または「デバイスの取り外しの警告」ウィンドウが表示される場合があります。

PCカードの設定

PCカードを使用するときには、次のような設定が必要な場合があります。

◎ 割り込みレベルの設定

PCカードによっては、割り込みレベルの設定が本機の他の設定と重なる場合があります。PCカードのマニュアルと、このマニュアルのPART4の「割り込みレベルとDMAチャネル」(→p.181)をご覧になり、割り込みレベルが重なっていないか確認してください。割り込みが重なる場合は、重ならないように設定を変更してください。

メモリ

オプションの増設RAMボードを付加することで、より多くのアプリケーションを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。

メモリ容量について

本機に使用できる増設RAMボードは次のとおりです。

型名	メモリ容量
PK-UG-M024	64Mバイト
PK-UG-M025	128Mバイト
PK-UG-M026	256Mバイト

本機にはメモリスロットが1つあり、最大384Mバイトまでメモリを増設することができます。

メモリの取り付け方と取り外し方

⚠注意

●増設RAMボードの取り付け／取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、電源コードとバッテリパックを取り外してください。電源コードやバッテリパックが取り付けられたまま増設RAMボードの取り付け／取り外しをすると、感電の原因となります。

チェック!!

- **増設RAMボードは静電気に大変弱く、身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因となります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。**
- **増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。**
- **ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。**
- **増設RAMボードを間違った向きで無理に取り付けようとすると、本機のコネクタ部や増設RAMボードが故障する原因となります。取り付け方向に注意してください。**

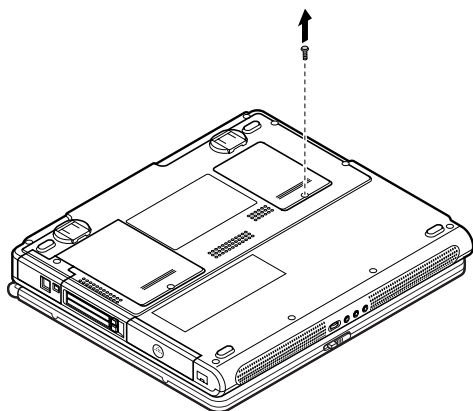
◎ 増設RAMボードの取り付け方

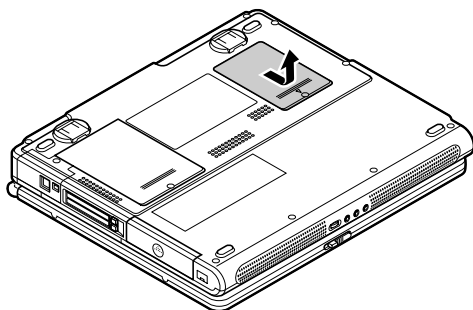
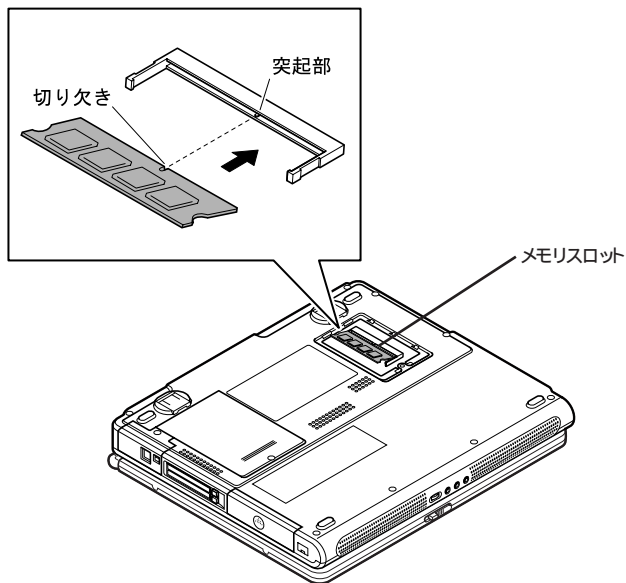
1 **本機を使用中の場合は、本機の電源を切る**

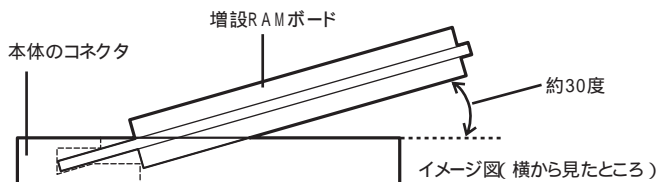
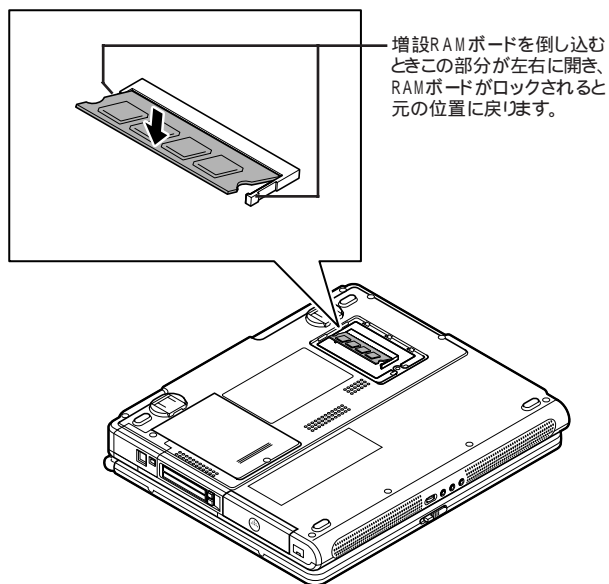
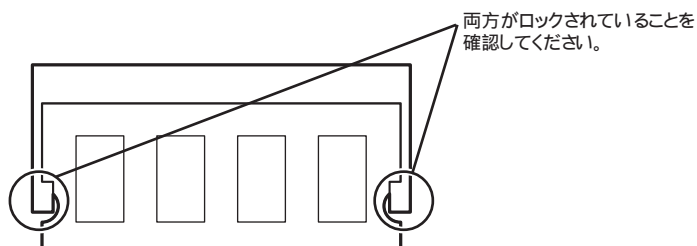
2 **電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す**

3 **液晶ディスプレイを閉じて、本機を裏返す**

4 **バッテリパックを本機から取り外す（→p.69）**

5 **図のネジをプラスドライバで取り外す**

6 **メモリスロットのカバーを取り外す**

図のように、いったんメモリスロットのカバーを本体前面側にスライドさせてから取り外します。

7 増設RAMボードの切り欠き部分を本機のコネクタの突起部に合わせ、本機コネクタに対して約30度の挿入角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで挿入する

実物はイラストと多少異なる場合があります。

チェック!! 挿入するときに、固いことがありますが、奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順を行うと、コネクタを破損するおそれがあります。

8 カチッと音がする位置まで増設RAMボードを本機のコネクタに強く倒し込む

チェック!! 増設RAMボードがコネクタにしっかりロックされたことを確認してください。

9 **メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本機底面に取り付ける**

10 **バッテリパックとACアダプタを取り付ける**

メモリ増設後は、次の「増設したメモリ(RAM)の確認」に従って、増設が正しく行われたかどうか確認してください。

◎ 増設したメモリ(RAM)の確認

増設が正常に行われ、メモリが本機に認識されているかどうかを確認します。

1 **「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする**

2 **「全般」タブで右下に表示されている内容を確認する**

「＊＊＊MB RAM」と表示されています。＊＊＊MBが総メモリ容量です。

チェック!! **システムの状態によっては、増設したメモリ分より容量が少なく表示される場合がありますが、故障ではありません。**

メモリ容量が増えていない場合は、次のことを確認してください。

・増設RAMボードが正しく取り付けられているか

・本機で使用できる増設RAMボードを取り付けているか

◎ ハードディスクの空き容量を確認する

休止状態の機能(→p.77)を使用する場合は、次の手順1〜4の操作を行って設定を確認してください。増設したメモリ容量分、ハードディスクの空き容量が必要になります。

1 **本機の電源を入れる**

2 **「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする**

「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。

3 **「休止状態」タブをクリックする**

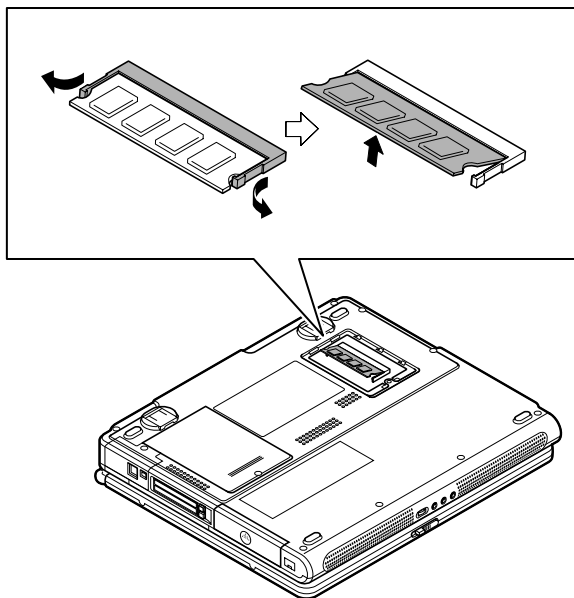
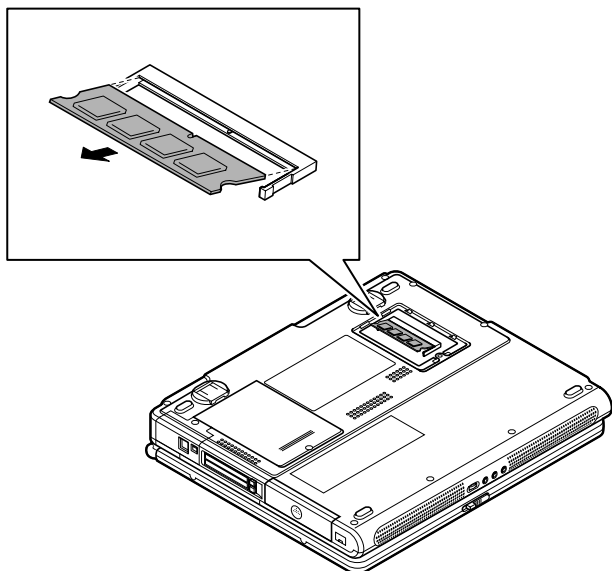
4 「休止のためのディスク領域」欄で、「ディスクの空き領域」の値が「休止状態にするために必要なディスク領域」の値よりも大きいことを確認する

チェック!! 「ディスクの空き領域」の値が「休止状態にするために必要なディスク領域」の値より小さいと休止状態にできなくなります。このような場合は、不要なファイルを削除するなどしてディスクの空き領域を増やしてください。

◎ 増設RAMボードの取り外し方

1 「増設RAMボードの取り付け方」(→p.137)の手順1〜6に従って、メモリスロットのカバーを取り外す

2 コネクタの両端部分を左右に押し広げる

増設RAMボードが図のようにおきあがります。

3 そのまま増設RAMボードを斜めに引き抜く

4 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本機底面に取り付ける

5 バッテリパックを取り付ける(→p.70)

IEEE1394コネクタ

IEEE1394コネクタを使用すると、高速にデータのやりとりが行えるようになります。

IEEE1394とは

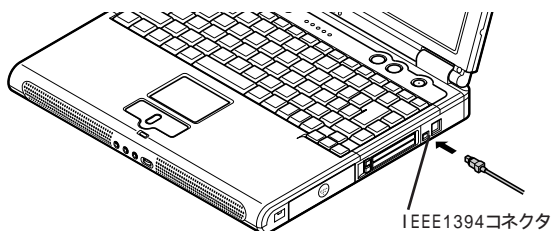
IEEE1394は、IEEE(米国電気電子技術者協会)で標準化された規格の一つで、パソコンと周辺機器のデータのやりとりを高速に行うことができるインターフェイスです。転送速度が早いので、動画などの容量の大きいデータもスムーズに転送することができます。
IEEE1394に対応している周辺機器には、デジタルビデオカメラやデジタルビデオデッキなどがあります。

IEEE1394対応機器を接続する

◎ 接続する前に

・このパソコンと、IEEE1394コネクタを持っている周辺機器を接続するときは、別売のケーブルが必要です。このパソコンのIEEE1394コネクタは、4ピンのコネクタです。ケーブルを購入する際には、接続するパソコンや機器側のコネクタの形状も確認しておいてください。
・周辺機器によっては、IEEE1394に対応した端子のことを別の名称(DV端子など)で呼んでいる場合もあります。

◎ IEEE1394コネクタに接続する

1 **本体右側面のIEEE1394コネクタにIEEE1394ケーブルのプラグを接続する**

チェック!! **接続するときは、プラグの向きに注意してください。間違った向きで無理に差し込もうとすると、本体側のコネクタやケーブルのプラグの故障または破損の原因となります。**

2 **ケーブルのもう一方のプラグを周辺機器に接続する**

周辺機器との接続については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

本機のIEEE1394コネクタと別のパソコンのIEEE1394コネクタとを別売のIEEE1394接続ケーブルで接続すると、パソコン間でのファイルの転送ができるようになります。接続にはドライバ(「IEEE 1394 Network Driver Ver.2.0」)が必要になります。ドライバは、以下のホームページから入手することができます。
http://121ware.com/

チェック!! **IEEE1394接続ケーブルは、接続先のコネクタ形状に合わせたケーブルを使用してください。**

◎ IEEE1394コネクタから機器を取り外す

チェック!! IEEE1394対応機器は、必ず次の手順で取り外しを行ってください。正しい手順で取り外しを行わないと本機が正常に動作しなくなることがあります。

1 インジケータ領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリックする

「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。

が表示されていない場合は手順6へ進んでください。

2 取り外したい機器名をクリックして「停止」ボタンをクリックする

機器名が表示されていない場合は、手順5へ進んでください。

3 「ハードウェア デバイスの停止」画面で取り外したい機器名をクリックして「OK」ボタンをクリックする

安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されます。

4 「OK」ボタンをクリックする

5 「閉じる」ボタンをクリックして「ハードウェアの取り外し」画面を閉じる

6 取り外す機器のプラグを、本体のIEEE1394コネクタから取り外す

USBコネクタ

USB対応の機器は、一般の周辺機器と異なり、パソコンの電源を入れた状態のまま、接続したり取り外すことができます。

USBとは

本機にはUSB対応機器を取り付けるためのコネクタが2つあります。USBとはUniversal Serial Busの頭文字をとったもので、コネクタの形状が統一されており、127台までの機器を接続することができます。また、電源を切らずにプラグの抜き差しが可能で、プラグ&プレイ機能にも対応しています。
現在利用できる主なUSB対応機器として、次のようなものがあります。

・マウス
・プリンタ
・イメージスキャナ
・デジタルカメラ
・ISDNターミナルアダプタ
・キーボード
・テンキーボード
・携帯電話接続ケーブル
・PHS接続ケーブル
など

USB対応機器の、本機での動作確認情報については、各機器に添付のマニュアルをご覧いただくか、各機器の発売元にお問い合わせください。
なお、NEC製のUSB機器の情報は、NECのホームページ「121ware.com(ワントゥワンウェア ドット コム)」をご覧ください。
http://121ware.com/

USBコネクタに接続する

⚠警告

●雷が鳴りだしたら、本機や電源ケーブル、ACアダプタ、モジュラーケーブル(電話線)、USBケーブルに触れたり、周辺機器の取り付け、取り外しをしないでください。落雷による感電のおそれがあります。

◎ 接続する前に

機器によっては、接続する前や接続したあとにドライバのインストールや、各種設定スイッチなどの設定が必要な場合がありますので、接続するUSB対応機器のマニュアルを読んでおき、ドライバなどインストールに必要なCD-ROMやフロッピーディスクが添付されていれば用意しておいてください。

別売のUSBマウスなどには、接続してすぐ使うことができるものがあります。ただし、いくつかの機能が制限される可能性がありますので、必ず添付のマニュアルをよく読んでください。

USB対応機器は、パソコンの電源を入れたままの状態でも接続できますので、接続前に電源を切る必要はありません。

◎ 接続するときの注意

・コントロールパネルの「システム」アイコンをダブルクリックして表示される「デバイスマネージャ」の画面にある「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」または「Universal serial bus controller」の記述は削除しないでください。

・USB対応機器の抜き差しを行うときは、3秒以上の間隔をおいて行ってください。

・USBコネクタにプラグをすばやく差したり斜めに差したりすると、信号が読みとれずに不明なデバイスとして認識されることがありますので、その場合はプラグをUSBコネクタから抜いて、もう一度正しく接続しなおしてください。

・はじめてUSB対応機器を接続したときに、画面に何も表示されない場合は、USBコネクタにプラグを正しく差し込めていない可能性があります。いったんプラグを抜き、再度差し込んでみてください。
なお、USB対応機器は、一度設定をすれば、次回からはプラグを差し込むだけですぐに機器が使用可能になります。このとき画面には何も表示されませんが、故障ではありません。

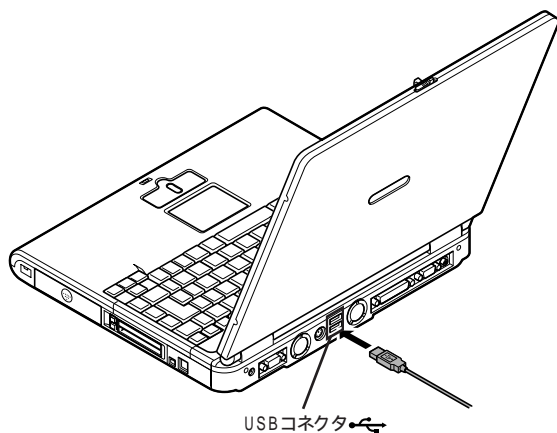
・スタンバイ状態中、スタンバイ状態へ移行中、スタンバイ状態から復帰中、休止状態中、休止状態へ移行中、休止状態から復帰中のときは、USB対応機器を抜き差ししないでください。

・USB対応機器を接続した状態ではスタンバイ状態に移行できない場合があります。スタンバイ状態に移行する前にUSB対応機器を取り外してください。

・USBマウス使用時にNXパッドを無効にしたい場合は、BIOSセットアップメニューの「NXパッド&PS/2マウス」の設定を「使用しない」にしてください(→p.158)。

・USBハブ経由でUSB対応機器を使用するときは、USBハブを本機に接続してからUSB対応機器を接続するようにしてください。USBハブにUSB対応機器を接続した状態でUSBハブを本機に接続すると、USB対応機器が正常に認識されないことがあります。

◎ USBコネクタにプラグを差し込む

1 USBコネクタにプラグを差し込む

接続したUSB対応機器が正しくパソコンに認識されたかどうかを確認してください。確認する方法は、機器の種類によって異なります。機器によっては、接続後さらに別の設定作業が必要になる場合があります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

◎ USBコネクタから機器を取り外す

チェック!! **USB対応機器は、必ず次の手順で取り外しを行ってください。正しい手順で取り外しを行わないと本機が正常に動作しなくなることがあります。**

1 **インジケータ領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリックする**

「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。

が表示されていない場合は手順6へ進んでください。

2 **取り外したい機器名をクリックして「停止」ボタンをクリックする**

機器名が表示されていない場合は、手順5へ進んでください。

3 **「ハードウェア デバイスの停止」画面で取り外したい機器名をクリックして「OK」ボタンをクリックする**

安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されます。

4 **「OK」ボタンをクリックする**

5 **「閉じる」ボタンをクリックして「ハードウェアの取り外し」画面を閉じる**

6 **取り外す機器のプラグを、本体のUSBコネクタから取り外す**

◎ 別売の外付けUSBキーボードの接続

別売の外付けUSBキーボードは、USBコネクタに取り付けます。 別売の外付けUSBキーボードには、USBコネクタが用意されており、別売のUSB機器を取り付けることができます。

チェック!! **セーフモードで起動したときは、外付けUSBキーボードを使うことはできません。**

外付けUSBキーボードの設定は、本機のキーボードと同じように、Windowsで設定することができます。

その他の機器

本機で使用できるその他の機器

本機では、次のような別売の機器を使用することができます。

種類	機器
オーディオ機器	ヘッドホン、マイクロホン、オーディオ装置など
入力装置	マウス、外付けキーボード、テンキーボード、デジタルカメラ、イメージスキャナなど
通信機器	携帯電話、PHS、外付けモデム、ターミナルアダプタなど

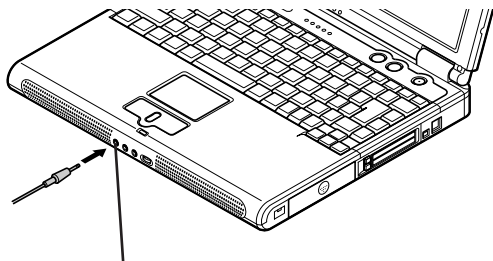
本機のどのコネクタに機器を接続するかは、機器が使用しているインターフェイスによって異なります。 また、機器によってインターフェイスが決まっている訳ではありません。詳しくは、各機器のマニュアルをご覧ください。

チェック!! **本機がスリープ状態のときは、周辺機器を接続したり、接続していた機器を取り外したりしないでください。本機の機器構成が変更されると、データが消えてしまうことがあります。**

◎ 別売のキーボードやテンキーボードを使うには

本機には、別売のテンキーボードやキーボードを接続することができます。
PS/2タイプのテンキーボードはマウス／テンキーボード用コネクタ（ ／ ）に接続します（→p．152）。USB対応のキーボードは本機のUSBコネクタ（ ）に接続します（→p.148）。

ヘッドホン／オーディオ／光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子

ヘッドホンを接続したり、デジタル入力を持ったオーディオ機器を接続できます。

ヘッドホン／オーディオ／光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子

デジタル入力を持ったオーディオ機器を接続する場合、市販の光デジタルケーブルを使用します。本機の出力端子は光ミニ端子です。

シリアルコネクタ

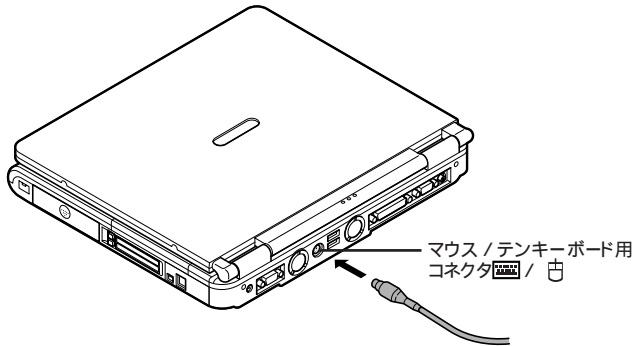
シリアル対応機器を接続するためのコネクタです。一般的なコンピュータ用語ではこれをシリアルポートと呼び、WindowsではCOM1やCOM2の名称で呼んでいます。

パラレルコネクタ

別売のプリンタを取り付けるためのコネクタです。
パラレル対応機器であればプリンタ以外の機器も接続することができます。
なお、WindowsではプリンタポートまたはLPT1と呼んでいます。

マウス／テンキーボード用コネクタ

別売のマウスやテンキーボードなどのPS/2タイプのオプションを取り付けるためのコネクタです。

チェック!! マウスやテンキーボードを接続するときは、必ず、本機の電源を切ってから接続してください。

マウスとテンキーボードの両方を同時に接続したいときは、別売のYケーブル、またはマウスに添付されているYアダプタを使ってください。

PART

3

システムの設定

セキュリティや省電力など、本機の使用環境の設定について説明します。設定方法をまちがえると正しく動作しなくなってしまうので、十分注意してください。
また、必要がある場合以外は設定値を変更しないでください。

BIOSセットアップメニュー

本機には、使用環境を設定するためにBIOSセットアップメニューが内蔵されています。

BIOSセットアップメニューを使ってできること

次のような設定ができます。

・現在の日付と時間の設定

・BIOSセットアップメニューで使用する言語の選択

・ハードウェア環境の確認と変更

・セキュリティの設定

・起動デバイスの起動順位の設定

BIOSセットアップメニューを使う

◎ BIOSセットアップメニューの起動とメイン画面

1 電源を入れて「NEC」のロゴが表示されたら【F2】を押す

次のようなメイン画面が表示されます。画面上では「PhoenixBIOSセットアップユーティリティ」と表示されます。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ

メイン　詳細　セキュリティ　起動　終了

		項目ヘルプ
システム時刻:	[hh:mm:ss]	<Tab>キー、<Shift-Tab>キー、<Enter>キーは、項目を選択します
システム日付:	[yyyy/mm/dd]	
言語:	[日本語(JP)]	
フロッピィディスクA:	[1.44/1.25 Mb 3.5"]	
▶ 内蔵HDD	[XXXXMB]	
▶ 内蔵CD/DVD	[CD/DVD]	
システムメモリ:	XXXKB	
拡張メモリ:	XXKB	
CPUタイプ	XXX	
CPU速度	XXXXXX Mhz	
BIOSバージョン:	XXXX-XXXX-XXXX/XXX X	

F1　ヘルプ　↑↓項目の選択　F5/F6　値の変更　F9　デフォルトの設定

Esc　終了　←→　メニューの選択　Enter ▶サブメニューの選択　F10　保存して終了

チェック!! BIOSセットアップメニューが表示されない場合は、いったん電源を切り、再度電源を入れ直し、キャップスロックキーランプ（🔒A）、スクロールロックキーランプ（🔒⇅）、ニューメリックロックキーランプ（🔒1）が同時に点灯したらすぐに【F2】を押してください。

◎ BIOSセットアップメニューの基本操作

・操作はキーボードで行います。
・【←】【→】でメニューを選び、【↑】【↓】で設定項目を選びます。
・設定内容の値は【F5】【F6】で変更します。

BIOSセットアップメニューを終了する

◎ 変更を保存して終了する

1 【F10】を押す

セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。
終了を中止したいときは【Esc】を押してください。

2 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

・メニューバーの「終了」で「変更を保存して終了する」を選んでBIOSセットアップメニューを終了することもできます。
・変更を保存せずに終了したいときなどは、次の「メニューバーから終了する」で終了してください。

◎ メニューバーから終了する

【←】【→】でメニューバーの「終了」を選ぶと、以下のメニューが表示されます。

◆ 変更を保存して終了する

変更内容を保存してBIOSセットアップメニューを終了します。

◆ 変更を保存せずに終了する

設定値を保存せずにBIOSセットアップメニューを終了します。設定の変更を行った場合も、すべて無効にして終了します。

◆ デフォルト値をロードする

すべての設定項目にデフォルト値を書き込みます。これによりBIOSセットアップメニューの設定値は工場出荷時の状態に戻ります。

◆ 変更を取り消す

すべての設定項目に対して変更前の値を読み込みます。BIOSセットアップメニューは終了しません。

◆ 変更を保存する

変更値を保存します。BIOSセットアップメニューは終了しません。

◆ バッテリリフレッシュ

バッテリリフレッシュはバッテリの機能を回復させるための機能です。バッテリリフレッシュの詳しい手順については、PART1「バッテリ」の「バッテリリフレッシュ」(→p.65)をご覧ください。

工場出荷時の値に戻す

1 キーボードの【F9】を押す

セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。

2 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す

デフォルト値を読み込みます。

3 キーボードの【F10】を押す

セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。

4 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す

設定の変更を保存して終了します。

> メニューバーの「終了」で「デフォルト値をロードする」を選んで工場出荷時の値に戻すこともできます。

設定項目一覧

ここでは、BIOSセットアップメニューでどのような設定ができるかを説明しています。

表中の[　　　]は、購入時の設定です。

◎「メイン」メニューの設定

チェック!! **内蔵HDDの設定を変更すると、内蔵ハードディスクが動作しなくなる場合があるので、通常は初期状態のまま使用してください。**

設定項目		設定値	説明
システム時刻 (時:分:秒)		—	現在の時刻を「時:分:秒」(24時間形式)で設定します。
システム日付 (年／月／日)		—	日付を「年／月／日」(西暦)で設定します。「言語」を「英語」に設定している場合は、「月／日／年」で入力します。
言語		English(US) 日本語(JP)	BIOSセットアップメニューで使用する言語を設定します。標準では「日本語(JP)」に設定されています。
フロッピィディスク		使用しない 1.44/1.25Mb 3.5"	フロッピーディスクドライブのモードを選びます。「使用しない」の場合、フロッピーディスクドライブは使用できません。「1.44:1.25Mb 3.5"」の場合、フロッピーディスクドライブが使用できます。
内蔵HDD 内蔵CD/DVD		—	現在接続されているIDEデバイスが表示されます。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すと設定画面が表示されます。表示できるのは「内蔵HDD」の項目のみです。【Esc】を押すとメイン画面に戻ります。
	タイプ	自動 ユーザ CD/DVD なし	BIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。設定は変更しないでください。
	32ビットI/O	使用しない 使用する	32ビットIDEデータ転送を使用するかどうかを設定します。
システムメモリ		—	搭載されているシステムメモリ容量を表示します。
拡張メモリ		—	搭載されている拡張メモリを表示します。
CPUタイプ		—	CPUタイプを表示します。

3 システムの設定

設定項目	設定値	説明
CPU速度	—	CPU速度を表示します。
BIOSバージョン	—	BIOSのバージョンを表示します。

◎「詳細」メニューの設定

設定項目	設定値	説明
起動時のNum-Lock	オン オフ	起動時にNum Lockをオンにするかを設定します。
NXパッド&PS/2マウス	使用しない 両方 自動	「自動」に設定すると、PS/2マウスを接続したときにNXパッドが使用できなくなります。「両方」に設定すると、NXパッドとPS/2マウスを同時に使用できます。USBマウスを使用するときにNXパッドを無効にしたい場合は、「使用しない」に設定します。
LCDパネルの拡張表示	オフ オン	LCDパネルの拡大表示を行うかどうかを設定します。「オン」に設定すると、LCDパネルの最大表示サイズ以下の表示画面では拡大されて表示されます。
ビデオ出力方式	NTSC PAL	使用する国、地域でのビデオ出力方式を設定します(日本、アメリカでは「NTSC」、ヨーロッパでは「PAL」)。
グラフィックアパーチャ	4Mb/8Mb/16Mb/32Mb/64Mb/128Mb/256Mb	AGPビデオデバイスが使用するグラフィックアパーチャーのサイズを設定します。
セットアップ移行画面表示	非表示※ 表示	「表示」に設定すると、セットアップの移行画面に関するメッセージが表示されます。
ハイバネーション警告表示	非表示 表示	ハイバネーション用ファイルがない、または容量不足の警告メッセージを表示するかどうかを設定します。
セットアップ情報画面	使用しない 使用する	起動時にシステム設定状況を表示するかどうかを設定します。
サイレントブート	自己診断画面 ロゴ表示 非表示※	ブート時の画面を設定します。

※:BIOSセットアップメニューを起動する場合は、電源を入れた後、1秒おきに【F2】を押すことを何度かくりかえしてください。

設定項目	設定値	説明
周辺機器設定	—	各周辺機器の設定を行います。この項目にカーソルを合わせて【Enter】を押すと設定を行うことができます。
シリアルポートA	使用しない 使用する 自動	「使用しない」に設定すると、シリアルポートは使用できません。「使用する」に設定すると、ユーザがI/0ベースアドレスを設定できます。「自動」に設定すると、BIOSがI/0ベースアドレスと割り込み番号を自動的に設定します。
I/0ベースアドレス	3F8 2F8 3E8 2E8	「シリアルポートA」を「使用する」に設定すると表示されます。シリアルポートにI/0ベースアドレスを設定します。
パラレルポート	使用しない 使用する 自動	「使用しない」に設定すると、パラレルポートは使用できません。「使用する」に設定すると、ユーザがパラレルポートの「モード」「I/0ベースアドレス」「DMAチャネル」を設定できます。「自動」に設定すると、BIOSが自動的にパラレルポートの設定を行います。
モード	双方向 ECP EPP	パラレルポートのモードを設定します。
I/0ベースアドレス	378 278 3BC	パラレルポートを「使用する」に設定すると表示されます。パラレルポートにI/0ベースアドレスを設定します。
フロッピーコントローラ	使用しない 使用する 自動	設定は変更しないで「使用する」のまま使用してください。

◎「セキュリティ」メニューの設定

セキュリティに関する各種設定を行います

> スーパバイザパスワードは、BIOSセットアップメニューの使用者を制限するための機能です。スーパバイザパスワードの設定を行うとBIOSセットアップメニュー起動時にパスワードの入力画面となり、設定されたスーパバイザパスワードを入力しない限りBIOSセットアップメニューの起動はできません。

ユーザパスワードは、BIOSセットアップメニューの使用者を制限し、BIOSセットアップメニューで設定可能な項目も制限するための機能です。

◆スーパバイザパスワードの設定

スーパバイザパスワードの設定または変更を行います。
【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。

参照 **パスワードの設定→PART1の「セキュリティ機能」(p.81)**

◆ユーザパスワードの設定

ユーザパスワードの設定または変更を行います。
スーパバイザパスワードを設定していないとユーザパスワードは設定できません。
【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。

参照 **パスワードの設定→PART1の「セキュリティ機能」(p.81)**

設定項目	設定値	説明
起動時のパスワード※	使用しない 使用する	システム起動時にパスワード入力を行うかどうかを設定します。
ハードディスク起動セクタ	通常動作 書込み禁止	ウイルス感染防止のため、ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかどうかを設定します。
ディスクアクセス	ユーザ スーパバイザ	「スーパバイザ」に設定すると、ユーザパスワードで起動した状態ではフロッピーディスクドライブに対してアクセスできなくなります。

※：スーパバイザパスワードを設定していないと「起動時のパスワード」は設定できません。

起動順位の設定

「起動」メニューでは起動するデバイスを優先順にしたがってリスト表示します。パソコンを起動するときには、上から順にOSを検索します。もしOSが存在しないなど起動に失敗した場合は次のデバイスから起動します。

◎ 起動デバイスの表示と順位の変更

デバイス名の左に＋の表示があるデバイスにカーソルを合わせて【Enter】を押すと展開表示されます。
起動するデバイスを変更するには【↑】【↓】を使用して変更したいデバイスにカーソルを合わせます。【へ】のキーと【Shift】を同時に押すとリストの上側に移動し、【ほ】を押すとリストの下側に移動します。
なお、ニューメリックロックキーランプ（1）が点灯しているときには前面に【＋】【－】の刻印のあるキーでもリストの上下にカーソルを移動させることができます。

3 システムの設定

PART

4

付録

ここでは、本機の機能に関連した補足情報を記載してあります。

本機のお手入れ

ここでは、本機のお手入れの方法を説明しています。

お手入れをはじめる前に

⚠注意

● **お手入れの前には、必ず本機や周辺機器の電源を切り、電源コードをACコンセントから抜いてください。
電源を切らずにお手入れをはじめると、感電することがあります。**

◎ 準備するもの

◆ 汚れが軽いとき

やわらかい素材の乾いたきれいな布

◆ 汚れがひどいとき

水かぬるま湯を含ませ堅くしぼったきれいな布

OA機器用クリーニングキットも汚れを拭き取るのに便利です。
OA機器用クリーニングキットについてはご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所などに問い合わせてください。

参照 **NECのお問い合わせ先→『121wareガイドブック』**

お手入れをする

本機のお手入れをするときは、次のことに注意してください。

チェック!!
- **水やぬるま湯は、絶対に本機に直接かけないでください。本機の傷みや故障の原因になります。**
- **シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんなどは使わないでください。本機の傷みや故障の原因になります。**

◆ 液晶ディスプレイ

やわらかい素材の乾いたきれいな布で拭いてください。水やぬるま湯、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんは使わないでください。

◆ 本体／NXパッド／キーボード

やわらかい素材の乾いたきれいな布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、堅くしぼったきれいな布で拭きます。
キーボードのキーのすきまにゴミが入ったときは、専用のクリーナーなどでゴミを取ってください。ゴミが取れないときは、ご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所に問い合わせてください。

参照 **NECのお問い合わせ先→『121wareガイドブック』**

◆ フロッピーディスクドライブ

クリーニングディスク(別売)を使ってフロッピーディスクドライブをクリーニングします。ひと月に一回を目安にクリーニングしてください。

◆ 電源コード

電源コードのプラグを長時間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にほこりを拭き取るようにしてください。

補足情報

サウンド機能について

◎ 音楽CDを利用する

◆ 音楽CDを再生する

本機では、Windows Media Playerを使って音楽CDを再生することができます。Windows Media Playerには、インターネットでCDのデータの検索をしたり、音楽CD再生中に視覚エフェクトを表示させる機能もあります。

参照 **音楽CDの再生について→Windows Media Playerのヘルプ**

本機では、音楽CDをデジタルで再生したり、アナログで再生することができます。購入時は、デジタルで再生するように設定されています。

チェック!! **音楽CDをデジタル再生で再生しているときに、ほかのアプリケーションを使用すると、音楽CDの再生音が音飛びする場合があります。その場合は、ほかのアプリケーションを終了するか、音楽CDの再生方法をデジタル再生からアナログ再生に変更してください。**

参照 **音楽CDの再生方法を変更する→次の「音楽CDの再生方法の変更」**

◆ 音楽CDをハードディスクにコピーする

Windows Media Playerの「CDオーディオ」の「音楽のコピー」で、音楽CDをハードディスクにコピーすることができます。

参照 **音楽CDのハードディスクへのコピーについて→Windows Media Playerのヘルプ**

本機では、ハードディスクに音楽CDをデジタルでコピーしたり、アナログでコピーすることができます。

参照 **音楽CDのハードディスクへのコピー方法を変更する→「音楽CDからのコピー方法の変更」(p.169)**

◎ 音楽CDの再生方法の変更

次の手順で、音楽CDの再生方法をデジタル再生、またはアナログ再生のどちらかに設定することができます。

◆**Windows Media Playerの場合**

1 **「スタート」ボタン→「プログラム」→「Windows Media Player」をクリックする**

Windows Media Playerが起動します

2 **メニューバーの「ツール」→「オプション」をクリックする**

3 **「CDオーディオ」タブをクリックし、「再生の設定」欄の「デジタル再生」を設定したい再生方法にあわせて選択する**

- **デジタル再生にする場合**
  「デジタル再生」を☑にします。
- **アナログ再生にする場合**
  「デジタル再生」を□にします。

4 **「OK」ボタンをクリックする**

5 **「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする**

「システムのプロパティ」が表示されます。

6 **「デバイスマネージャ」タブをクリックする**

7 **「CD-ROM」の左の⊞をクリックし、表示されたデバイス名をダブルクリックする**

CD-ROMデバイスのプロパティが表示されます。

8 **「プロパティ」タブをクリックする**

9 **「デジタルCD再生」欄の「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」を設定したい再生方法にあわせて選択する**

・**デジタル再生にする場合**
☑にします。
・**アナログ再生にする場合**
☐にします。

10 **「OK」ボタンをクリックする**

設定した音量の調整方法によって音楽CDの音量の調整方法が変わります。

◆その他のプレイヤーの場合

1 **「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする**

「システムのプロパティ」が表示されます。

2 **「デバイスマネージャ」タブをクリックする**

3 **「CD-ROM」の左の⊞をクリックし、表示されたデバイス名をダブルクリックする**

CD-ROMデバイスのプロパティが表示されます。

4 **「プロパティ」タブをクリックする**

5 **「デジタルCD再生」欄の「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」を設定したい再生方法にあわせて選択する**

・**デジタル再生にする場合**
☑にします。
・**アナログ再生にする場合**
☐にします。

6 **「OK」ボタンをクリックする**

Windows Media Player以外のプレイヤーを使用する場合の音楽CDの音量の調整は、設定した再生方法にかかわらず「CD Player」の項目で行います。

参照 音楽CDの再生音量の調整→「音楽CDの音量を調整する」(p.170)

◎ 音楽CDからのコピー方法の変更

次の手順で、音楽CDからのコピー方法を設定することができます。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Windows Media Player」をクリックする

Windows Media Playerが起動します

2 メニューバーの「ツール」→「オプション」をクリックする

3 「CDオーディオ」タブをクリックし、「コピーの設定」欄の「デジタルコピー処理」を設定したいコピー方法にあわせて選択する

- **デジタルでコピーしたい場合**
  「デジタルコピー処理」を☑にします。
- **アナログでコピーしたい場合**
  「デジタルコピー処理」を☐にします。

4 「OK」ボタンをクリックする

5 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする

「システムのプロパティ」が表示されます。

6 「デバイスマネージャ」タブをクリックする

7 「CD-ROM」の左の⊞をクリックし、表示されたデバイス名をダブルクリックする

CD-ROMデバイスのプロパティが表示されます。

8 「プロパティ」タブをクリックする

9 「デジタルCD再生」欄の「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」を設定したい再生方法にあわせて選択する

- **デジタル再生にする場合**
  ☑にします。
- **アナログ再生にする場合**
  ☐にします。

10 「OK」ボタンをクリックする

設定した再生方法によって、音楽CDの音量の調整方法が変わります。

参照 **音楽CDの再生音量の調整→次の「音楽CDの音量を調整する」**

◎ 音楽CDの音量を調整する

チェック!! **本機を再起動すると、再起動前にボリュームコントロールで調整した音量が調整前の音量に戻っている場合があります。この場合は、再度音量を調整してください。**

◆ 再生音量を調整する

「Volume Control」画面で音楽CDの再生音量の調整をすることができます。音楽CDの再生音量の調整方法は、音楽CDの再生方法によって異なります。

購入時の状態では、音楽CDはデジタル再生するように設定されています。

参照 **音楽CDの再生方法を変更するには→「音楽CDの再生方法の変更」(p.167)**

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「ボリュームコントロール」をクリックする

「Volume Control」画面が表示されます。

2 音楽CDの再生方法に応じて、「Volume Control」画面の以下の項目の音量つまみを上下にドラッグして音量を調整する

- **デジタル再生に設定している場合**
  「Volume Control」または「Wave」

- **アナログ再生に設定している場合**
  「Volume Control」または「CD Player」

チェック!!
- **Windows Media Player以外のプレーヤーを使用する場合は、再生方法にかかわらず、「Volume Control」または「CD Player」で音量を調整してください。**
- **「Volume Control」はスピーカから出力されるすべての音量を調整する項目です。音楽CDの再生音量のみを調整したい場合は「Wave」または「CD Player」で調整してください。**

◆ 録音音量を調整する

次の手順で、音楽CDからの録音音量を調整できます。

1 「Volume Control」画面のメニューバーの「オプション」→「プロパティ」をクリックする

2 「音量の調整」で「録音」を選択し、「表示するコントロール」で「Wave Out Mix」にチェックを付けて「OK」ボタンをクリックする

「Recording Control」画面が表示されます。

3 「Wave Out Mix」の「選択」にチェックを付ける

4 「Wave Out Mix」の音量調整つまみを上下にドラックして録音音量を調整する

チェック!! **購入時、音楽CDからの録音はデジタル録音に設定されています。「Recording Control」の「CD Player」は、音楽CDからアナログで録音する場合の音量を調整する項目です。デジタル録音に設定しているときに「CD Player」を設定しても録音することはできません。**
「CD Player」での録音は、音楽CDからの録音をアナログ録音に設定にすることで可能になります。次の手順で、音楽CDからの録音をアナログ録音に設定できます。

・音楽CDからの録音方法を変更する

1 **「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする**

「システムのプロパティ」が表示されます。

2 **「デバイスマネージャ」タブをクリックする**

3 **「CD-ROM」の左の⊞をクリックし、表示されたデバイス名をダブルクリックする**

CD-ROMデバイスのプロパティが表示されます。

4 **「プロパティ」タブをクリックする**

5 **「デジタルCD再生」欄の「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」が☑になっている場合は☐にする**

6 **「OK」ボタンをクリックする**

7 **「OK」ボタンをクリックする**

8 **「音楽CDの再生方法の変更」(→p.167)の手順に従って、音楽CDの再生方法をアナログ再生に変更する**

機能一覧

本体

機種名			LL800R/74DH	LL700R/73DH	LL700R/74DR	LL700R/73AR
型番			PC-LL800R74DH	PC-LL700R73DH	PC-LL700R74DR	PC-LL700R73AR
CPU			800MHz モバイル AMD Duron™ プロセッサ	700MHz モバイル AMD Duron™ プロセッサ		
内蔵キャッシュメモリ			128Kバイト			
セカンドキャッシュメモリ			64Kバイト(CPU内蔵)			
メモリ	ROM		512Kバイト(BIOSほか)			
	メインRAM		128Mバイト			
		最大	384Mバイト(別売の増設RAMボード(256Mバイト)を取り付けた場合)			
	ビデオRAM		4Mバイト			
表示機能	表示素子※1		バックライト付14.1型TFTカラー液晶ディスプレイ(XGA)	バックライト付13.3型TFTカラー液晶ディスプレイ(XGA)	バックライト付14.1型TFTカラー液晶ディスプレイ(XGA)	バックライト付13.3型TFTカラー液晶ディスプレイ(XGA)
	ウィンドウアクセラレータ		ATi RAGE™ Mobility-M標準搭載(ビデオアクセラレーション機能対応)			
			640×480ドット(26万色中256色/65536色/1677万色) 800×600ドット(26万色中256色/65536色/1677万色) 1024×768ドット(26万色中256色/65536色/1677万色)			
	別売のCRTディスプレイ接続時		640×480ドット(16色/256色/65536色/1677万色) 800×600ドット(26万色中256色/65536色/1677万色) 1024×768ドット(26万色中256色/65536色/1677万色) 1280×1024ドット(26万色中256色/65536色/1677万色) 1600×1200ドット(26万色中256色/65536色)			
サウンド機能	サウンドチップ		ADI社製 AD1886搭載			
	PCM録音・再生機能		内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)、全二重化対応			
	MIDI音源機能		内蔵(拡張WAVE Table音源[WAVE Table音源最大64音])			
	スピーカ		ステレオスピーカ			
	サラウンド		エンハンスド・ステレオ機能、3Dポジショナルサウンド			
通信機能	モデム		モデム内蔵(データ転送速度 最大56Kbps(V.90)エラー訂正V.42/MNP4データ圧縮V.42bis/MNP5)			
	FAX		内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17)FAX制御クラス1)			
入力装置	キーボード		本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな)、Fnキー(ホットキー対応)、12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付			
	ポインティングデバイス		NXパッド標準装備(スクロールボタン付)			

機種名	LL800R/74DH	LL700R/73DH	LL700R/74DR	LL700R/73AR
型番	PC-LL800R74DH	PC-LL700R73DH	PC-LL700R74DR	PC-LL700R73AR
補助記憶装置 フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ×1内蔵(720K/1.2M※2/1.44Mバイトタイプの3モードに対応)			
補助記憶装置 固定ディスクドライブ※3	約20Gバイト			
補助記憶装置 CD-R/RWドライブ※4・CD-R/RW with DVD-ROMドライブ※4	・CD-R/RWドライブ(LL700R/74DR、LL700R/73AR)の場合: 読み込み最大24倍速(CD-ROM)、書き込み最大8倍速、書き換え最大4倍速 ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブ(LL800R)の場合: 読み込み最大24倍速(CD-ROM)/8倍速(DVD-ROM)、書き込み最大8倍速、書き換え最大4倍速 ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブ(LL700R/73DH)の場合: 読み込み最大24倍速(CD-ROM)/8倍速(DVD-ROM)、書き込み最大4倍速、書き換え最大4倍速			
インターフェイス	マウス/テンキーボード(PS/2タイプミニDIN6ピン)、パラレル(D-SUB25ピン)、シリアル(D-SUB9ピン、最高115.2Kbps対応)、ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン)、ビデオ出力(RCA×1)、USB×2、IEEE1394(4ピン)×1			
インターフェイス サウンド関連	ライン入力(ステレオ、ミニジャック)、ヘッドホン出力/ライン出力共用(ステレオ、ミニジャック)、マイク入力(モノラル、ミニジャック) ライン入力インピーダンス10kΩ　入力レベル1Vrms マイク入力インピーダンス2.2kΩ　入力レベル5mVrms(バイアス2.5V) ライン出力レベル1Vrms			
PCカードスロット	TYPE Ⅱ×2スロット(TYPE Ⅲ×1スロットとしても使用可) PC Card Standard準拠、CardBus対応			
パワーマネージメント	自動または任意設定可能			
セキュリティ機能	ユーザパスワード機能、スーパバイザパスワード機能、盗難防止ロック(市販の盗難防止用ケーブルを使用)			
バッテリ駆動時間※5	約1.1〜1.8時間	約1.2〜1.9時間		
バッテリ充電時間※5(ON/OFF時)	約3.0/2.1時間(ON/OFF時)	約2.7/2.1時間(ON/OFF時)		
バッテリによるスタンバイ状態保持時間※5	約2日			
電源	ニッケル水素バッテリ(DC9.6V、3,800mAh)※6またはAC100V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由)※7			
消費電力	約18W(内蔵オプション最大接続時　約60W)	約17W(内蔵オプション最大接続時　約60W)		
温湿度条件	5〜35℃、20〜80%※8(ただし、結露しないこと)			
外形寸法	308(W)×262(D)×41〜44(H)mm			
質量※5	約3.5kg			

※1:液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのむらや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
※2:3モード対応フロッピーディスクドライバのセットアップが必要です。
※3:固定ディスク容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。
※4:Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。
※5:時間や質量は、本機のご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
※6:バッテリパックは消耗品です。
※7:ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードは100V用(日本仕様)です。日本以外の国で使用する場合は、別途電源コードが必要です。
※8:18〜25℃、45〜75%での使用を推奨。

本体（LaVie Gシリーズ）

［網掛け］の項目の仕様は、ご使用のモデルによって異なります。

機種名		LG10N/RX57	LG80R/RX57
CPU		1.0GHz モバイル AMD Athlon™ H-series プロセッサ	800MHz モバイル AMD Duron™ プロセッサ
内蔵キャッシュメモリ		128Kバイト	
セカンドキャッシュメモリ		256Kバイト（CPU内蔵）	64Kバイト（CPU内蔵）
メモリ	ROM	512Kバイト（BIOSほか）	
	メインRAM	128Mバイト／192Mバイト／256Mバイト／384Mバイト	
	メインRAM 最大	384Mバイト（別売の増設RAMボード（256Mバイト）を取り付けた場合）	
	ビデオRAM	4Mバイト	
表示機能	表示素子[※1]	バックライト付14.1型TFTカラー液晶ディスプレイ（XGA）	
	ウィンドウアクセラレータ	ATi RAGE™ Mobility-M標準搭載（ビデオアクセラレーション機能対応）	
		640×480ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 800×600ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 1024×768ドット（26万色中256色／65536色／1677万色）	
	別売のCRTディスプレイ接続時	640×480ドット（16色／256色／65536色／1677万色） 800×600ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 1024×768ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 1280×1024ドット（26万色中256色／65536色／1677万色） 1600×1200ドット（26万色中256色／65536色）	
サウンド機能	サウンドチップ	ADI社製 AD1886搭載	
	PCM録音・再生機能	内蔵（ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz）、全二重化対応	
	MIDI音源機能	内蔵（拡張WAVE Table音源［WAVE Table音源最大64音］）	
	スピーカ	ステレオスピーカ	
	サラウンド	エンハンスド・ステレオ機能、3Dポジショナルサウンド	
通信機能	モデム	モデム内蔵（データ転送速度 最大56Kbps（V.90）エラー訂正V.42/MNP4データ圧縮V.42bis/MNP5）	
	FAX	内蔵（データ転送速度 最大14.4Kbps（V.17）FAX制御クラス1）	
	接続電話／PHSケーブル	なし／ケーブル添付 携帯電話：9.6Kbpsデータ通信／9.6Kbps・28.8Kbpsパケット通信（DoPa） cdmaOne：14.4Kbpsデータ通信／64Kbpsパケット通信（PacketOne） PHS（NTTドコモ／アステル）：32Kデータ通信／64Kデータ通信（PIAFS2.0） PHS（DDIポケット）：32Kデータ通信／64Kデータ通信（PIAFS2.1）	
	LAN	なし／LAN内蔵（100BASE-TX／10BASE-T）	
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列（英数・かな）、Fnキー（ホットキー対応）、12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付	
	ポインティングデバイス	NXパッド標準装備（スクロールボタン付）	

機種名		LG10N/RX57	LG80R/RX57
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ×1内蔵(720K/1.2M※2/1.44Mバイトタイプの3モードに対応)	
	固定ディスクドライブ※3	約10Gバイト/約20Gバイト/約30Gバイト	
	CD-R/RWドライブ※4・CD-R/RW with DVD-ROMドライブ※4	・CD-R/RWドライブの場合: 読み込み最大24倍速(CD-ROM)、書き込み最大8倍速、書き換え最大4倍速 ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブの場合: 読み込み最大24倍速(CD-ROM)/8倍速(DVD-ROM)、書き込み最大4倍速、書き換え最大4倍速	
インターフェイス		マウス/テンキーボード(PS/2タイプミニDIN6ピン)、パラレル(D-SUB25ピン)、シリアル(D-SUB9ピン、最高115.2Kbps対応)、ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン)、ビデオ出力(RCA×1)、USB×2、IEEE1394(4ピン)×1	
	サウンド関連	ライン入力(ステレオ、ミニジャック)、ヘッドホン出力/ライン出力共用(ステレオ、ミニジャック)、マイク入力(モノラル、ミニジャック) ライン入力インピーダンス10kΩ　入力レベル1Vrms マイク入力インピーダンス2.2kΩ　入力レベル5mVrms(バイアス2.5V) ライン出力レベル1Vrms	
PCカードスロット		TYPE Ⅱ×2スロット(TYPE Ⅲ×1スロットとしても使用可) PC Card Standard準拠、CardBus対応	
パワーマネージメント		自動または任意設定可能	
セキュリティ機能		ユーザパスワード機能、スーパバイザパスワード機能、盗難防止ロック(市販の盗難防止用ケーブルを使用)	
バッテリ駆動時間※5		約1.1〜1.8時間	
バッテリ充電時間※5(ON/OFF時)		約3.0/2.1時間(ON/OFF時)	
バッテリによるスタンバイ状態保持時間※5		約2日	
電源		ニッケル水素バッテリ(DC9.6V、3,800mAh)※6またはAC100V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由)※7	
消費電力		約18W(内蔵オプション最大接続時　約60W)	
温湿度条件		5〜35℃、20〜80%※8(ただし、結露しないこと)	
外形寸法		308(W)×262(D)×41〜44(H)mm	
質量※5		約3.5kg	

※1:液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのむらや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
※2:3モード対応フロッピーディスクドライバのセットアップが必要です。
※3:固定ディスク容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。
※4:Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。
※5:時間や質量は、本機のご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
※6:バッテリパックは消耗品です。
※7:ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードは100V用(日本仕様)です。日本以外の国で使用する場合は、別途電源コードが必要です。
※8:18〜25℃、45〜75%での使用を推奨。

内蔵FAXモデム機能仕様

機能概要

CPU I/F	PCIローカルバスインターフェイス
NCU部	•ダイヤルパルス送出機能 •リンガ検出機能
モデムチップセット部	•115.2Kbpsまでのデータ・モデム・スループット V.90 V.34 V.32bis V.32、V.22bis、V.22、V.21 V.42LAPMおよびMNP2-4エラー訂正 V.42bisおよびMNP5データ圧縮 •最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度 V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2 •HayesATコマンドセット準拠 ATコマンド Sレジスタ •回線品質モニタリングおよびオートリトレイン •受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 •フロー制御およびスピード・バッファリング •パラレル非同期データ •自動ダイヤルおよび自動アンサー •トーンおよびパルスダイヤリング （DTMFトーン、ダイヤルパルス制御）

FAX機能

項　目	規　格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps※
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	QAM:14400/12000/9600/7200bps
	DPSK:4800/2400bps
	FSK:300bps
送信レベル	-9～-15dBm（出荷時-15dBm）
受信レベル	-10～-40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド（CLASS 1）

※回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

データモデム機能

項　目	規　格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送受信　33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps※1
	受信　56000/54666/54333/54000/52000/50666/50000/49333/48000/46666/46000/45333/44000/42666/42000/41333/40000/38666/38000/37333/36000/34666/34000/33333/32000/30667/29333/28000bps※1
通信規格	ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21
変調方式	TCM:56000/54666/54333/54000/52000/50666/50000/49333/48000/46666/46000/45333/44000/42666/42000/41333/40000/38666/38000/37333/36000/34666/34000/33600/33333/32000/31200/30667/29333/28800/28000/26400/24000/21600/19200/16800/14400/12000/9600/7200bps QAM:9600/7200bps DPSK:4800/2400/1200bps FSK:1200/300bps
エラー訂正	ITU-T V.42(LAPM)
	MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis
	MNP class5
送信レベル	-9～-15dBm(出荷時-15dBm)
受信レベル	-10～-40dBm
制御コマンド	HayesATコマンド準拠※2

※1 回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。
※2 ATコマンドについては、以下のファイルを参照
C:¥Windows¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

NCU機能

項　目	規　格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル形式	パルスダイヤル(10/20PPS)
	トーンダイヤル(DTMF)
NCU形式	AA(自動発信/自動着信型)
制御コマンド	HayesATコマンド準拠
	EIA-578拡張ATコマンドAT(class 1)

携帯電話／PHS接続機能

携帯電話／PHS接続機能は、携帯電話／PHS接続ケーブルが添付の場合、または別売の携帯電話／PHS接続ケーブルを別途購入された場合のみ使用できます。

個別仕様

種　類	項　目	規　格
PHS(NTTドコモ／アステル)接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(PHS後位16芯)
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信: 29.2kbps(実効値)
		PIAFS 64Kデータ通信: 58.4kbps(実効値)
PHS(DDIポケット)接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(PHS後位12芯)
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信: 29.2kbps(実効値)
		PIAFS 64Kデータ通信: 58.4kbps(実効値)
携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(PDC5式携帯電話端末後位16芯)
	通信速度	9.6kbps(データ通信)9.6kbps(パケット通信) 28.8kbps(パケット通信)
cdmaOne接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(CDMA方式携帯電話端末後位18芯)
	通信速度	14.4kbps(データ通信)、64kbps(パケット通信)

共通仕様

項　目	規　格
制御コマンド	ATコマンド※
網制御機能	AA

※:ATコマンドについては、以下のファイルを参照

C:¥Windows¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

内蔵LAN機能仕様

内蔵LAN機能は、LAN内蔵モデルのみの機能です。

規格概要

項　目	規 格 概 要
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時:100Mbps 10BASE-T使用時:10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時:UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時:UTPカテゴリ3、4、5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
ステーション台数	最大1024台／ネットワーク
ステーション間距離 ネットワーク経路長※	100BASE-TX:最大約200m／ステーション間 10BASE-T:最大約500m／ステーション間 最大100m／セグメント
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式

※:リピータの台数など、条件によって異なります。

割り込みレベルとDMAチャネル

パソコンで使用できる周辺機器は、すべて「リソース」というものを使用しています。リソースには、大きく分けて「割り込みレベル(IRQ)」「DMAチャネル」などがあります。

割り込みレベルとDMAチャネルについて

パソコンで使用できる周辺機器は、すべて「リソース」というものを使用しています。リソースには、大きく分けて「割り込みレベル(IRQ)」「DMAチャネル」などがあります。
これらのリソースは、それぞれの機器ごとに違う設定をしなければなりません。リソースが複数の機器に割り当てられている状態(リソースの競合)では、機器が正常に使用できないばかりか、システム全体の動作も不安定になってしまいます。

◎ 割り込みレベル

「割り込みレベル(IRQ)」は、複数の機器から同時にCPUにアクセスしたときに、どのような順序で処理していくかを決めるものです。このパソコンでは、工場出荷時には次のように割り当てられています。

IRQ	インターフェイス	IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ	10	ACPI用システム割り込み
1	キーボード	11	アクセラレータ USBホストコントローラ サウンド 内蔵FAXモデム PCIステアリングホルダー
2	割り込みコントローラ		
3	(空き)		
4	通信ポート		
5	(空き)		
6	フロッピーディスクコントローラ	12	NXパッド
7	プリンタポート	13	数値データプロセッサ
8	システムクロック	14	IDEコントローラ(内蔵ハードディスク)
9	PCIステアリングホルダー 内蔵LAN カードバス IEEE1394ホストコントローラ	15	IDEコントローラ(内蔵CD-R/RWドライブまたは内蔵CD-R/RW with DVD-ROMドライブ)

◎ DMAチャネル

「DMAチャネル」は、CPUを経由せずに周辺機器とメモリとのデータのやり取りを制御する機能のことです。本機では、工場出荷時には次のように割り当てられています。

DMA	インターフェイス		
	デフォルト	プリンタポートをECPで使用する場合（#1使用時）	プリンタポートをECPで使用する場合（#3使用時）
#0	（空き）		
#1	（空き）	ECP	（空き）
#2	フロッピーディスクコントローラ		
#3	（空き）		ECP
#4	DMAコントローラ		

索　引

索引

英字

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

索引

わ行

活用ガイド
ハードウェア編

PC98-NX SERIES
LaVie
LL800R・LL700R

初版　2001年5月
NEC
P
853-810028-135-A